日本医歯薬研修協会

医歯薬で
確かな
合格力を

歯科衛生士国家試験
全国総合模擬試験

D-e-n-t-a-l H-y-g-i-e-n-i-s-t

解答・解説・
要点集(臨床系)

302

平成29年版出題基準による出題科目一覧

問題番号	科目
午前問題	
1	一、人体（歯・口腔を除く）の構造と機能
2	
3	
4	
5	二、歯・口腔の構造と機能
6	
7	
8	
9	三、疾病の成り立ち及び回復過程の促進
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	四、歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	
31	五、歯科衛生士概論
32	
33	
34	六、臨床歯科医学
35	
36	
37	
38	
39	
40	
41	
42	
43	
44	
45	
46	
47	
48	
49	
50	
51	
52	
53	
54	
55	
56	
57	
58	
59	
60	
61	
62	
63	七、歯科予防処置論
64	
65	
66	
67	
68	
69	
70	
71	
72	
73	

問題番号	科目
74	七、歯科予防処置論
75	
76	
77	
78	八、歯科保健指導論
79	
80	
81	
82	
83	
84	
85	
86	
87	
88	
89	
90	
91	
92	
93	
94	
95	
96	九、歯科診療補助論
97	
98	
99	
100	
101	
102	
103	
104	
105	
106	
107	
108	
109	
110	
午後問題	
1	一、人体（歯・口腔を除く）の構造と機能
2	
3	
4	
5	二、歯・口腔の構造と機能
6	
7	
8	三、疾病の成り立ち及び回復過程の促進
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	四、歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	
31	五、歯科衛生士概論
32	
33	
34	六、臨床歯科医学
35	
36	

問題番号	科目
37	六、臨床歯科医学
38	
39	
40	
41	
42	
43	
44	
45	
46	
47	
48	
49	
50	
51	
52	
53	
54	
55	
56	
57	
58	
59	
60	
61	
62	
63	七、歯科予防処置論
64	
65	
66	
67	
68	
69	
70	
71	
72	
73	
74	
75	
76	
77	
78	八、歯科保健指導論
79	
80	
81	
82	
83	
84	
85	
86	
87	
88	
89	
90	
91	
92	
93	
94	
95	
96	九、歯科診療補助論
97	
98	
99	
100	
101	
102	
103	
104	
105	
106	
107	
108	
109	
110	

解答一覧表

午前問題

問題	正解	問題	正解
1	d	56	b
2	b	57	d
3	d	58	c、d
4	a	59	a、c
5	d	60	a
6	a	61	c
7	c	62	a
8	a	63	c、d
9	d	64	a、b
10	a	65	d
11	c	66	b
12	b	67	a
13	a	68	b
14	b	69	b、c
15	a	70	c
16	d	71	a
17	c、d	72	a
18	c、d	73	b、d
19	a	74	b、d
20	a、d	75	a、d
21	d	76	b
22	c	77	b
23	a	78	c、d
24	c	79	b、c
25	c、d	80	a
26	d	81	a、d
27	a	82	c、d
28	d	83	d
29	a、b	84	a
30	d	85	b、d
31	a	86	c、d
32	d	87	a
33	a、d	88	c、d
34	a	89	a、d
35	d	90	b
36	a	91	a、b
37	a、c	92	c、d
38	c	93	c、d
39	b	94	c
40	a	95	a、d
41	b、c	96	b
42	d	97	c
43	c	98	a、c
44	c	99	a、d
45	b	100	d
46	d	101	b
47	b、c	102	c
48	c	103	c
49	c、d	104	d
50	a、c	105	c、d
51	a	106	a、d
52	d	107	a、b
53	c	108	a、d
54	d	109	a、c
55	a、b	110	c

午後問題

問題	正解	問題	正解
1	b	56	d
2	d	57	a
3	d	58	c
4	d	59	a
5	a	60	b
6	b	61	c
7	c	62	c
8	d	63	a、d
9	a	64	b、d
10	d	65	a、b
11	a	66	a、c
12	b	67	a、c
13	c	68	d
14	b	69	b
15	c	70	c、d
16	a	71	c
17	c	72	a、c
18	b	73	b
19	a、b	74	b
20	a、c	75	c
21	d	76	b
22	b、c	77	c、d
23	d	78	c、d
24	b、c	79	a、d
25	a	80	d
26	d	81	a、b
27	a、d	82	d
28	b、c	83	b、d
29	d	84	a、d
30	d	85	d
31	b	86	a、c
32	a、d	87	c
33	d	88	a、d
34	d	89	a
35	b	90	c、d
36	d	91	d
37	b	92	d
38	a、b	93	c
39	b、d	94	c、d
40	a	95	c、d
41	c	96	b、c
42	b	97	d
43	d	98	c、d
44	b、d	99	c
45	b、c	100	b
46	c、d	101	a
47	a、c	102	b
48	a、b	103	b、c
49	d	104	c
50	a、d	105	b、c
51	c、d	106	d
52	b	107	b
53	c	108	b
54	b	109	c
55	b	110	d

本書で使用しているアイコンについて

要点集 301：P○○

└ 例）301 号掲載

「巻末資料　要点集」に関連事項が掲載されております。
アイコンに記載された掲載号の該当ページを参照してください。

DH 21：P○○

└ 例）2021 年版掲載

弊社刊行「Complete+DH 歯科衛生士 国家試験完全攻略 2021 年版」に掲載された問題です。
アイコンに記載された掲載号の該当ページを参照してください。

302

午前問題……解答・解説

［問題　1］　下顎の前方運動に関与するのはどれか。1つ選べ。
　a　咬　筋
　b　顎二腹筋
　c　内側翼突筋
　d　外側翼突筋

▶解剖学

選択肢考察

× a　咬筋は閉口運動（下顎骨の挙上）に関与する。
× b　顎二腹筋は開口運動や後退運動に関与する。
× c　内側翼突筋は閉口運動や側方運動に関与する。
○ d　両側の外側翼突筋の収縮により下顎の前進が起こる。

正　解　d

要点集 301：P7

要　点

下顎骨に付着する筋はすべて下顎骨の運動と位置の調節に関わり、咀嚼筋や舌骨上筋群、顎二腹筋が関与する。下顎の前方運動時に働く筋は外側翼突筋である。

◉ 顎運動と関与する筋
- 開口運動：顎舌骨筋、顎二腹筋、オトガイ舌骨筋
- 閉口運動：咬筋、内側翼突筋、側頭筋
- 前進運動：外側翼突筋
- 後進運動：側頭筋、咬筋

［問題　2］　頭部の断面の模式図（**別冊午前** No. 1）を別に示す。
中咽頭はどれか。1つ選べ。
　a　①
　b　②
　c　③
　d　④

▶解剖学

選択肢考察

× a　①は上咽頭である。上咽頭は呼吸の経路である。
○ b　②は中咽頭である。鼻腔からの外気と口腔からの食物は中咽頭で交叉し、外気は喉頭へ、食物は下咽頭から食道へ進む。
× c　③は下咽頭で、食物の経路である。
× d　④は喉頭である。

No. 1

正　解　b

［問題　3］　歯根形成期にセメント質のみで結合したのはどれか。1つ選べ。
　a　歯内歯
　b　双生歯
　c　癒合歯
　d　癒着歯

▶解剖学

選択肢考察

歯根の形成は歯冠の形成が歯頸線まで到達した後、歯胚のエナメル器に由来するヘルトビッヒ上皮鞘が伸長し、歯根部歯乳頭細胞を象牙芽細胞へと誘導することで開始される。歯根象牙質の形成が進行すると歯小嚢の細胞が骨芽細胞、線維芽細胞、セメント芽細胞へと分化し、歯周組織の形成が始まる。設問にある「セメント質のみで結合した」とは、それ以外の歯質は別個に存在することを表す。

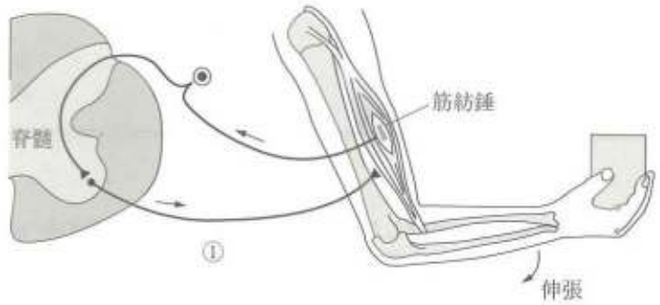
× a　歯内歯は、歯冠部の象牙質がエナメル質とともに歯髄腔側に陥入している歯の形態異常で上顎前歯に多い。
× b　双生歯は、1つの歯胚が2つに分かれたとする説と、正常歯の歯胚と過剰歯の歯胚が1つに癒合したものとする説とがある。ほとんど同じ大きさの2つの歯が共通の歯髄腔と1本の歯根をもったものである。
× c　癒合歯は隣接する2つの歯胚が発生の途上で互いに融合し1つになったもので、エナメル質、象牙質、歯髄の一部を共有する。歯冠のみで共有するものが多いが、歯根まで共有していることもある。
○ d　癒着歯は2つの歯がセメント質のみで結合しているものをいう。エナメル質、象牙質、歯髄は別個である。歯根が隣接歯間で近接しているところに多く、上顎大臼歯で多い。

正　解　d

要　点

◉ 歯の主な形態異常
1. 上顎側切歯で多くみられる形態異常：a. 盲　孔　b. 斜切痕　c. シャベル型切歯
　d. 歯内歯　e. 円錐歯
2. 上顎第一小臼歯でみられる形態異常：a. 介在結節（近心辺縁部）
3. 下顎第二小臼歯でみられる形態異常：a. 中心結節
4. 上顎大臼歯でみられる形態異常：a. カラベリー結節（近心舌側面）
　b. 臼傍結節（近心頬側隅角）
　c. 台状根（タウロドントとは厳密には異なる形態異常である）
5. 下顎大臼歯でみられる形態異常：a. プロトスタイリッド（近心頬側面）
　b. 第六咬頭（遠心舌側咬頭と遠心咬頭との間）
　c. 第七咬頭（近心舌側咬頭と遠心舌側咬頭との間）
　d. 樋状根（頬側で近心根と遠心根が癒合）
　e. エナメル突起（頬側歯頸部）
6. 下顎第一乳臼歯でみられる形態異常：a. トリゴニード切痕（近心辺縁隆線と近心舌側咬頭との間）

［問題　4］　伸張反射の図を示す。



① の神経線維はどれか。1つ選べ。

a　A α線維
b　A β線維
c　A γ線維
d　A δ線維

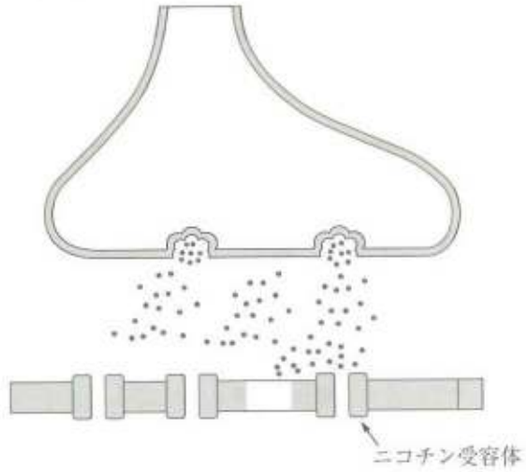
▶解剖学

選択肢考察

○a　伸張反射とは、筋紡錘の一次感覚終末を受容器とした反射で、筋の長さを一定に保つことに有効に働く反射である。① は伸長された筋を支配する運動神経線維（A α線維）である。
×b　A β線維は触覚や圧覚に関与する求心性の神経線維である。
×c　A γ線維は筋紡錘を支配する遠心性の神経線維である。
×d　A δ線維は痛覚に関与する求心性の神経線維である。

正解　a

［問題　5］　神経筋接合部の模式図を示す。



シナプス前膜から放出されるのはどれか。1つ選べ。

a　ヒスタミン
b　アドレナリン
c　γ-アミノ酪酸
d　アセチルコリン

▶生理学

選択肢考察

○d　神経筋接合部とは、運動神経終末と骨格筋組織の接着部で神経終板ともいわれる。シナプスを介して活動電位が筋組織に伝わるが、このシナプスではアセチルコリンが伝達物質となる。骨格筋上にはニコチン受容体が存在する。

正解　d

［問題　6］　浮腫の原因で正しいのはどれか。1つ選べ。

a　リンパ管の閉塞
b　血管透過性の低下
c　毛細血管内圧の低下
d　血漿膠質浸透圧の増加

▶生理学

選択肢考察

○a　浮腫（水腫）は組織間質液の増加によって生じるもので、以下の要因がある。
① 毛細血管透過性の亢進：炎症、アレルギー反応など
② 毛細血管内圧（静水圧）の上昇：Na^+貯留による血液量増加（腎不全）、静脈還流障害（うっ血性心不全）
③ 血漿膠質浸透圧の低下：低アルブミン血症など
④ 間質液（組織液）の膠質浸透圧上昇
⑤ リンパ流の停滞、減少、リンパ管の閉塞：癌のリンパ節転移（癌性リンパ管症）、放射線障害など

正解　a

［問題　7］　交感神経の興奮で生じるのはどれか。1つ選べ。
　a　縮　瞳
　b　気管支収縮
　c　心拍数増加
　d　消化管運動亢進

▶生理学

選択肢考察

× a　交感神経の興奮により散瞳がみられる。
× b　交感神経の興奮により気管支は拡張する。
○ c　交感神経の興奮により心機能は亢進し、心拍数は増加する。
× d　交感神経の興奮により消化管の運動は抑制される。

正　解　c

［問題　8］　食塊形成を円滑にする唾液成分はどれか。1つ選べ。
　a　ムチン
　b　アミラーゼ
　c　スタテリン
　d　リゾチーム

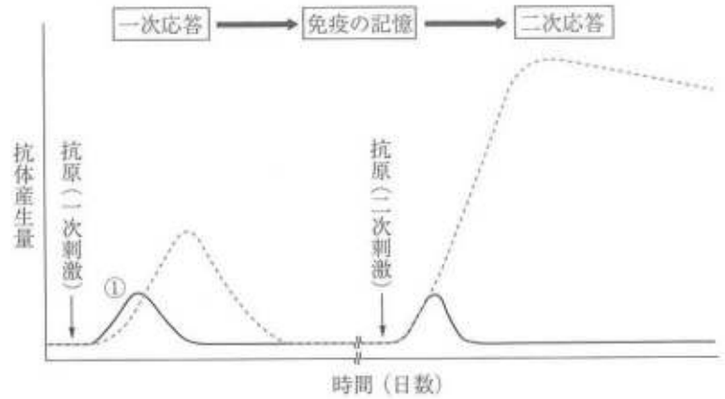
▶生理学

選択肢考察

○ a　ムチンは唾液に含まれる粘液性糖タンパクで、粘膜や上皮、歯を保護している。そのほか、口唇や舌、頬、顎運動の円滑化や、構音、嚥下、咀嚼、食塊形成を助ける役割をもつ。
× b　アミラーゼは唾液中に含まれる消化酵素である。
× c　スタテリンは再石灰化に関与するカルシウム反応性タンパクである。
× d　リゾチームは唾液、涙、鼻汁などに含まれ、細菌細胞壁ペプチドグリカンを水解・溶解する抗菌因子の1つである。

正　解　a

［問題　9］　抗原感染後の抗体産生の図を示す。



① はどれか。1つ選べ。
　a　IgA
　b　IgE
　c　IgG
　d　IgM

▶病理学

選択肢考察

○ d　抗体産生は、初めて抗原刺激が加わった場合と、感作が成立しているときでは応答の状態が異なる。一次応答（初回感染時）では、ある程度の時間をおいて IgM 抗体が産生され、少し遅れて IgG 抗体が上昇する。二次応答では、免疫後早期に多量の IgG 抗体が産生される。

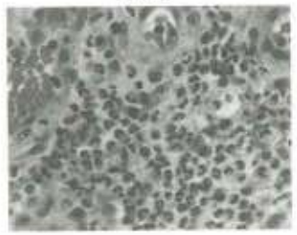
正　解　d

要点集 301：P30

［問題　10］　急性化膿性根尖性歯周炎の炎症巣から得られた膿汁の顕微鏡写真（**別冊午前** No. 2）を別に示す。
　主体を占める炎症細胞はどれか。1つ選べ。
　a　好中球
　b　リンパ球
　c　形質細胞
　d　マクロファージ

▶病理学

No. 2



選択肢考察

○ a　急性化膿性炎では好中球が増加する。好中球は中型の顆粒球であり、感染に際して速やかに出現する細胞である。
× b、× c、× d　リンパ球、形質細胞、マクロファージは慢性炎症時に増加する。

正　解　a

［問題　11］ 抗原提示するのはどれか。1つ選べ。
- a　血小板
- b　NK 細胞
- c　樹状細胞
- d　好塩基球

▶微生物学

選択肢考察

× a　血小板は一次止血に関与する細胞である。
× b　自然免疫は、生まれつき備わっていて、迅速に働く抗原火特異的な防御機構である。感染初期の生体防御として重要であり、この免疫を担う細胞は、好中球やマクロファージ、NK 細胞である。
○ c　樹状細胞は、抗原をT細胞に提示する抗原提示細胞である。
× d　好塩基球はⅠ型アレルギーに関与する細胞である。

正　解　c

要点集 301：P 20

［問題　12］ グラム陽性菌に存在するのはどれか。1つ選べ。
- a　LPS
- b　莢　膜
- c　外　膜
- d　ミトコンドリア

▶微生物学

選択肢考察

× a　LPS（リポ多糖）はグラム陰性菌に存在する内毒素である。
○ b　莢膜は、菌体の最外層にある細胞壁や外膜のさらに外側に存在し、菌が産生した粘液性の物質である。
× c　外膜はグラム陰性菌に特有の膜様構造物で、薄いペプチドグリカン層の外側に存在する。
× d　原核生物にミトコンドリアは存在しない。

正　解　b

要点集 301：P 33

［問題　13］ 顎放線菌症の病巣から高頻度で検出されるのはどれか。1つ選べ。
- a　*Actionomyces israelii*
- b　*Aggregatibacter actinomycetemcomitans*
- c　*Prevotella intermedia*
- d　*Streptococcus salivarius*

▶微生物学

選択肢考察

○ a　*A. israelii* は、顎放線菌症患者の病巣から高頻度で検出される。
× b　*A. actinomycetemcomitans* は侵襲性歯周炎で高頻度に検出される。
× c　*P. intermedia* は黒色色素産生性のグラム陰性偏性嫌気性桿菌で、ヒトの歯肉溝から分離される。慢性歯周炎の原因菌の1つであり、そのほかにも妊娠性歯肉炎や壊死性潰瘍性歯肉炎にも関与している。
× d　*S. salivarius* は唾液や舌表面に分布する口腔レンサ球菌の一種である。

正　解　a

［問題　14］ 血小板凝集抑制作用をもつのはどれか。1つ選べ。
- a　ペニシリン
- b　アスピリン
- c　ワルファリン
- d　テトラサイクリン

▶薬理学

選択肢考察

× a　ペニシリンは抗菌薬であり、血小板凝集抑制作用はない。
○ b　アスピリンは非ステロイド性抗炎症薬の一つで、抗炎症作用のほかにも解熱鎮痛作用、血小板凝集抑制作用などをもつ。
× c　ワルファリンは抗凝固薬の一つで、血液凝固因子の産生に必要なビタミンKを阻害することで抗凝血作用を示す。
× d　テトラサイクリンは抗菌薬であり、血小板凝集抑制作用はない。

正　解　b

［問題　15］ 小児の薬用量の算定で年齢を用いるのはどれか。1つ選べ。
- a　Augsberger の式
- b　Clark の式
- c　Crawford の式
- d　Hamburger の式

▶薬理学

選択肢考察

小児の薬用量の算定には、年齢を用いるもの、体重を用いるもの、体表面積を用いるものがある。体表面積は、小児の薬用量の算定に最も適切である。

○ a　Augsberger の式：小児の薬用量＝｜年齢×4＋20／100｜×成人量
× b　Clark の式：小児の薬用量＝｜体重（ポンド）／150｜×成人量
× c　Crawford の式：小児の薬用量＝体表面積（m^2）／1.73×成人量
× d　Hamburger の式：小児の薬用量＝体重（kg）／70×成人量

正　解　a

要　点

◉ 小児薬用量の算定
1．年齢を基準：① Augsberger の式
　　② Young の式
2．体重を基準：① Hamburger の式
　　② Clark の式
3．体表面積を基準：① Crawford の式

［問題　16］ プラーク1g（湿重量）に含まれる細菌数はどれか。1つ選べ。

a　10^8
b　10^9
c　10^{10}
d　10^{11}

▶口腔衛生学

選択肢考察

○d　プラークは、湿重量1gあたり1.0～2.5×10^{11}個の細菌を含んでおり、プラーク容量の約70%は細菌細胞である。

正解　d

［問題　17］ 歯ブラシの脇腹を使うブラッシング法はどれか。**2つ選べ。**

a　バス法
b　フォーンズ法
c　ローリング法
d　チャーターズ法

▶口腔衛生学

選択肢考察

×a、×b　バス法、フォーンズ法、スクラッビング法、1本ずつの縦磨き法は、歯ブラシの毛先を主に使うブラッシング法である。
○c、○d　ローリング法、スティルマン法、スティルマン改良法、チャーターズ法は、歯ブラシの脇腹を主に使う方法である。

正解　c、d

［問題　18］ 歯磨剤に配合される基本成分と目的の組合せで正しいのはどれか。**2つ選べ。**

a　硝酸カリウム ―――― 知覚過敏予防
b　安息香酸ナトリウム ―――― プラークの除去
c　アルギン酸ナトリウム ―――― 固体成分と液体成分の結合
d　ラウリル硫酸ナトリウム ―――― 口腔内で歯磨剤を拡散

▶口腔衛生学

選択肢考察

×a　硝酸カリウムは、知覚過敏予防を目的として配合される薬効成分で、基本成分ではない。
×b　安息香酸ナトリウムは、保存剤として配合される基本成分である。
○c　アルギン酸ナトリウムは、固体成分と液体成分の結合を目的として配合される基本成分（粘結剤）である。
○d　ラウリル硫酸ナトリウムは、口腔内での歯磨剤を拡散させることを目的として配合される基本成分（発泡剤）である。

正解　c、d

DH21：P126

［問題　19］ 平均的な歯の萌出状態で正しいのはどれか。1つ選べ。

a　1歳6か月児 ―――― DCBA|ABCD / DCBA|ABCD
b　2歳6か月児 ―――― DCBA|ABCD / EDBA|ABDE
c　6歳児 ―――― EDCB1|1BCDE / EDCB1|1BCDE
d　8歳児 ―――― 6ED321|123DE6 / 6ED321|123DE6

▶口腔衛生学

選択肢考察

○a　1歳では上下顎4乳切歯が萌出し、次いで第一乳臼歯、乳犬歯と続き、1歳6か月では歯式の萌出状態となる。
×b　2歳6か月では一般的にすべての乳歯が萌出している。
×c　6歳児は下顎第一大臼歯と下顎中切歯とがほとんど同時に萌出している。上顎中切歯は7歳過ぎである。
×d　8歳児では上下顎第一大臼歯および上下顎切歯は萌出しているが、犬歯の萌出は10歳頃である。

正解　a

［問題　20］ う蝕発生の細菌性要因はどれか。**2つ選べ。**

a　歯垢の量
b　歯質の耐酸性
c　唾液の緩衝能
d　う蝕原因菌の数

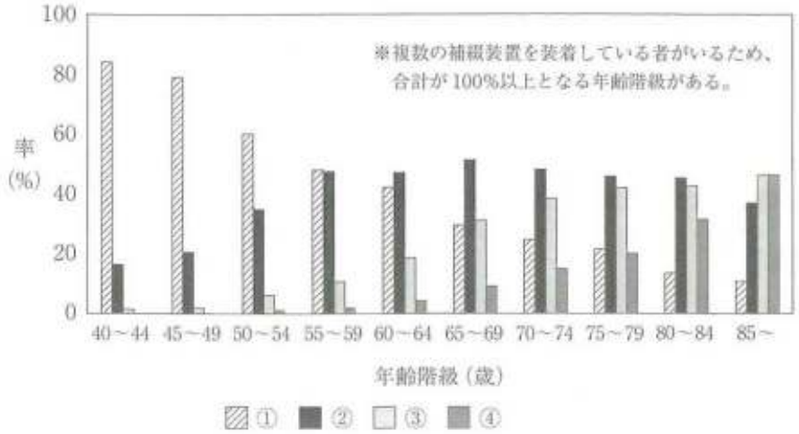
▶口腔衛生学

選択肢考察

○a　歯垢の量は細菌性要因である。歯垢を構成する不溶性グルカンは、ミュータンスレンサ球菌によって合成される。
×b　う蝕は細菌が産生する酸によって発症する。歯質の耐酸性はう蝕抵抗性に重要な因子であり、宿主要因である。
×c　唾液の緩衝能は宿主要因である。唾液の分泌量や緩衝能は、う蝕の発生や進行に大きな影響を与える。
○d　う蝕の進行には、う蝕原因菌が合成する不溶性多糖および酸が関与する。これらはう蝕原因菌の数に依存するため、細菌性要因である。

正解　a、d

［問題　21］ 平成28年歯科疾患実態調査における各種補綴装置装着者と未装着者の割合を図に示す。本調査における補綴装置とはブリッジ、全部床義歯、部分床義歯およびインプラントをいう。



① はどれか。1つ選べ。
a　ブリッジ装着者
b　全部床義歯装着者
c　部分床義歯装着者
d　補綴装置未装着者

▶口腔衛生学

選択肢考察

× a　ブリッジ装着者は②である。
× b　全部床義歯装着者は④である。
× c　部分床義歯装着者は③である。
○ d　補綴装置未装着者は①である。

正　解　d

［問題　22］ スクリーニング検査で低率が望ましいのはどれか。1つ選べ。
a　特異度
b　敏感度
c　偽陰性率
d　陽性反応適中度

▶口腔衛生学

選択肢考察

スクリーニング検査は、迅速に実施できる試験や検査を用いることにより、疾病や傷害のある者とない者をある限度をもってふるい分けることができる。スクリーニングの評価項目には、敏感度、特異度、陽性反応適中度、陰性反応適中度、偽陰性率、偽陽性率がある。このうち、敏感度、特異度、陽性反応適中度、陰性反応適中度は検査が当たった割合であり、偽陰性率、偽陽性率は検査が外れた割合を示している。
× a　特異度は「健康な者で検査陰性者の割合」を示しており、高率が望ましい。
× b　敏感度は「患者で検査陽性者の割合」を示しており、高率が望ましい。
○ c　偽陰性率は「患者で検査結果陰性の割合」を示しており、低率が望ましい。
× d　陽性反応適中度は「検査陽性の者で患者の割合」を示しており、高率が望ましい。

正　解　c

要　点

◉ スクリーニング検査

		疾患 あり	疾患 なし
検査結果	陽性	a 真陽性	b 偽陽性
	陰性	c 偽陰性	d 真陰性

敏感度＝a／（a＋c）
特異度＝d／（b＋d）

［問題　23］ 災害発生直後に被災地に急行し、48時間以内を目途に活動する医療救護チームはどれか。1つ選べ。

a　DMAT
b　JICA
c　SAT
d　UNICEF

▶衛生学・公衆衛生学

選択肢考察

○a　災害発生直後に被災地に急行し、48時間以内を目途に活動する医療救護チームをDMATという。それ以降は、日本医師会災害医療チーム（JMAT）や日赤救護班などのさまざまな医療救護チームが活動を開始する。

×b　JICAは独立行政法人国際協力機構で、政府開発援助（ODA）の実施機関の一つであり、開発途上地域等の経済及び社会の発展に寄与し、国際協力の促進に資することを目的としている。

×c　SAT（特殊急襲部隊）は、日本の警察の警備部に編成されている特殊部隊で、対テロ作戦を担当しており、ハイジャックや重要施設占拠等の重大テロ事件、組織的な犯行や強力な武器が使用されている事件において、被害者等の安全を確保しつつ事態を鎮圧し、被疑者を検挙することをその主たる任務としている。

×d　UNICEF（国際連合児童基金）は、開発途上国・戦争や内戦で被害を受けている国の子供の支援を活動の中心としている他、「児童の権利に関する条約（子どもの権利条約）」の普及活動にも努めている。

正解　a

［問題　24］ ヘルスプロモーション活動はどれか。1つ選べ。

a　介護施設の拡充
b　がん検診の実施
c　ウォーキングイベントの開催
d　摂食・嚥下リハビリテーションの実施

▶衛生学・公衆衛生学

選択肢考察

○c　ヘルスプロモーションは1986年に世界保健機関（WHO）によって提唱された、人々の健康の維持・増進のための活動・戦略である。世界保健機関の定義では「人々が自らの健康をコントロールし、改善することができるようにするプロセス」とされている。この定義はその後、2005年のバンコク憲章で「人々が自らの健康とその決定要因をコントロールし、改善することができるようにする過程」と変更されている。また、ヘルスプロモーションの特徴として最も重要なのが「主役は住民」であり、彼らの毎日の生活に着目し、健康づくりは人々の生活の場で行っていくということである。

正解　c

［問題　25］ 毎年調査が行われるのはどれか。2つ選べ。

a　国勢調査
b　歯科疾患実態調査
c　学校保健統計調査
d　国民健康・栄養調査

▶衛生学・公衆衛生学

選択肢考察

×a　国勢調査は、ある時点における人口及び、その性別や年齢、配偶の関係、就業の状態や世帯の構成といった「人口及び世帯」に関する各種属性のデータを調べることを目的として、5年に一度実施される。

×b　歯科疾患実態調査は、歯科保健状況を把握し、歯科口腔保健の推進に関する基本的事項及び健康日本21（第二次）において設定した目標の評価等、今後の歯科保健医療対策を推進するための基礎資料を得ることを目的として、5年に一度実施される。

○c　学校保健統計調査は、学校における幼児、児童及び生徒の発育及び健康の状態を明らかにすることを目的として、毎年実施されている。

○d　国民健康・栄養調査は、国民の身体の状況、栄養摂取量及び生活習慣の状況を明らかにし、国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基礎資料を得ることを目的として、毎年実施されている。

正解　c、d

［問題　26］ 産業廃棄物管理票（マニフェスト）の保存期間はどれか。1つ選べ。

a　1年
b　2年
c　3年
d　5年

▶衛生学・公衆衛生学

選択肢考察

○d　感染性廃棄物の処理は、原則として医療関係機関の施設内で、焼却、溶融、滅菌、消毒などの処理をしなければならない。処理を外部に委託する場合は、特別管理産業廃棄物処理業者と委託契約を結んで処理を行う必要がある。その際、医療関係機関は運搬から最終処分まで廃棄物処理の流れを撮影し、確実に行われたことを処理業者から送られてくるマニフェスト（産業廃棄物管理票）の写しで確認する必要がある。マニフェストは5年間の保存が義務付けられている。

正解　d

［問題　27］ 感染症予防における病原体対策はどれか。1つ選べ。

a　検　疫
b　予防接種
c　マスクの着用
d　媒介動物の駆除

▶衛生学・公衆衛生学

選択肢考察

○a　感染症予防には、感染症成立のための三要因（病原体対策、感染経路対策、宿主感受性対策）に対する対応策が基本となる。検疫は病原体対策である。
×b　予防接種は宿主感受性対策である。
×c、×d　感染経路対策における直接伝播防止として、衛生教育、マスクやゴム手袋の使用、間接伝播防止として飲料水の消毒、媒介動物の駆除などが行われる。

正　解　a

［問題　28］ エビデンスレベルが最も高いのはどれか。1つ選べ。

a　コホート研究
b　症例対照研究
c　非ランダム化比較試験
d　システマティックレビュー

▶衛生学・公衆衛生学

選択肢考察

エビデンスとは科学的な根拠という意味である。エビデンスレベルとは、ガイドラインが推奨する検査法や治療法が、どの程度信頼できるエビデンスによって実証されているのかを示す指標である。
○d　要点 参照。

正　解　d

要　点

◉ エビデンスレベル（高い順に）
システマティックレビュー／メタアナリシス
∨
1つ以上のランダム化比較試験
∨
非ランダム化比較試験（非無作為化比較対照試験）
∨
縦断研究（コホート研究、症例対照研究）
∨
横断研究
∨
症例報告（症例研究／症例報告）
∨
専門委員会や専門家個人の意見

［問題　29］ 児童福祉法で規定されているのはどれか。**2つ選べ。**

a　児童の健康診断
b　児童相談所の設置
c　未熟児の訪問指導
d　自立支援医療費の支給

▶衛生学・公衆衛生学

選択肢考察

我が国の児童福祉制度は、児童福祉法を基本として様々な行政機関や施設、専門職のはたらきや実践によって推進されている。児童福祉法では、「すべて児童は、ひとしくその生活を保障され、愛護されなければならない」と規定されている。なお、同法では、「児童」の定義を「満18歳に満たない者」と規定している。
○a　通常、児童の健康診断を規定するのは対象児童の年齢等により、母子保健法、学校保健安全法であるが、児童福祉法においても、児童福祉法における保健所の役割として、第12条の6に児童の健康相談に応じ、又は健康診査を行い、必要に応じ、保健指導を行うことと規定がある。
○b　児童相談所は、市町村と適切な役割分担・連携を図りつつ、子どもに関する家庭その他からの相談に応じ、子どもが有する問題等、子どもの置かれた環境の状況等を的確に捉え、個々の子どもや家庭に最も効果的な援助を行い、もって子どもの福祉を図るとともに、その権利を擁護することを主たる目的として児童福祉法に基づいて、都道府県、指定都市に設置される行政機関である。配置される職員は、児童福祉司（ソーシャルワーカー）、児童心理司、医師などの専門家から構成されている。
×c　未熟児の訪問指導は母子保健法の規定である。
×d　心身の障害を除去・軽減するための医療について、医療費の自己負担額を軽減する公費負担医療制度であるところの自立支援医療は、障害者総合支援法に基づいている。

正　解　a、b

302
午前問題
午後問題
歯内療法
保存修復
歯周疾患
歯科補綴
歯科矯正
小児歯科
口腔外科
放射線

［問題　30］ 介護支援専門員の業務はどれか。1つ選べ。
　a　栄養指導
　b　食事介護の指導
　c　生活保護認定の申請
　d　介護サービス計画の作成

▶衛生学・公衆衛生学

選択肢考察

×a　栄養指導とは、管理栄養士が、食生活に不安のある者や病気によって食事制限のある患者を対象に、その病態に応じた食事相談や食事療法を提案するものである。

×b　身体介護とは、(1) 利用者の身体に直接接触して行う介助サービス（そのために必要となる準備、後かたづけ等の一連の行為を含む）、(2) 利用者の日常生活動作能力（ADL）や意欲の向上のために利用者と共に行う自立支援のためのサービス、(3) その他専門的知識・技術（介護を要する状態となった要因である心身の障害や疾病等に伴って必要となる特段の専門的配慮）をもって行う利用者の日常生活上・社会生活上のためのサービスをいう。一般的には、ホームヘルパーや介護福祉士などが行う。食事介護（食事介助）の指導も身体介護に含まれる。

×c　生活保護の申請は、申請者の現住所の地域を所管する福祉事務所の生活保護担当に本人が行う。

○d　介護保険サービスを受ける場合、在宅介護、施設介護ともに介護サービス計画（ケアプラン）が必ず必要となる。介護サービス計画（ケアプラン）とは、介護を必要とする者が適切なサービスを利用できるように、心身の状態や家庭の状況などを考えて、サービスの種類・内容・担当者を定めた計画書のことである。
要介護者、要支援者のどちらにもケアプランは必須で、要介護者の場合は「ケアプラン」、要支援者の場合は「介護予防ケアプラン」と呼ばれる。介護サービス計画は、自分自身で作成することも可能であるが一般的には、要介護者のケアプランは、民間事業者である「居宅介護支援事業所」に所属する介護支援専門員（ケアマネジャー）が作成し、要支援者の介護予防ケアプランは利用者が住む地域を担当する地域包括支援センターが作成する。なお、介護サービス計画作成に関する費用は全額介護保険から給付されるので、事業者に依頼しても利用者負担はない。

正解　d

［問題　31］ 歯科衛生士法における業務従事届出で正しいのはどれか。1つ選べ。
　a　2年ごとの届出義務がある。
　b　すべての有資格者に届出義務がある。
　c　保健所長に届け出なければならない。
　d　1月15日現在の業務就業先を届け出る。

▶歯科衛生士概論

選択肢考察

○a、×c、×d　業務に従事する歯科衛生士は、厚生労働省令で定める二年ごとの年の十二月三十一日現在における氏名、住所その他厚生労働省令で定める事項を、当該年の翌年一月十五日までに、その就業地の都道府県知事に届け出なければならない。

×b　届出は歯科衛生士としての業務に従事している者に限られる。

正解　a

DH21：P185

［問題　32］ 歯科医師の指導の下、歯科衛生士が行えるのはどれか。1つ選べ。
　a　咬合調整
　b　インレーの装着
　c　エックス線撮影
　d　フッ化物歯面塗布

▶歯科衛生士概論

選択肢考察

歯科衛生士法において歯科衛生士とは、厚生労働大臣の免許を受けて、歯科医師（歯科医業をなすことのできる医師を含む。）の指導の下に、歯牙及び口腔の疾患の予防処置として、歯牙露出面及び正常な歯茎の遊離縁下の付着物及び沈着物を機械的操作によって除去すること及び歯牙及び口腔に対して薬物を塗布することを業とする者である。また、歯科診療の補助、歯科保健指導をなすことを業とすることができる。

×a、×b、×c　原則、予防処置、歯科診療補助、歯科保健指導以外の業務は行えない。

○d　予防処置として、歯科医師の指導の下に歯牙及び口腔に対して薬物を塗布することができる。

正解　d

DH21：P251

［問題　33］ 上顎右側臼歯部の疼痛を主訴とする患者の診療録記載内容のうち、SOAPの「S」にあたるのはどれか。**2つ選べ。**
　a　2日前に冷水痛があった。
　b　視診でう窩が認められる。
　c　コンポジットレジン修復をする。
　d　審美的な歯科治療を希望している。

▶歯科衛生士概論

選択肢考察

SOAPとは、問題指向型診療録〈POMR〉の書式の1つである。POS〈Problem Oriented System：問題志向型医療〉の考え方によって得られたデータを内容ごとに分類・整理した上で、下記のようにS、O、A、Pの4つの項目に分けて考える分析手法でもある。

- S (Subjective Date)：主観的情報。患者の話や病歴など。
- O (Objective Date)：客観的情報。身体診察・検査から得られた情報。
- A (Assessment)：SとOの情報の評価。
- P (Plan)：上記をもとにした治療方針。

○a　「2日前に冷水痛があった」は患者の現病歴で、「S」にあたる。

×b　「視診でう窩が認められる」は患者の口腔内の視診から得られた情報で、「O」にあたる。

×c　「コンポジットレジン修復をする」は治療方針で「P」にあたる。

○d　「審美的な歯科治療を希望している」は患者の希望で、「S」にあたる。

正解　a、d

DH21：P732

［問題　34］ 医の倫理の変遷において、人権意識の高揚とともに否定されたのはどれか。1つ選べ。
- a　パターナリズム
- b　セカンドオピニオン
- c　プロフェッショナリズム
- d　インフォームド・コンセント

▶歯科臨床の基礎

選択肢考察

○a　医の倫理に関しては、古代ギリシアの「ヒポクラテスの誓い」以降、伝統的に医療については専門家である医師に任せ、医師は親が子を思う気持ちと同等な思いをもって患者に尽くすこと（パターナリズム（父権主義））が強調されてきた。
しかし、20世紀半ばになると医療の急速な進歩や、医療情報の普及により医療に対する国民の関心が増大し、医療を受ける患者の権利が主張されるようになってきた。また、ニュールンベルグ綱領を受けて、第18回WMA総会（1964）では、ヒトを対象とする医学的研究における被験者の人権擁護を目的として「ヘルシンキ宣言」を採択し、インフォームド・コンセントが不可欠であることを宣言した。1981年には、医師は、常に自らの良心に従い、また常に患者の最善の利益のために行動すべきであると同時に、それと同等の努力を患者の自律性と正義を保証するために払わねばならないとする患者の権利に関するWMAリスボン宣言が、第34回WMA総会で採択された。これまでのように、患者を被護者として取り扱うのではなく、医師と患者の立場は人間としては対等であり患者の意思を尊重しようとするもので、パターナリズムに基づく医療が考え直されるようになった。

×b　診断や治療選択などについて、現在診療を受けている担当医とは別に、違う医療機関の医師に求める「第2の意見」をセカンドオピニオンという。患者の権利の行使である。

×c　臨床能力（医学的知識）・コミュニケーション技術・倫理的および法的解釈という土台の上に立てられた「卓越性」「人間性」「説明責任」「利他主義」の4点を医師のプロフェッショナリズムと定義している。

×d　インフォームド・コンセントでは、患者が医師から診療内容などについて十分な説明を受け理解した上で、患者自身が同意し、最終的な治療方法を選択する。我が国では医療法を根拠法令としている。

正解　a

［問題　35］ 口腔ジスキネジアを伴う患者の医療面接に際して聴取すべき服用歴はどれか。1つ選べ。
- a　抗菌薬
- b　抗凝固薬
- c　抗ウイルス薬
- d　抗パーキンソン病薬

▶歯科臨床の基礎

選択肢考察

ジスキネジアは運動異常を意味し、口腔ジスキネジアには口部ジスキネジア、口舌ジスキネジアがある。これらは舌・唇・下顎などにみられ、何かを食べているような運動を繰り返す不随意運動である。原因には高齢や内服薬の副作用がある。抗精神病薬などの長期服用やパーキンソン病治療薬などドーパミン作動薬の投与により出現する。従って、これらの薬物を選択する。

×a　抗菌薬の長期服用の副作用により、耐性菌の出現や、肝・腎機能障害を呈することがあるが、ジスキネジアはみられない。

×b　抗凝固薬の服用は、投与量によっては易出血の副作用があるが、ジスキネジアはみられない。

×c　抗ウイルス薬の副作用には、スティーブンス・ジョンソン症候群などがある。ジスキネジアはみられない。

○d　抗パーキンソン病薬によりドーパミン受容体の感受性が過剰となり、ドーパミン受容体での抑制・促進のバランスが崩れ、ジスキネジアが生じる。

正解　d

［問題　36］ PCR法で増幅するのはどれか。1つ選べ。
- a　DNA
- b　細　菌
- c　抗　体
- d　タンパク質

▶歯科臨床の基礎

選択肢考察

○a　PCR法（ポリメラーゼ連鎖反応）はDNAを増幅するための手法で、特定のDNA断片だけを増幅することができる。PCR法は、個人識別や親子鑑定、ウイルス感染症の検査に用いられる。

正解　a

［問題　37］ 人体における放射線影響の発現でしきい線量があるとされるのはどれか。**2つ選べ。**
a　不　妊
b　口腔癌
c　白内障
d　白血病

▶歯科臨床の基礎

選択肢考察

放射線の人体に対する影響は、線量と放射線による影響が起こる確率の関係から、確率的影響と確定的影響とに分類される。被曝線量の増加とともに影響が起こる確率について、しきい線量なしに増加するものを確率的影響、しきい線量のあるものを確定的影響という。
○a、○c　不妊、白内障はしきい線量のある確定的影響である。
×b、×d　口腔癌、白血病などの悪性腫瘍の出現はしきい線量のない確率的影響である。

正　解　a、c

DH 21：P 261

［問題　38］ 二重同時印象法〈ダブルミックス印象法〉に使用するのはどれか。1つ選べ。
a　寒天印象材
b　アルジネート印象材
c　シリコーンゴム印象材
d　モデリングコンパウンド

▶保存修復学

選択肢考察

○c　二重同時印象法は別名、シリコーンダブルミックス印象法ともいう。従って使用する印象材はシリコーンゴム印象材である。

正　解　c

要　点

◉ **連合印象法と二重同時印象法**
どちらも使用する印象材は流動性の異なるシリコーンゴム印象材を用いて行う。
違いについては下表を参照。

	ステップ数	作業時間	精度	操作
連合印象法	2ステップ	長い	○	一人で可能 精度の良い印象を得るには、印象圧の緩和と、撤去時の応力残留を防ぐ工夫が必要
二重同時印象法	1ステップ	短い	◎	作業者が二人必要 圧接のタイミングが悪いと境界面にステップができるため、手際のよい操作が求められる

［問題　39］ 58歳の男性。上顎右側第一小臼歯と第二小臼歯の一過性の冷水痛を主訴として来院した。30年前に直接修復を受けたが、1か月前から気になっているという。検査の結果、修復物を除去後、メタルインレー修復を行うことになった。初診時の口腔内写真（**別冊午前** No. 3A）とエックス線写真（**別冊午前** No. 3B）を別に示す。
修復物除去時の対応で**適切でない**のはどれか。1つ選べ。
a　ラバーダム防湿下で行う。
b　スチールバーで除去する。
c　口腔外バキュームを使用する。
d　除去物を専用容器に保管する。

▶保存修復学

選択肢考察

No. 3A

B

長期間の臨床経過のため劣化したアマルガム修復物を、メタルインレーによって再修復する際の注意点を考察する。アマルガム修復物には、水銀が含有されており、修復物除去時や廃棄に特別な注意を払い、環境汚染を防止しなければならない。
○a　患者がアマルガムを誤飲する危険性を防ぐため、ラバーダム防湿は必要である。
×b　アマルガムをスチールバーで除去するのは困難である。
○c　空気中への飛散を防ぐため、口腔外バキュームの使用が有効である。
○d　水銀を含む除去物は専用容器に保管し、回収業者に処理を依頼する。

正　解　b

［問題　40］ 透照診で検出できるのはどれか。1つ選べ。
a　隣接面う蝕
b　歯根外部吸収
c　歯冠部歯髄の形態
d　修復象牙質の形成

▶保存修復学

選択肢考察

透照診は、透照診用のLED光イルミネーターや光ファイバー、光照射器を舌側や口蓋側から照射し、その光の透過性を確認して隣接面う蝕や歯の亀裂の有無を検査する方法である。
○a　隣接面う蝕があると、健全なエナメル質、象牙質よりも光の透過性が減少するため暗い影のように認められる。特に歯の唇舌幅径の小さい前歯部の隣接面う蝕は、臼歯部よりも透照診による検出が容易である。
×b　歯根の外部吸収は、歯根表面からの歯の吸収であり、歯槽骨内で生じる。エックス線写真で診断する必要がある。
×c、×d　歯冠部歯髄の形態、修復象牙質の形成はエックス線写真で把握する。

正　解　a

［問題　41］ 急性壊疽性歯髄炎にみられるのはどれか。**2つ選べ。**
- a　瘻　孔
- b　自発痛
- c　髄室開拡時の腐敗臭
- d　歯髄電気診での無反応

▶歯内療法学

選択肢考察

急性壊疽性歯髄炎は、急性化膿性歯髄炎に腐敗菌が混合感染することにより生じる。急性全部性化膿性歯髄炎の症状に加え、髄室開拡時の腐敗臭を特徴とする。抜髄が適応となる。

× a　瘻孔は歯髄炎では認められず、根尖性歯周炎や歯周膿瘍が原因で生じる膿の出口である。
○ b　急性化膿性全部性歯髄炎と同様、拍動性、放散性の強い自発痛を伴う。
○ c　歯髄に腐敗菌が感染し、歯髄内に腐敗産物が満たされるため髄室開拡時に腐敗臭が生じる。
× d　歯髄炎は生活歯であるため、歯髄電気診では生活反応を示す。

正　解　b、c

［問題　42］ 21歳の女性。上顎左側第一小臼歯と第二小臼歯との冷水痛を主訴として来院した。コンポジットレジン修復を行うことになった。初診時の口腔内写真（**別冊午前** No. 4 A）とう蝕除去中の口腔内写真（**別冊午前** No. 4 B）を別に示す。

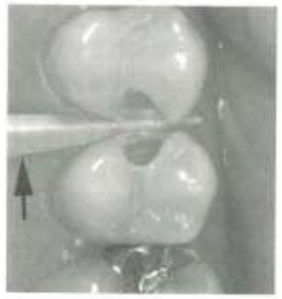
矢印で示す器具の使用目的はどれか。1つ選べ。
- a　歯の固定
- b　隔壁の設置
- c　接触点の回復
- d　歯間乳頭の保護

▶歯内療法学

選択肢考察

No. 4 A

B



プレウェッジは歯間乳頭や隣在歯の歯質を保護するために用いられる。本来のウエッジの使用目的は、マトリックスを歯頸部窩縁に圧接、固定し、さらに歯間を離開することによってマトリックスの厚さを補償して接触点を適切に回復することである。

× a　ウェッジによって歯を固定することはできない。
× b　本来、ウェッジはマトリックスを歯頸部窩縁に圧接、固定するために用いられるが、プレウェッジにはこのような作用を期待しない。
× c　ウェッジによる歯間離開によって接触点の回復が期待できるが、プレウェッジによる効果ではない。
○ d　プレウェッジは歯間乳頭の保護が第一の目的である。

正　解　d

［問題　43］ 28歳の女性。下顎右側中切歯部歯肉の審美不良を主訴として来院した。矯正治療の既往がある。まず歯周基本治療を行った。再評価時の口腔内写真（**別冊午前** No. 5 A）、エックス線写真（**別冊午前** No. 5 B）および歯周組織検査結果の一部（**別冊午前** No. 6）を別に示す。歯科外科手術を行うことになった。

考えられる処置はどれか。1つ選べ。
- a　ENAP
- b　フラップ手術
- c　歯肉結合組織移植術
- d　歯肉弁根尖側移動術

▶歯周治療学

No. 5 A

B

No. 6

舌　側*	2	2	2	1	2	2
歯　種		1			1	
唇　側*	3	1	2	2	2	2
動揺度		0			0	

*：プローピング深さ（mm）

選択肢考察

口腔内写真で右側中切歯の歯肉退縮が認められる。頬側中央部のプローピング深さは1mmであり、歯槽骨吸収もほとんどないことから、ポケット除去や歯周組織再生は必要ない。従って、主訴である審美不良の改善を行えばよい。歯間乳頭歯肉は保存されていて、歯肉退縮の際、根尖側部は歯肉歯槽粘膜より歯冠側に位置するため、根面被覆が可能である。

× a　ENAPは中等度の歯周ポケットの除去を目的とした歯周組織付着療法である。本症例にはポケットがないため必要ない。
× b　フラップ手術はポケットの除去を目的とした歯周組織付着療法である。この症例ではポケットはないので行う必要はない。
○ c　歯肉結合組織移植術は、周囲歯肉組織の色調と調和した状態での根面被覆が可能あり、この症例の主訴である審美不良を改善することができる。
× d　歯肉弁根尖側移動術は付着歯肉のない真性ポケットに対し、ポケットの除去と付着歯肉幅の増大を目的とする切除療法である。本症例にはポケットがないため必要はない。また、歯肉弁を根尖側に移動するため、歯肉退縮が増加し、審美性が悪化する可能性が高い。

正　解　c

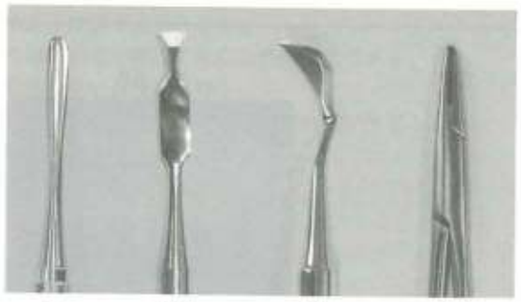
［問題　44］ フラップ手術に使用する器具の写真（**別冊午前** No. 7）を別に示す。
最初に使用するのはどれか。1つ選べ。
a ①
b ②
c ③
d ④

▶歯周治療学

選択肢考察

○c フラップ手術に使用する器具の使用順序は、カークランドメス（写真③）→粘膜骨膜剥離子（写真①）→骨ノミ（写真②）→持針器（写真④）である。

No. 7



①　②　③　④

正解　c　　要点集 302：P 33

［問題　45］ 補綴治療のある過程の写真（**別冊午前** No. 8）を別に示す。
次に行うのはどれか。1つ選べ。
a 下顎模型の装着
b 上顎模型の装着
c 側方顆路角の調節
d 矢状顆路傾斜角の調節

▶歯科補綴学

選択肢考察

写真は半調節性咬合器に模型を装着する過程で使用するフェイスボウで、バイトフォークに上顎歯列の位置関係を印記したものである。このバイトフォークに上顎模型を固定し咬合器装着する。

×a 上顎模型の装着後に中心咬合位記録を用いて下顎模型を装着する。
○b フェイスボウのバイトフォークを用いて上顎模型を咬合器に装着する。
×c 上下顎模型の装着後に側方チェックバイトを用いて側方顆路角を調節する。
×d 上下顎模型の装着後に前方チェックバイトを用いて矢状顆路傾斜角を調節する。

No. 8

正解　b　　要点集 302：P 42

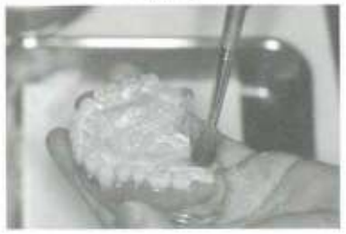
［問題　46］ 上顎全部床義歯製作中の写真（**別冊午前** No. 9）を別に示す。
行っているのはどれか。1つ選べ。
a リライン
b リベース
c パントグラフ
d パラトグラム

▶歯科補綴学

選択肢考察

×a リラインは、義歯床粘膜面の一層だけを新しい義歯床用材料に置き換え、義歯床下粘膜との適合を図ることをいう。
×b リベースはリラインと異なり、義歯床全体を再構築するものである。
×c パントグラフは全調節性咬合器を用いて、下顎運動を描記することにより、連続的に下顎運動を記録するものである。
○d 写真で行っているのはパラトグラムである。パラトグラムは発音時の舌の動きを診査するもので、歯槽部や口蓋部の豊隆を診査し修正する。

No. 9



正解　d　　要点集 302：P 43

［問題　47］ 28歳の女性。上顎右側中切歯の審美不良を主訴として来院した。3年前、1|に補綴装置を装着したが昨日の夕食中に欠けたという。冷温痛は認めない。初診時の口腔内写真（**別冊午前** No.10）を別に示す。
考えられる処置はどれか。**2つ選べ。**
a 3/4クラウンの装着
b ラミネートベニアの装着
c オールセラミッククラウンの装着
d グラスアイオノマーセメント修復

▶歯科補綴学

選択肢考察

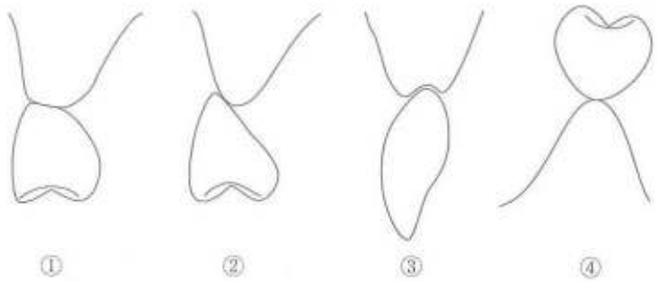
設問の写真では、上顎右側中切歯に装着したラミネートベニアの近心部分が破折し、歯質が露出している。審美性を改善するために、セラミック等で歯冠補綴を行う必要がある。歯質削除量の少ないポーセレンラミネートベニアが最も適切であるが、3年間で破折した既往を考慮すると、歯質削除量は多くなるがオールセラミッククラウンも適切である。

×a 3/4クラウンは前歯適応のクラウンで歯質削除量は少ないが、唇側面の審美不良を改善することができない。
○b 現在装着されているラミネートベニアを除去し、再度ラミネートベニアを装着することで審美不良を改善できる。
○c 3年間で補綴装置が破折した既往があることを考慮すると、歯質削除量は多くなるがオールセラミッククラウンの装着も適切である。
×d グラスアイオノマーセメント修復は歯質接着性はあるが、審美性が改善されない。

No. 10

正解　b、c　　要点集 302：P 38

［問題　48］ ポンティック基底面形態を図に示す。



オベイト型はどれか。1つ選べ。
a　①
b　②
c　③
d　④

▶歯科補綴学

選択肢考察

× a　①はリッジラップ型である。
× b　②は偏側型である。
○ c　③はオベイト型である。
× d　④は船底型である。

正　解　c

要点集 302：P 39

［問題　49］ Sjögren 症候群の診断に用いるのはどれか。**2つ選べ。**
a　顎下腺の生検
b　交差適合試験
c　シルマー試験
d　サクソンテスト

▶口腔外科学

選択肢考察

× a　Sjögren 症候群の診断基準における生検病理組織検査部位は、口唇腺もしくは涙腺である。顎下腺生検は診断に用いない。
× b　交差適合試験は、原則として輸血の前に必ず実施する検査である。
○ c　シルマー試験は、Sjögren 症候群の診断基準の1つである。涙分泌量が5mm/5分以下を陽性としている。
○ d　サクソンテストは、Sjögren 症候群の診断基準（口腔検査）の1つである。唾液分泌量が2分間2g以下を陽性としている。

正　解　c、d

［問題　50］ 60歳の女性。頬粘膜の白斑を主訴として来院した。初診時の口腔内写真（**別冊午前** No.11）を別に示す。白板症と診断された。
この病変の特徴はどれか。**2つ選べ。**
a　角化性病変である。
b　放射線治療を行う。
c　前がん病変の一つである。
d　擦過によって容易に除去できる。

▶口腔外科学

No. 11

選択肢考察

○ a　白板症は、口腔粘膜に生じる白色の板状あるいは斑状の角化性病変である。
× b　細胞診・病理組織検査を行い、上皮異形成、上皮内がん、初期浸潤がんの可能性がある場合は、病変部を全切除する。良性であっても継続的な経過観察を行う。
○ c　前がん病変とは悪性化に至る前の状態で、白板症は前がん病変の一つである。
× d　白板症は、擦過しても容易に除去できない病変である。

正　解　a、c

DH 21：P 401

［問題　51］ 5歳の男児。風邪症状の後、頬粘膜に無痛性の白色の斑点を一過性に認めた。口腔内写真（**別冊午前** No.12）を別に示す。
疑われる疾患はどれか。1つ選べ。
a　麻　疹
b　帯状疱疹
c　手足口病
d　流行性耳下腺炎

▶口腔外科学

No. 12

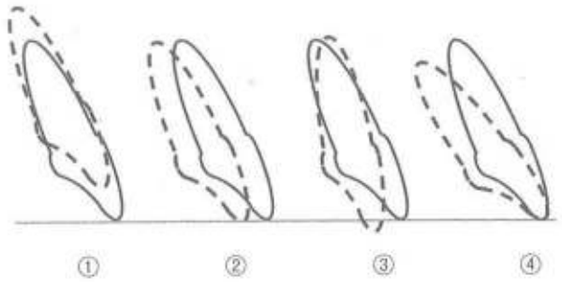
選択肢考察

○ a　麻疹は、麻疹ウイルスの空気感染により生じる疾患で、潜伏期は10～12日である。風邪症状（感冒症状）の後、頬粘膜に一過性の（灰）白色の無痛性の斑点（コプリック斑）を認める。
× b　帯状疱疹は水痘治癒後に脊髄後根神経節（知覚神経節）に潜伏する水痘－帯状疱疹ウイルス〈VZV〉が宿主の免疫能低下などを原因に再活性化することで発症する。潜伏した神経節の支配領域に、片側性に帯状の疼痛を伴う水疱が形成される。
× c　手足口病は口腔粘膜・手掌・足底に周囲に発赤を伴った小水疱・発疹が出現する。
× d　流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）は発熱とともに両側性に有痛性の耳下腺炎（腫脹）が生じる。

正　解　a

要点集 302：P 59

［問題　52］ マルチブラケット装置を用いた矯正治療における歯の移動を図に示す。



実線：移動前　　破線：移動後

トルクによる移動様式はどれか。1つ選べ。

a ①
b ②
c ③
d ④

▶矯正歯科学

選択肢考察

× a　① は長軸に沿って根尖方向へ押し込まれる移動のため、圧下である。
× b　② は歯冠と歯根が同じ方向へ同じ距離移動しているため、歯体移動である。
× c　③ は歯根の根尖側 1/3 を回転中心に根尖は歯冠と反対方向へ移動しているため、傾斜移動である。
○ d　④ は歯冠部に力を加えた唇舌側への歯根移動であるため、トルクである。

正解　d

要点集 302：P46

［問題　53］ 骨年齢の把握のために撮影された手根骨エックス線写真（**別冊午前** No. 13）を別に示す。
母指尺側種子骨はどれか。1つ選べ。

a ①
b ②
c ③
d ④

▶矯正歯科学

選択肢考察

× a　① は母指末節骨である。
× b　② は母指末節骨の骨端部である。
○ c　③ は母指尺側種子骨である。身長の最大増加期と同時期あるいはその1～2年前に出現することから、身長の思春期性成長スパートを予測する指標として利用できる。
× d　④ は大菱形骨である。

No. 13

正解　c

［問題　54］ マルチブラケット装置のアーチワイヤー操作時の写真（**別冊午前** No. 14）を別に示す。
行っているのはどれか。1つ選べ。

a ワイヤーの結紮
b ワイヤーの屈曲
c ワイヤーの活性化
d ワイヤー余剰部の切除

▶矯正歯科学

選択肢考察

× a　ワイヤーの結紮にはホウプライヤーを用いる。
× b　ワイヤーの屈曲にはツイードやナンスのペンディングプライヤーなどを用いる。
× c　ワイヤーの活性化は装着によって矯正力を発揮する形態に整えることをいい、ペンディングプライヤーなどを用いたアーチペンディングによってもたらされる。
○ d　写真は、ディスタルエンドカッターを用いて装置遠心部の余剰ワイヤーを切断しているところである。

No. 14

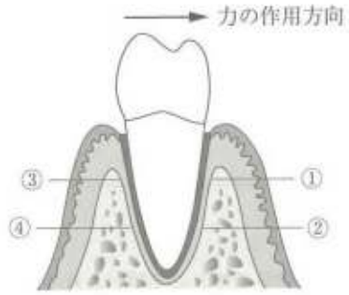
正解　d

［問題　55］ 歯体移動の模式図（**別冊午前** No. 15）を別に示す。
歯槽骨の吸収がみられるのはどれか。**2つ選べ。**

a ①
b ②
c ③
d ④

▶矯正歯科学

No. 15



選択肢考察

○ a、○ b　歯体移動では移動側が圧迫側となるため、① および ② で歯槽骨吸収がみられる。
× c、× d　③、④ は牽引側となり、歯槽骨の添加がみられる。

正解　a、b

要点集 302：P47

［問題　56］ 11歳の男児。上顎右側第一小臼歯の変色を主訴として来院した。初診時の口腔内写真（**別冊午前** No.16A）とエックス線写真（**別冊午前** No.16B）を別に示す。
原因として考えられるのはどれか。1つ選べ。
a　先天性梅毒
b　先行乳歯の根尖病変
c　フッ化物の過剰摂取
d　エナメル質形成不全症

▶小児歯科学

No.16A

B

選択肢考察

× a　先天性梅毒では、上顎中切歯の切縁に半月状切痕を生じるハッチンソン歯や、臼歯部咬頭の形成不全によるフルニエ歯が生じる。
○ b　口腔内写真から萌出間もない第一小臼歯の近心面に組造な部分がみられ、エックス線写真では透過像を示す。1歯に限局した異常であるため、全身的な原因や遺伝性疾患は考えられない。局所的原因に相当するのは、先行乳歯の根尖病変である。先行乳歯の根尖病変が原因で、後継永久歯にエナメル質形成異常を生じるものをターナー歯という。
× c　フッ化物の過剰摂取による歯のフッ素症は広範囲に生じる。
× d　エナメル質形成不全症は遺伝性の疾患で広範囲に生じる。

正　解　b

［問題　57］ 乳歯の歯髄保存療法に用いるのはどれか。1つ選べ。
a　パラホルム製剤
b　ホルムクレゾール
c　クロロフェノール製剤
d　水酸化カルシウム製剤

▶小児歯科学

選択肢考察

× a　パラホルム製剤は、根管消毒や歯髄失活剤として用いられる。
× b　ホルムクレゾール〈FC〉は、乳歯の生活歯髄切断法〈FC法〉や根管消毒に用いられる。
× c　クロロフェノール製剤は、う窩および根管の消毒に用いられる。
○ d　歯髄保存療法は、歯髄を除去することなく治療するもので、鎮静法と覆髄法がある。窩洞形成や歯冠修復を行って象牙質が露出した場合は間接覆髄を施し、軟化象牙質除去により露髄の危険性がある場合は、軟化象牙質を一層残して暫間的間接覆髄法〈IPC法〉を行う。また、偶発露髄した場合には直接覆髄法で処置する。覆髄法には水酸化カルシウム製剤を用いる。間接覆髄では第三象牙質が形成され、直接覆髄法ではデンティンブリッジが形成される。

正　解　d

要点集 302：P60

［問題　58］ 高齢のうつ病患者によくみられるのはどれか。**2つ選べ**。
a　幻　聴
b　振　戦
c　不　安
d　焦燥感

▶障害者・高齢者歯科学

選択肢考察

うつ病とは気分障害に分類される精神疾患の1つである。認知症と同様、高齢者にも多くみられる。65歳以上の高齢者に発症するうつ病を、老人性うつ、老年期うつ病などという。若年者のうつ病と比較して症状などが大きく異なる。
× a　幻聴は幻覚の1種で、周りに誰もいないのに明確に人声が聞こえることをいう。統合失調症の症状としてよくみられる。その他、心的外傷後ストレス障害〈PTSD〉や薬物依存症でもみられることがある。
× b　振戦はいわゆる震えといわれる不随意運動である。健常者でもストレスや緊張などが原因で生じることがある（生理的振戦）。病的に生じるものとして、本態性振戦、Parkinson病、小脳機能障害、アルコール依存の離断症状、甲状腺機能亢進症などに伴うものが挙げられる。
○ c、○ d　老人性うつでは若年者に比べ、意欲低下や抑うつ状態が目立たず、身体的愁訴や心気的不安（不安、焦燥、感情不安定）がよくみられるとされる。

正　解　c、d

要　点

◉ 認知症と偽性認知症の違い

	認知症	偽性認知症
初発症状	知能低下が抑うつ症状に先行する	抑うつ症状が知能低下に先行する
症状の訴え	知能低下を否定する 同じことを繰り返す	知能低下を過大に訴える
外見・行動	無頓着でだらしない 表情に乏しく周囲に無関心である	悲哀・心配の表情を示す 動きが少なく、イライラしている
質問への応答	質問をはぐらかす 怒ったり嫌味を言う	返答が遅い 「わかりません」の様な答え方をする
知的作業能力	通常、全般的に一貫して障害される	しばしば記憶障害のみで、一貫性を欠く

［問題　59］ 80歳の女性。軽度の認知症があり介護老人福祉施設に入居中である。食形態の決定のために施設職員と食事観察を行っていたところ、激しくむせこみ、苦悶表情を呈した。
適切な対応はどれか。**2つ選べ。**
a　背中をたたく。
b　飲水を指示する。
c　ハイムリック法を行う。
d　ヒポクラテス法を行う。

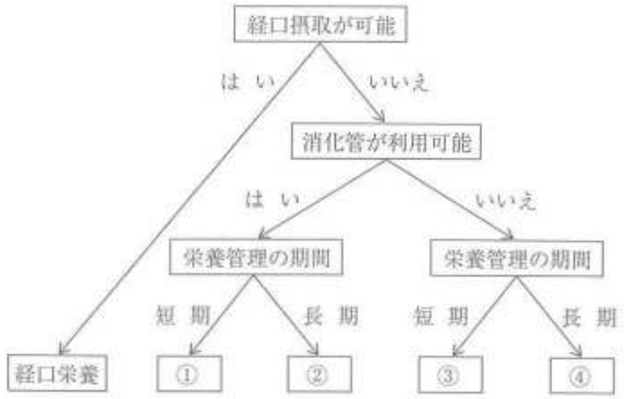
▶障害者・高齢者歯科学

選択肢考察

○a、○c　誤嚥した食塊を吐き出させるためには、ハイムリック法や背部叩打法（背中をたたく）を行う。
×b　すでに誤嚥している可能性が高いため、追加飲水や追加嚥下は無効である。
×d　ヒポクラテス法は、顎関節脱臼時の整復法である。

正　解　a、c

［問題　60］ 栄養投与経路を選択する際のフローチャートを示す。



② はどれか。1つ選べ。
a　胃・腸瘻栄養
b　経鼻経管栄養
c　中心静脈栄養
d　末梢静脈栄養

▶障害者・高齢者歯科学

選択肢考察

○a、×b　①と②は経口摂取困難だが消化管が利用可能であり、経腸栄養法を選択する。このうち①は栄養管理の期間が短期であり、経鼻経管栄養を選択する。一方、②は栄養管理の期間が長期であり、胃・腸瘻栄養を選択する。
×c、×d　③と④は経口摂取困難かつ消化管が利用困難であり、静脈栄養法を選択する。このうち③は栄養管理の期間が短期であり、末梢静脈栄養を選択する。一方、④は栄養管理の期間が長期であり、中心静脈栄養を選択する。

正　解　a

DH 21：P547

［問題　61］ 2歳の女児。摂食障害および哺乳障害を主訴として来院した。初診時の顔面写真（**別冊午前** No.17）を別に示す。
疑われるのはどれか。1つ選べ。
a　シェーグレン症候群
b　ラムゼーハント症候群
c　ピエール・ロバン症候群
d　プランマー・ビンソン症候群

▶障害者・高齢者歯科学

選択肢考察

No.17

×a　シェーグレン症候群は唾液腺や涙腺が障害される自己免疫疾患で、50歳以降の女性に多い。
×b　ラムゼーハント症候群は、帯状疱疹ウイルスによる感染が顔面神経運動線維に波及した結果生じるものである。末梢性顔面神経麻痺や難聴がみられる。
○c　ピエール・ロバン症候群は先天性の小下顎症と舌下垂を示す疾患で、小下顎症による呼吸困難や哺乳障害がみられる。
×d　プランマー・ビンソン症候群は、鉄欠乏性貧血に舌炎、嚥下困難、スプーン爪、口角炎を伴う症候群である。

正　解　c

［問題　62］ 2歳の女児。口腔内診査を希望して来院した。先天性疾患がありと診断されている。診察の際、突然全身が突っ張った。その時の写真（**別冊午前** No.18）を別に示す。
最も考える疾患はどれか。1つ選べ。
a　脳性麻痺
b　ダウン症候群
c　筋ジストロフィー
d　アスペルガー症候群

▶障害者・高齢者歯科学

選択肢考察

No.18

○a　写真の疾患は脳性麻痺である。脳性麻痺は、受胎から新生児期（生後4週以内）に種々の原因により生じた非進行性の中枢性運動障害である。運動機能障害により、痙直型、アテトーゼ型、失調型、強直型、混合型に分類される。頻度は、痙直型が最も多く、次いでアテトーゼ型、それらの混合型の順に多い。
脳性麻痺児は、写真のように頭を右側に向けると右側上肢が伸張、左側下肢が屈曲する非対称性緊張性頭反射が残存する。

正　解　a

［問題　63］ 口臭の原因となる揮発性硫黄化合物はどれか。**2つ選べ。**

a　アセトン
b　アンモニア
c　メチルメルカプタン
d　ジメチルサルファイド

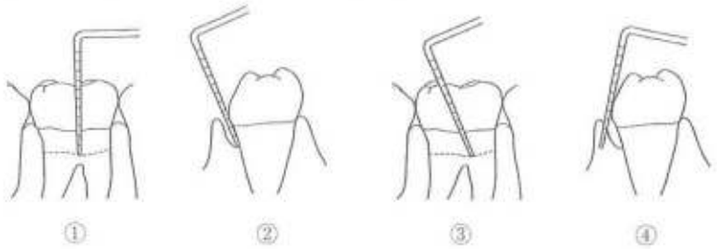
▶歯科予防処置

選択肢考察

×a　アセトンは、糖尿病に起因する病的口臭の原因物質である。
×b　アンモニアは腎不全に起因する病的口臭の原因物質である。
○c、○d　口腔由来の病的口臭の原因物質に揮発性硫黄化合物がある。揮発性硫黄化合物は、口腔細菌がタンパク質を分解することによって産生されるもので、硫化水素、メチルメルカプタン、ジメチルサルファイドがある。

正解　c、d

［問題　64］ 下顎第一大臼歯のプローピングの図を示す。



挿入法で適切なのはどれか。**2つ選べ。**

a　①
b　②
c　③
d　④

▶歯科予防処置

選択肢考察

歯周ポケット深さの測定ではポケットプローブを歯軸に平行に挿入し、歯石を回避してポケット底部まで到達させる。

○a　①は歯軸に対して平行にプローブを挿入しているため、適切である。
○b　②は歯根面に沿ってプローブを挿入しているため、適切である。
×c　③は近遠心的に傾斜してプローブを挿入しているため、適切ではない。
×d　④は歯冠面に沿ってプローブを挿入しているため、適切ではない。

正解　a、b

［問題　65］ 歯周病の活動度を示す検査項目はどれか。1つ選べ。

a　歯の動揺度
b　プローピング深さ
c　アタッチメントレベル
d　プローピング時の出血

▶歯科予防処置

選択肢考察

×a、×b　歯の動揺度、プローピング深さは、現在の歯周病の状況を示すものである。
×c　アタッチメントレベルは、主に歯周組織の破壊の程度を評価するために用いる。
○d　歯周病の活動度とは、将来的なアタッチメントロスを予測する指標である。プローピング時の出血〈BOP〉はポケット底部の炎症を示す。BOP（＋）の場合は、歯周病は活動的で進行傾向にあると予測できる。

正解　d

［問題　66］ 15歳の男子。歯肉の腫脹を主訴として来院した。既往歴にてんかん発作があり、現在も投薬中であるという。初診時の口腔内写真（**別冊午前** No.19）を別に示す。

服用が考えられるのはどれか。1つ選べ。

a　ニフェジピン
b　フェニトイン
c　ピロカルピン
d　シクロスポリン

▶歯科予防処置

No.19

選択肢考察

×a　ニフェジピンはカルシウム拮抗薬で、高血圧症の治療に用いられる。副作用に薬物性歯肉増殖症がある。
○b　フェニトインは抗てんかん薬で、副作用に薬物性歯肉増殖症がある。
×c　ピロカルピンは副交感神経作用薬で、口腔乾燥症の治療に用いられる。
×d　シクロスポリンは免疫抑制薬で、臓器移植や自己免疫疾患に対して用いられる。副作用に薬物性歯肉増殖症がある。

正解　b

DH 21：P 254

［問題 67］ 45歳の男性。下顎右側第二小臼歯頬側の歯周組織検査結果を表に示す。

単位：mm

項目＼歯式	45		
PPD値	2	3	3
アタッチメントレベル	6	5	6

頬側中央の根面露出の値はどれか。1つ選べ。
a 2 mm
b 3 mm
c 5 mm
d 8 mm

▶歯科予防処置

選択肢考察

○a 頬側中央部のPPD値（ポケット深さ）は3 mm、アタッチメントレベルが5 mmであるため、根面露出度はアタッチメントレベルからPPD値を引いた長さ、すなわち2 mmが根面露出となる。

正解 a

［問題 68］ 歯面へのプラーク付着状態の模式図を示す。

DIのスコアはどれか。1つ選べ。
a 1
b 2
c 3
d 5

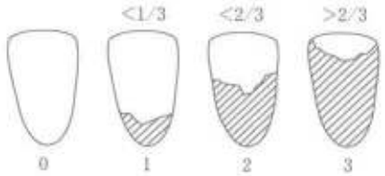
▶歯科予防処置

選択肢考察

○b ◉ DI〈debris index〉の診査基準と点数

点数	診査基準
0	付着が認められない
1	歯冠1/3以内または範囲に関係なく外来性沈着物の存在
2	歯冠1/3～2/3以内
3	歯冠2/3以上

◉ 歯垢の付着



正解 b

［問題 69］ 口腔内写真（**別冊午前** No.20）を別に示す。
観察できるのはどれか。**2つ選べ。**
a 歯肉クレフト
b 歯肉縁上歯石
c 歯間乳頭部の腫脹
d 喫煙による歯面の色素沈着

▶歯科予防処置

No.20

（ミラー像）

選択肢考察

×a クレフトは歯肉に生じたV字やU字型の裂開である。
○b 左側中切歯、側切歯歯頸部に歯石沈着が認められる。
○c 前歯部歯間乳頭部全体に腫脹がみられる。
×d 色素沈着はみられない。

正解 b、c

［問題 70］ スケーリング中にグレーシータイプキュレットの刃部がポケット内で破折し、歯肉からの出血がみられた。
まず行うのはどれか。1つ選べ。
a 洗口させる。
b エアーをかける。
c ワッテで止血する。
d バキュームで吸引する。

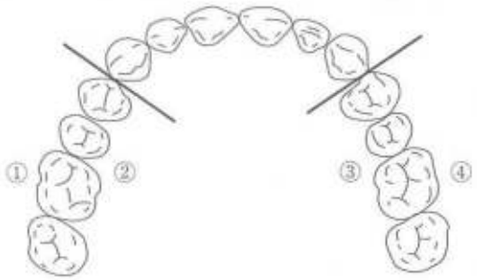
▶歯科予防処置

選択肢考察

○c スケーラー破折による事故の場合、慌ててバキュームで吸引したり洗口させたりせず、まずは口を開けたままの状態で、破折片の確認を行う。ガーゼやワッテで止血処置を行い、視野の確保に努める。

正解 c

［問題　71］ 上顎の歯石除去区分を図に示す。



フロントポジションで行うのはどれか。1つ選べ。

a ①
b ②
c ③
d ④

▶歯科予防処置

選択肢考察

○a ①は 4 ～ 7 までの頬側面である。この部位はフロントポジションで操作する。
×b ②は 4 ～ 7 までの口蓋側面である。この部位はバックポジションから操作する。
×c ③は 4 ～ 7 までの口蓋側面である。この部位はサイドポジションから操作する。
×d ④は 4 ～ 7 までの頬側面である。この部位はバックポジションから操作を行う。

正解 a

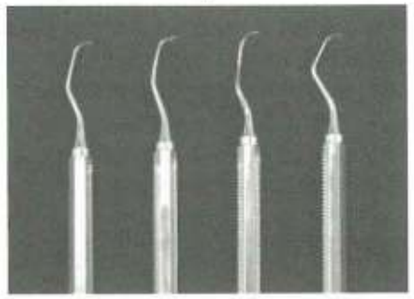
［問題　72］ 44歳の女性。歯石除去を希望して来院した。初診時の口腔内写真（**別冊午前** No.21 A）とグレーシータイプキュレットの写真（**別冊午前** No.21B）を別に示す。
写真Aのスケーリングに適切なのはどれか。1つ選べ。

a ①
b ②
c ③
d ④

▶歯科予防処置

No.21 A

B



選択肢考察

○a ①は #5 で、前歯部に用いる。
×b ②は #11 で、臼歯部近心面に用いる。
×c ③は #13 で、臼歯部遠心面に用いる。
×d ④は #7 で、臼歯部頬舌側面に用いる。

正解 a　　DH21：P588

［問題　73］ 手用スケーラーの仕上げ研磨に用いる砥石はどれか。**2つ選べ。**

a ルビーストーン
b セラミックストーン
c インディアストーン
d アーカンサスストーン

▶歯科予防処置

選択肢考察

×a ルビーストーンは粒子が粗く、スケーラーの形態修正に用いる。
○b セラミックストーンは粒子が細かいため、スケーラーの仕上げ研磨に用いる。
×c インディアナストーンは粒子が粗いため、スケーラーの粗研磨に用いる。
○d アーカンサスストーンは粒子が細かいため、スケーラーの仕上げ研磨に用いる。

正解 b、d

［問題　74］ Bis - GMA 系シーラント材と比較したグラスアイオノマー系シーラント材の特徴はどれか。**2つ選べ。**

a　機械的強度が高い。
b　歯質接着性が小さい。
c　酸処理が必要である。
d　半萌出歯に適応できる。

▶歯科予防処置

選択肢考察

× a　レジン系シーラント材の方が機械的強度は高い。
○ b　Bis - GMA 系シーラント材はコンポジットレジンをベースにしているため、接着性モノマーにより高い歯質接着性を示す。
× c　グラスアイオノマーセメントには歯質接着性があるため、酸処理は不要である。Bis - GMA 系は接着性モノマーによるエナメル質への接着のため、エッチングが必要となる。
○ d　Bis - GMA 系はラバーダム防湿が必要となるため、半萌出歯には適用できない。グラスアイオノマー系は半萌出歯にも適応可能である。

正解　b、d

［問題　75］ プラークを検体とするのはどれか。**2つ選べ。**

a　Swab test
b　RD テスト®
c　Dentocult®- LB
d　カリオスタット®

▶歯科予防処置

選択肢考察

○ a　Swab test はプラークを検体とするう蝕活動性試験で、プラーク中酸産生菌の酸産生能を評価する。
× b　RD テスト®は唾液を検体とするう蝕活動性試験で、レサズリン還元性菌の活性を測定する。
× c　Dentocult®- LB は唾液を検体とするう蝕活動性試験で、乳酸桿菌数を測定する。
○ d　カリオスタット®はプラークを検体とするう蝕活動性試験で、プラーク中酸産生菌の酸産生能を評価する。

正解　a、d

DH21：P617

［問題　76］ 体重 20 kg の小児に対して 2％フッ化ナトリウムの 歯面塗布を指示された。安全に使用できる 1 回の使用上限量はどれか。1 つ選べ。

a　3 mL
b　4 mL
c　5 mL
d　6 mL

▶歯科予防処置

選択肢考察

○ b　フッ素の急性中毒量は 2mg/kg であり、体重 20kg では 20 × 2 = 40mg が上限量となる。2％フッ化ナトリウム（9,000ppmF）には 1mL 中 9mg のフッ素が含まれているため、40 ÷ 9 = 4.44…が使用上限量となる。

正解　b

［問題　77］ う蝕予防に用いられるのはどれか。1 つ選べ。

a　10％フッ化物配合歯磨剤
b　8％フッ化第一スズ塗布液
c　0.2％リン酸酸性フッ化物溶液
d　2.0％フッ化ナトリウム洗口液

▶歯科予防処置

選択肢考察

× a　歯磨剤へのフッ化物配合は、フッ化物濃度として 1,500ppm（0.15%）を上限としている。
○ b　フッ化第一スズはフッ化物歯面塗布法に用いる薬剤で、8%フッ化第一スズを用いる。
× c　リン酸酸性フッ化ナトリウム溶液（APF）は 2.0%フッ化ナトリウム溶液である。
× d　フッ化物洗口法は、毎日法と週 1 回法に大別され、週 1 回法では 0.2%フッ化ナトリウム溶液を用いる。

正解　b

［問題　78］ ある事業所の社員30名に対し、歯周病予防に関する30分の健康教室を開催することになった。
指導にあたり効果的なのはどれか。**2つ選べ。**
a　全員に個別指導を行う。
b　画一的な行動目標を設定させる。
c　自由に発言できる雰囲気をつくる。
d　歯周病と全身疾患の関連性を説明する。

▶歯科保健指導

選択肢考察

集団保健指導では事前のアンケート調査などを行い、予め集団特性を把握し、参加者の集団特性やニーズに適した内容で行う。また、集団の人数と時間に合わせた指導方法（個別、小グループ、集団）で行い、具体的な保健行動への行動変容につながるように疾患の正しい理解とセルフケアに役立つ情報を盛り込む。さらに、一方的な指導にならないように、参加者が積極的に発言できる場を設けるとよい。
× a　30分の講話時間で個別指導は実施できない。
× b　集団には多様性があり、画一的指導や行動目標の設定は適切でない。
○ c　参加者が自由に積極的に発言し、参加できる場を設けるとよい。
○ d　保健行動への行動変容につながるように疾患を正しく理解するための情報を盛り込む。

正解　c、d

［問題　79］ フレイルの診断に用いるのはどれか。**2つ選べ。**
a　腹　囲
b　体　重
c　歩行速度
d　口腔衛生状態

▶歯科保健指導

選択肢考察

○ b、c　フレイル（虚弱）は、加齢とともに心身の活力が低下（加齢に伴う変化）し、生活機能障害、要介護状態、そして死亡などの危険性が高まった状態をいう。加齢による変化により、低栄養、転倒、サルコペニア、尿失禁、軽度認知障害〈MCI〉などの危険な加齢の兆候（老年症候群）を引き起こす。

◉ **フレイル評価項目**
① 体重減少　② 歩行速度低下　③ 握力低下　④ 疲れやすい　⑤ 身体活動レベル低下
①～⑤のうち三項目が当てはまればフレイルと評価できる。

正解　b、c

［問題　80］ 49歳の男性。3か月前より歯周病治療のため定期的に来院している。10日前に行った健康診断結果を持参し、結果について相談を受けた。
健診結果を表に示す。

身　長	170 cm
体　重	75 kg
BMI	26.0 kg／m²
内臓脂肪面積	110 cm²
血　圧	125／80 mmHg
空腹時血糖	100 mg／dL
トリグリセライド	140 mg／dL
HDL コレステロール	50 mg／dL
LDL コレステロール	130 mg／dL

健診結果から考えられるのはどれか。1つ選べ。
a　肥満症である。
b　高血圧症である。
c　脂質異常血症である。
d　メタボリックシンドロームである。

▶歯科保健指導

選択肢考察

○ a　BMIが25以上であり肥満症である。
× b　高血圧症と診断されるのは140／90mmHg以上であるため高血圧症ではない。
× c　脂質異常症の診断はトリグリセライドが150mg／dL以上、HDLコレステロールが40mg／dL未満であるため脂質異常症ではない。
× d　メタボリックシンドロームは、必須項目として内臓脂肪蓄積が100cm²以上もしくは腹囲が男性85cm以上、女性90cm以上であり、かつ追加項目（血糖値、血圧、血清脂質）のうちいずれか2項目以上が当てはまる場合である。患者の場合、必須項目は当てはまるが追加項目は該当しないため、メタボリックシンドロームではない。

正解　a　　DH 21：P694

［問題　81］ 口腔癌の一次予防はどれか。**2つ選べ。**

a　禁煙指導
b　減塩指導
c　えん下困難者用食品の推奨
d　過度な飲酒習慣の改善指導

▶歯科保健指導

選択肢考察

○a、d　がん予防には、一次予防と二次予防がある。一次予防は原因を取り除くことによる、がんにならないための予防法のことである。生活習慣由来のがん（口腔癌もこれに含まれる）の予防には、禁煙やアルコール制限、肥満の防止など生活習慣の改善が要求される。また、感染症由来のがんは、感染源の遮断のための治療やワクチン療法で、ほぼ完璧に抑制が可能である。厚生労働省は、「科学的な根拠に基づくがん予防・がん検診の充実」において、一次予防（がんにならないための予防）の現状・課題として、① 喫煙（受動喫煙を含む）に対する更なる対策が必要、② 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者、運動習慣のある者等の割合に大きな変化がない。③ 肝炎ウイルス検査結果が陽性であっても、その後の受診につながっていない者がいるとしている。さらに、取り組むべき施策を、① 喫煙の健康影響に関する普及啓発活動、禁煙希望者に対する禁煙支援、② 受動喫煙対策の徹底、③ スマート・ライフ・プロジェクト、食生活改善普及運動等を通じた普及啓発、④ 肝炎ウイルス陽性者への受診勧奨・普及啓発、B型肝炎の定期予防接種の推進や治療薬の開発としている。

正解　a、d

［問題　82］ 3歳5か月の男児。上顎乳中切歯が黒くなってきたことを主訴として来院した。上顎両側乳中切歯の近心隣接面にう窩を認めるが、それ以外はう蝕はなく、頬舌面ともに口腔清掃状態は良好である。初診時の口腔内写真（**別冊午前** No.22）を別に示す。問診票の一部を表に示す。

下記の質問にお答えください。

1. お口の中で心配なことがありますか。	（上の前歯の間が黒くなってきた）	
2. むし歯の疑いの歯がありますか。	(はい) ・ いいえ	
3. 間食の時間を決めていますか。	(はい) ・ いいえ	
4. 1日何回間食をしますか。	（ 2 回）	
5. よく飲むものは何ですか。	（ 麦茶 ）	
6. 保護者が仕上げみがきをしていますか。	(はい) ・ いいえ	

応急処置後に行う口腔内環境の改善に必要なのはどれか。**2つ選べ。**

a　予防填塞
b　歯間ブラシの使用
c　フッ化物歯面塗布
d　デンタルフロスの使用

▶歯科保健指導

No.22

選択肢考察

×a　予防填塞は隣接面のう蝕予防には適応できない。
×b　歯間ブラシの使用は歯間空隙が認められる高齢者などで用いられる。
○c　フッ化物歯面塗布はう蝕予防に有効であり、積極的に利用する。
○d　デンタルフロスは、歯間ブラシが入らないような隙間のない隣接面のう蝕予防に用いられる。

正解　c、d

［問題　83］ 幼児へのう蝕原因菌の定着を抑制するのに適切なのはどれか。1つ選べ。

a　1日の間食回数を減らす。
b　消毒薬で口をゆすがせる。
c　1歳ころに離乳を完了させる。
d　保護者のう蝕原因菌を減らす。

▶歯科保健指導

選択肢考察

×a　間食はう蝕罹患のリスクは高まるが、う蝕原因菌の定着とは関係ない。
×b　う蝕原因菌伝播の時期はまだ十分な洗口を行うことができず、また消毒薬での洗口自体が好ましくない。
×c　う蝕原因菌であるミュータンスレンサ球菌は、母親など保護者の唾液を介して子供の口腔内に感染する場合が多い。離乳を早く終了したからといって、う蝕原因菌の定着が抑制されるわけではない。
○d　乳歯萌出前の口腔内からう蝕原因菌が検出されることはなく、乳歯の萌出後に保護者の唾液を介して幼児の口腔内にう蝕原因菌が伝播する。そのため、保護者の口腔内環境が劣悪な場合、子供に伝播しやすくなる。

正解　d

［問題　84］ 72歳の男性。義歯の汚れが気になり家族とともに来院した。数年前に慢性関節リウマチを発症し、右手の運動に制限がある。上下顎ともに部分床義歯を装着しているが、クラスプ周囲や義歯床部分に食物残渣や歯石の沈着がみられた。歯科医師より義歯清掃について指導するよう指示があった。

義歯清掃の説明で適切なのはどれか。1つ選べ。

a　粘膜面は軟毛のブラシで磨いてください。
b　義歯洗浄剤の使用は週1回にしてください。
c　次亜塩素酸系は歯石を溶かす効果があります。
d　ご家族が使っている歯磨き粉で磨くときれいになります。

▶歯科保健指導

選択肢考察

○a　注水下で義歯の粘膜面を義歯用ブラシ（軟毛）で清掃する。
×b　義歯洗浄剤の使用頻度は、週に3～4回以上の使用が望ましい。
×c　次亜塩素酸に歯石を溶解する作用はない。
×d　義歯専用でない歯磨剤を使用して義歯を清掃すると、研磨剤の影響で義歯が摩耗してしまうため、義歯専用の歯磨剤、もしくは何も付けず水か微温湯で清掃を行う。

正解　a

［問題　85］ 器質性構音障害がみられるのはどれか。**2つ選べ。**

a　脳腫瘍
b　舌小帯短縮症
c　パーキンソン病
d　鼻咽腔閉鎖不全症

▶歯科保健指導

選択肢考察

×a、×c　脳腫瘍やパーキンソン病は運動障害性構音障害がみられる。運動性構音障害は、神経・筋系の疾患により、発声・発語期間に筋緊張の異常、筋力低下、協調性の低下などが生じることによって起こる。
○b、○d　舌小帯短縮症や鼻咽腔閉鎖不全症は器質性構音障害がみられる。構音器官の形態や構造の異常によって起こるもので、先天的な原因として口蓋裂や先天性鼻咽腔閉鎖不全症、後天的な原因として口腔癌や外傷による顎口腔顔面の欠損などがある。

正解　b、d

［問題　86］ 90歳の男性。歯の磨き方がわからないと家族より相談を受けた。3か月前に脳梗塞で倒れ入院加療中である。患者は、食事、排泄、着替えのいずれにおいても介護者の援助を全面的に必要とし、一日中ベッドの上で過ごしているという。初診時の口腔内写真（**別冊午前** No.23）を別に示す。

家族への口腔衛生指導で適切なのはどれか。**2つ選べ。**

a　硬めの歯ブラシを使用する。
b　抗菌薬入りの含嗽剤を使用する。
c　スポンジブラシで粘膜面を清掃する。
d　プラークによる誤嚥性肺炎の危険性を説明する。

▶歯科保健指導

No.23

選択肢考察

×a　軟らかめの歯ブラシを使って、歯頸部や歯間部をブラッシングする。
×b　この状態では含嗽は困難である。
○c　粘膜面はスポンジブラシで清掃する。
○d　プラークが誤嚥性肺炎の原因となることを説明し、介助者による口腔清掃の重要性を認識してもらう。

正解　c、d

［問題　87］ 平成30年国民健康・栄養調査の結果で、49歳以下と比べて50歳以上で摂取量が低下しているのはどれか。1つ選べ。

a　肉　類
b　野菜類
c　果実類
d　魚介類

▶歯科保健指導

選択肢考察

○a　肉類摂取量は、1番多いのが15～19歳（165.1g）で、2番目が20歳代（146.2g）、3番目が30歳代（126.2g）と年齢が高くなるにつれ低下していく。
×b　野菜類摂取量は、1番多いのが60歳代（304.9g）で、2番目が70歳以上（304.5g）、3番目が50歳代（276.5g）となっている。
×c　果実類摂取量は、1番多いのが70歳以上（155.7g）で、2番目が60歳代（126.0g）、3番目が50歳代（73.3g）となっている。
×d　魚介類摂取量は、1番多いのが60歳代（85.4g）で、2番目が70歳以上（82.3g）、3番目が50歳代（67.6g）となっている。

正解　a

［問題　88］ 40歳の男性。慢性歯周炎と診断し、歯周基本治療を行うことになった。喫煙者で、いずれ禁煙したいと考えているが、今すぐに行う予定はないという。喫煙習慣に関する問診結果の一部を表に示す。

- 10年間、1日15本の喫煙歴がある。
- 起床後すぐに喫煙する。
- 一日の中で朝の喫煙が最もやめにくい。
- 体調不良時も喫煙している。
- 一度、1か月間の禁煙ができたことがある。

患者への説明で適切なのはどれか。**2つ選べ。**

a 「加熱式タバコに変更しましょう」
b 「ニコチンの依存性は強くありません」
c 「禁煙できた経過を振り返ってみましょう」
d 「喫煙により治療の予後が不良となりやすいです」

▶歯科保健指導

選択肢考察

×a 加熱式たばこの健康影響について科学的知見はまだ多くないが、主流煙のニコチン量は紙巻たばこと同様か7～8割程度あり、ニコチンの吸収動態は紙巻たばこと類似している。加熱式たばこの単独使用であっても、ニコチン依存症に陥り、その使用を中止することが困難になる可能性がある。
×b 「ニコチンの依存性は強くありません」は行動変容の動機付けには不適切な言葉である。
○c 関心期の者に対する、「喫煙について、より個別化した情報を提供する。」「患者に次に何をすべきかを考えさせる。」「禁煙の具体的な方法を提示して禁煙の実行を促す」にあたる。
○d 主訴の治療と禁煙への動機付けになる説明である。

正解 c、d

［問題　89］ オリゴ糖はどれか。**2つ選べ。**

a パラチノース
b ステビオサイド
c アセサルフェームK
d カップリングシュガー

▶歯科保健指導

選択肢考察

○a パラチノースはオリゴ糖（少糖類）の一つで、ショ糖に転移酵素を作用させて作られた低う蝕性甘味料である。
×b ステビオサイド（ステビア）は。配糖体系の非糖質系甘味料である。
×c アセサルフェームKは、ショ糖の200倍の甘味度をもつ非う蝕性甘味料である。
○d カップリングシュガーはオリゴ糖の一つで、ショ糖分子中のグルコースに、さらにグルコースが結合したオリゴ糖である。

正解 a、d

［問題　90］ 日本人の食事摂取基準（2020年版）で策定されている18～49歳が目標とするBMI（kg/m²）の範囲はどれか。1つ選べ。

a 18.5 ～ 21.4
b 18.5 ～ 24.9
c 20.0 ～ 24.9
d 21.5 ～ 24.9

▶歯科保健指導

選択肢考察

○b 日本人の食事摂取基準（2020年版）ではエネルギーの摂取量及び消費量のバランスの維持を示す指標として、BMIを採用しており、18～49歳が目標とするBMI（kg/m²）の範囲は、18.5～24.9としている。

正解 b

要点

◉ 日本人の食事摂取基準（2020年版）で策定されているBMIの指標（目標とするBMIの範囲）

年齢（歳）	目標とするBMI（kg/m²）
18 ～ 49	18.5 ～ 24.9
50 ～ 64	20.0 ～ 24.9
65 ～ 74	21.5 ～ 24.9
75以上	21.5 ～ 24.9

［問題　91］ 75歳の男性。食事に時間がかかることを主訴として家族と来院した。半年前に気付いたがそのままにしていたという。検査結果の一部を表に示す。

評価項目	判　定
口腔不潔	無
口腔乾燥	無
咬合力低下	無
舌口唇運動機能低下	有
低舌圧	有
咀嚼機能低下	無
嚥下機能低下	無

適切な訓練はどれか。**2つ選べ。**

a　構音訓練
b　舌抵抗訓練
c　頸部可動域訓練
d　プッシング・プリング訓練

▶歯科保健指導

選択肢考察

食事に時間がかかるという主訴に対し、口腔機能低下症の検査を行っている症例である。口腔機能低下症とは加齢のみならず、疾患や障害、薬の副作用などの要因により、口腔内の感覚、咀嚼、嚥下、唾液分泌などの機能が少しずつ低下していく病態である。本症例では舌口唇運動機能低下と低舌圧がみられるため、それぞれに適したリハビリテーションを行う必要がある。

○a　舌口唇運動機能の低下がみられるため構音訓練を行う必要がある。
○b　舌圧の低下が認められるため、舌抵抗訓練を行い舌圧のトレーニングを行う必要がある。
×c　頸部可動域訓練は摂食嚥下障害における間接訓練であり、頸部の拘縮予防および改善と頸部周囲筋のリラクゼーションを目的に行う。
×d　プッシング・プリング訓練は摂食嚥下障害における間接訓練であり、主に声門閉鎖機能を改善させるために行う。

正解　a、b

［問題　92］ 嚥下機能のスクリーニングテストはどれか。**2つ選べ。**

a　VE
b　VF
c　RSST
d　EAT－10

▶歯科保健指導

選択肢考察

×a　VE（嚥下内視鏡検査）は、鼻から内視鏡を挿入して咽頭の様子を観察する嚥下機能の精密検査である。
×b　VF（嚥下造影検査）は、エックス線造影撮影装置を用いて、被検食物にバリウムなどの造影剤を混ぜたものを被検者が食べて飲み込むところを撮影する精密検査である。
○c　RSST（反復唾液嚥下テスト）は、随意的な嚥下反射惹起を定量的に評価する嚥下機能のスクリーニングテストである。
○d　EAT－10は米国で開発された摂食嚥下障害のスクリーニング質問紙で、嚥下時の症状や体重の減少などに関する10項目の質問に対して患者の自覚症状を問うものである。

正解　c、d

［問題　93］ 摂食・嚥下機能障害の組合せで正しいのはどれか。**2つ選べ。**

a　準備期の障害 ―― 食べ物を認知しない
b　口腔期の障害 ―― 咀嚼、食塊形成ができない
c　咽頭期の障害 ―― 食塊が鼻腔へ逆流する
d　食道期の障害 ―― 胃食道逆流が起こりやすい

▶歯科保健指導

選択肢考察

×a　準備期は口腔内に取り込まれた食物を咀嚼し、食塊形成する時期である。食べ物を認知しないのは先行期の障害である。
×b　口腔期は食物を嚥下するために咽頭への送り込みを行う時期である。咀嚼、食塊形成は準備期である。
○c　咽頭期は嚥下反射による嚥下関連筋群の協調運動によって、食物が中咽頭から食道に送り込まれる時期である。咽頭期の障害として誤嚥、咽頭残留、通過障害がある。また、軟口蓋の麻痺や欠損などが原因で鼻咽腔閉鎖不全がある場合、食塊の鼻腔への逆流が生じる。
○d　胃食道逆流が起こりやすいのは食道期の障害である。

正解　c、d

［問題　94］ 装置の写真（**別冊午前** No.24）を別に示す。
この装置の目的はどれか。1つ選べ。
a　舌房の確保
b　咬合支持の向上
c　食塊移送の改善
d　食道入口部の開大

▶歯科保健指導

選択肢考察

No.24

○c　写真は舌接触補助床である。舌の切除や運動障害による摂食嚥下障害に対し、舌背と口蓋との間隙を補い、食塊移送を改善する目的で装着する。

正解　c

［問題　95］ 76歳の女性。2年前に脳梗塞を発症し、歩行が不可能になったため自宅にて家族の介助を受けている。食自ら食事はできるが、最近になり水を飲む際にむせるようになったという。同居家族から「どういった形の食べ物にすればいいですか。」との相談を受けた。
食物形態に対する助言で適切なのはどれか。**2つ選べ。**
a　「とろみのあるものが良いです。」
b　「細かく刻まれている食べ物が良いです。」
c　「つるっと飲み込みやすいうどんが良いです。」
d　「お口の中でまとまりやすいものが良いです。」

▶歯科保健指導

選択肢考察

○a　とろみがある方が嚥下しやすく、べたつくものは嚥下しにくいので避ける。
×b　細かく刻まれた食物形態は嚥下しにくく、誤嚥の危険性がある。
×c　うどんは吸い込まなければならず、またつるっとした食物形態も誤嚥の危険性がある。
○d　咀嚼によりまとまりやすい形態が望ましい。

正解　a、d

［問題　96］ 妊娠35週の女性。歯科治療のため水平位にしたところ気分不快を訴えた。
とるべき体位はどれか。1つ選べ。
a　右側臥位
b　左側臥位
c　ファウラー体位
d　トレンデレンブルグ体位

▶歯科診療補助

選択肢考察

×a、○b　妊娠末期（妊娠28週以降）に仰臥位をとると、膨大した子宮が下大静脈を圧迫して、心臓への静脈還流が妨げられ、血圧低下、心拍数低下をきたす（仰臥位低血圧症候群）。そのため水平位診療は避ける。下大静脈は正中より右側を走行しているため、患者を左側臥位にして下大静脈の圧迫を解除する。
×c　ファウラー体位は上半身を30～45度くらい起こして頭を高くした体位である。下大静脈の圧迫を完全に解除できないため、とるべき体位ではない。
×d　トレンデレンブルグ体位は頭側を低くした体位である。下大静脈の圧迫を完全に解除できないため、とるべき体位ではない。

正解　b

［問題　97］ HBVに有効なのはどれか。1つ選べ。
a　クレゾール石けん
b　消毒用エタノール
c　次亜塩素酸ナトリウム
d　塩化ベンザルコニウム

▶歯科診療補助

選択肢考察

×a、×b、×d　クレゾール石けん、消毒用エタノール、塩化ベンザルコニウムは無効である。
○c　HBVには次亜塩素酸ナトリウムやグルタラールが有効である。

正解　c

要点集301：P66

［問題　98］ 2級コンポジットレジン修復に用いる器具にマトリックスを装着した写真（**別冊午前** No.25）を別に示す。

適用される歯はどれか。**2つ選べ。**

a　上顎右側第二小臼歯
b　上顎左側第二小臼歯
c　下顎左側第二小臼歯
d　下顎右側第二小臼歯

▶歯科診療補助

No.25

選択肢考察

○a、c　写真の器具はトッフルマイヤーのマトリックスリテーナーである。トッフルマイヤーのマトリックスリテーナーは隣接面を含む窩洞を成形材料で修復する際に用いる器具である。先端にループ状のステンレスマトリックスをネジで（写真の右端）固定し、マトリックスを支台歯に巻きつけ固定する。リテーナーは歯列の頬側から操作するため、写真のようにマトリックスを巻いた場合には、上顎右側臼歯部と下顎左側臼歯部に用いることができる。

正　解　a、c

要点集 302：P14

［問題　99］ 40歳の男性。上顎左側中切歯の一過性の冷水痛を主訴として来院した。2か月前から自覚していたがそのままにしていたという。検査の結果、う蝕と診断し、光硬化型グラスアイオノマーセメント修復を行うことになった。初診時の口腔内写真（**別冊午前** No.26A）、$\underline{1|}$ の口蓋側面から便宜拡大した口腔内写真（**別冊午前** No.26B）及び切削器具の写真（**別冊午前** No.26C）を別に示す。

窩洞形成に用いるのはどれか。**2つ選べ。**

a　①
b　②
c　③
d　④

▶歯科診療補助

No.26A

B

C

①　②　③　④

選択肢考察

軽度の冷水痛を伴う前歯部隣接面の浅在う蝕を、グラスアイオノマーセメントで修復する際の窩洞形成においては、できる限り審美性を損なうことなくう窩を開拡し、感染歯質のみを削除して窩洞を完成する。すなわち、健全エナメル質をできるだけ小さく削除してう窩を開拡し、小型の球状スチールバーを用いて感染象牙質を削除する。

○a　①は高速切削器具に装着する小型の球状ダイヤモンドポイントである。エナメル質を小さく切削し、う窩を開拡するために用いられる。
×b　②は高速切削器具に装着するシャンファータイプのファインカットダイヤモンドポイントである。支台歯の仕上げやコンポジットレジンの仕上げに用いる。
×c　③は低速切削器具に装着されるホワイトポイントである。コンポジットレジンの仕上げに用いられる。
○d　④は低速切削器具に装着される小型の球状スチールバーである。感染象牙質の削除に用いる。

正　解　a、d

［問題　100］ 器具の写真（**別冊午前** No.27）を別に示す。
この器具を用いて行うのはどれか。1つ選べ。
a　抜　髄
b　根管洗浄
c　根管形成
d　根管充塡

▶歯科診療補助

選択肢考察

No.27

×a　抜髄は抜髄針（クレンザー）を用いる。
×b　根管洗浄には、次亜塩素酸ナトリウムや過酸化水素水を用いる。
×c　根管形成にはリーマー、ファイルを用いる。
○d　写真はレンツロである。レンツロは、根管充塡用糊剤を根管内に貼付する際に用いる。

正　解　d

要点集 302：P9

［問題　101］ 50歳の女性。上顎右側小臼歯部の食片圧入を主訴として来院した。検査の結果、5のう蝕と診断され、ワンステップ接着システムによるコンポジットレジン修復を行うことになった。初診時の口腔内写真（**別冊午前** No.28A）と処置中の口腔内写真（**別冊午前** No.28B）を別に示す。
次に行うのはどれか。1つ選べ。
a　水　洗
b　エアブロー
c　コンポジットレジンの塡塞
d　シランカップリング剤塗布

▶歯科診療補助

選択肢考察

No. 28A

B

×a　ワンステップボンディング材には接着性モノマーが含まれているため、適用後に水洗してはならない。
○b、×c　ワンステップ接着システムは一定時間窩洞に適用した後に、余剰な材料をエアーブローで窩洞の外に飛散させ、コンポジットレジンを塡塞する。
×d　シランカップリング剤は、コンポジットレジンや陶材の内面処理に用いられる。

正　解　b

［問題　102］ 咬合器の写真（**別冊午前** No.29）を別に示す。
矢印で示す角度の調節を行うのに必要な処置はどれか。1つ選べ。
a　パラトグラムの記録
b　ゴシックアーチの描記
c　前方チェックバイトの採得
d　フェイスボウトランスファー

▶歯科診療補助

選択肢考察

No.29

写真中の矢印で示されている部分は矢状顆路の調節機構であり、チェックバイト法を利用して咬合器に再現する。
×a　パラトグラムとは上顎口蓋部の床形態を診査する方法である。
×b　ゴシックアーチは水平的な顎間関係の決定や、水平面内における顎運動の診査に用いる。
○c　チェックバイト法の際には前方チェックバイトを採得し、矢状顆路傾斜角度を決定する。
×d　フェイスボウトランスファーとは、調節性咬合器に上顎模型を付着するための方法である。

正　解　c

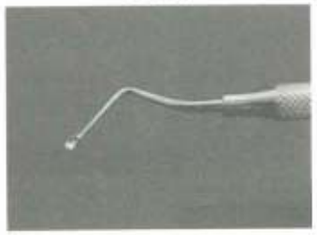
要点集 302：P42

［問題　103］ 歯科治療に用いる器具の写真（**別冊午前** No.30）を別に示す。
この器具の用途はどれか。1つ選べ。
a　骨膜の剥離
b　歯槽骨の切除
c　不良肉芽の除去
d　病的セメント質の除去

▶歯科診療補助

選択肢考察

No. 30



×a　骨膜の剥離は骨膜剥離子を用いて行う。
×b　歯槽骨の切除はスチールバーやダイヤモンドポイントなどの回転器具を用いる。
○c　写真の器具はエキスカベーターである。不良肉芽の除去に用いる。
×d　病的セメントの質除去はキュレット型スケーラーを用いて行う。

正　解　c

［問題　104］ 下顎右側智歯の抜歯途中の写真（**別冊午前** No. 31）を別に示す。歯冠部を頬舌方向に分割したところである。
次に使用するのはどれか。1つ選べ。
a　尖刃刀
b　縫合針
c　歯科用鋭匙
d　挺子（エレベーター）

▶歯科診療補助

No. 31

選択肢考察

難抜歯の流れは、① 口腔内洗浄、② 術野の消毒、③ 局所麻酔、④ 歯周靱帯の切離および粘膜切開、⑤ 粘膜骨膜弁の翻転、⑥ 骨削除および歯の分割、⑦ 患歯の脱臼、抜去、⑧ 病巣の掻爬、⑨ 創内洗浄、⑩ 縫合閉鎖である。写真は歯間の分割を行っており、次に行うのは患歯の脱臼である。
× a　尖刃刀は切開時に用いる。
× b　縫合は最後に行う。
× c　歯科用鋭匙は歯の抜去後に用いる。
○ d　歯冠分離後、挺子を用いて歯を脱臼させ、抜去する。

正解　d

［問題　105］ 矯正歯科治療中の口腔内写真（**別冊午前** No. 32）を別に示す。
アーチワイヤーの屈曲に用いるのはどれか。**2つ選べ。**
a　ホウのプライヤー
b　ヤングのプライヤー
c　ツイードのアーチベンディングプライヤー
d　ツイードのループフォーミングプライヤー

▶歯科診療補助

No. 32

選択肢考察

× a　ホウのプライヤーは、アーチワイヤーの結紮や着脱、シンチバック、エラスティックの装着などに用いる。
× b、○ c、○ d　アーチワイヤーの屈曲に用いられるプライヤーは目的や屈曲するワイヤーの断面形態により様々なものがある。ヤングのプライヤーはピークが三段の円筒状になっている。0.5～0.9mmのワイヤーの屈曲に用いられるが、先端の部分は細いため、0.7mm以上のワイヤーの屈曲に用いてはならない。ツイードのアーチベンディングプライヤーは角型のワイヤーの屈曲に用い、オフセット・インセット、トルクの付与に用いる。ツイードのループフォーミングプライヤーはワイヤーにオメガループ等のループを付与するために用いる。

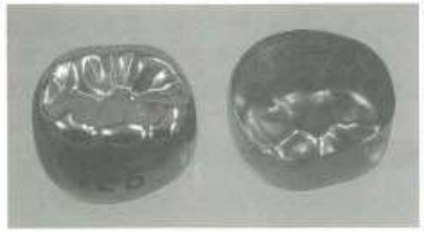
正解　c、d

要点集 302：P51

［問題　106］ 乳歯用既製冠の写真（**別冊午前** No. 33）を別に示す。
装着時に使用するのはどれか。**2つ選べ。**
a　金冠ばさみ
b　モスキート鉗子
c　ヤングプライヤー
d　ゴードンプライヤー

▶歯科診療補助

No. 33



選択肢考察

乳歯用既製冠修復には、金冠ばさみ、ゴードンのプライヤー、ムシャーンのプライヤー、咬合面調整鉗子、咬合紙、研磨用バーを用いる。
○ a　金冠ばさみで歯頸部の過剰部分を除去する。
× b　モスキート鉗子は止血鉗子である。
× c　ヤングのプライヤーは矯正用結紮線の屈曲に用いる。
○ d　ゴードンのプライヤーを用い、冠縁の切除と適合を行う。

正解　a、d

［問題　107］ 口腔清掃の日常生活自立度判定基準〈BDR 指標〉項目はどれか。**2つ選べ。**
a　うがい
b　義歯着脱
c　歯磨剤の使用
d　フロッシング

▶歯科診療補助

選択肢考察

○ a、○ b　BDR 指標とは、（寝たきり）高齢者の口腔清掃がどのような状態かを評価するものであり、口腔清掃の自立度判定基準となるほか、口腔清掃の実施度の目安にもなる。BDR 指標の評価項目は B：brushing（歯磨き）、D：denture wearing（義歯着脱）R：mouth rinsing（うがい）があり、この3項目を調べ、自立、一部介助、全介助の3段階で評価する。BDR 指標は口腔清掃指導や支援に役立てることができる。
× c、× d　BDR 指標項目に歯磨剤の使用やフロッシングは含まれていない。

正解　a、b

要点

◉ BDR 指標

		自　立	一部介助	全介助
BDR指標	B　歯磨き (Brushing)	a　ほぼ自分で磨く a 1　移動して実施する a 2　寝床で実施する	b　部分的には自分で磨く b 1　座位を保つ b 2　座位を保てない	c　自分で磨かない c 1　座位、半座位をとる c 2　半座位もとれない
	D　義歯着脱 (Denture Wearing)	a　自分で着脱する	b　着脱のどちらかができる	c　自分ではまったく着脱しない
	R　うがい (Mouth Rinsing)	a　ブクブクうがいをする	b　水を口に含む程度はする	c　水を口に含むこともできない

［問題　108］ 片麻痺のある患者の歩行介助で適切なのはどれか。**2つ選べ。**

a　患者の麻痺側に立つ。
b　杖は患側で持つよう指示する。
c　靴底は摩擦が少ないものを準備する。
d　階段を昇る場合は健側から昇るように指示する。

▶歯科診療補助

選択肢考察

○a　麻痺患者の歩行介助を行う際、介助者は麻痺側に立つ。
×b　杖は健側で持つため、杖を持たない側（患側）で介助する。
×c　摩擦が少ない靴底は滑りやすく、転倒する危険性が高い。
○d　階段を昇る際は、健側下肢→患側下肢の順に一段ずつ確実にゆっくり昇るよう指示する。

正　解　a、d

［問題　109］ 二等分法エックス線写真（**別冊午前** No.34）を別に示す。
失敗の原因として考えられるのはどれか。**2つ選べ。**

a　患者が動揺した。
b　照射線量が不足した。
c　フィルムを彎曲させた。
d　フィルムを保持した指が写った。

▶歯科診療補助

選択肢考察

No.34

○a　第一大臼歯の歯冠部の金属様不透過像のずれは、患者の動揺によるものである。
×b　照射線量が不足した場合は、黒化度が低下する。
○c　像の歪みの原因は、フィルムを彎曲させて保持したためである。
×d　指はフィルムの外にあるため写らない。

正　解　a、c

要点集 302：P86

［問題　110］ う蝕治療中に患者がてんかん発作を起こした。
直ちに行うのはどれか。1つ選べ。

a　心肺蘇生を開始する。
b　ボバース体位をとる。
c　口腔内の器具を取り出す。
d　トレンデレンブルグ体位に変換する。

▶歯科診療補助

選択肢考察

×a　心肺蘇生は「意識なし」、「脈拍なし」、「呼吸なし」の際に開始する。
×b　ボバース体位は脳性麻痺の患者に対して行う。
○c　てんかん発作を認めたら、歯科治療を中断し、口腔内の器具を取り出し安全を確保する。また、患者の衣服を緩め、患者がユニットから落ちたり、頭をぶつけないように注意を払う。
×d　トレンデレンブルグ体位は頭側を低くした体位である。てんかん発作の抑制にはならない。

正　解　c

要　点

◉ **てんかん患者の歯科治療中の注意点**
① てんかん発作の誘発因子、発作の初発時期、発作前・中・後の状況を詳細に把握する。
② 現在の服用薬とコントロールの状態を確認し、主治医と連携する。
③ てんかん大発作は生命の危険に繋がるため、発作の早期発見と早期対応が望ましい。
④ 原則として発作を誘発する行為は避ける。音や光、複雑な模様などの視覚刺激には注意する。

302

午後問題……解答・解説

［問題　1］　ミュールライターの三徴候が識別の目安となるのはどれか。1つ選べ。
a　上　下
b　左　右
c　歯　種
d　性　別

▶解剖学

選択肢考察

○b　ミュールライターの三徴候（隅角徴、彎曲徴、歯根徴）は、左右識別の目安となる。
①隅角徴：遠心切縁（咬合縁）隅角は、近心切縁（咬合縁）隅角よりも鋭角で丸みがある。
②彎曲徴：唇（頰）面の近心半部は、唇（頰）側に向かって強く突出している。
③歯根徴：根尖1/3は遠心に向かって屈曲する。

正　解　b

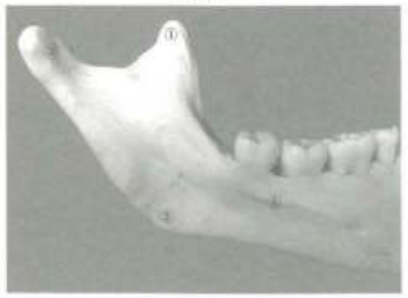
［問題　2］　下顎骨の写真（別冊午後 No. 1）を別に示す。
顎舌骨筋が付着するのはどれか。1つ選べ。
a　①
b　②
c　③
d　④

▶解剖学

選択肢考察

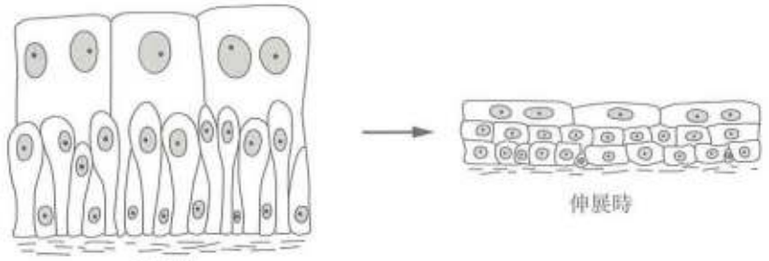
×a　①は筋突起で、側頭筋の停止部である。
×b　②は関節突起（翼突筋窩）で、外側翼突筋の停止部である。
×c　③は翼突筋粗面で、内側翼突筋の停止部である。
○d　④は顎舌骨筋線で、顎舌骨筋の付着部である。

No. 1



正　解　d

［問題　3］　上皮組織の模式図を示す。



この組織がみられるのはどれか。1つ選べ。
a　口　腔
b　食　道
c　小　腸
d　膀　胱

▶解剖学

選択肢考察

×a　口腔粘膜は重層扁平上皮である。
×b　食道は重層扁平上皮である。
×c　小腸は円柱上皮である。
○d　図は移行上皮である。移行上皮は伸び縮みをして、上皮細胞の形を変化させることができる上皮である。

正　解　d

［問題　4］　赤血球数の増加を促すのはどれか。1つ選べ。
a　ガストリン
b　メラトニン
c　テストステロン
d　エリスロポエチン

▶生理学

選択肢考察

エリスロポエチンは約34kDの糖タンパクで、赤芽球系前駆細胞や、ヘモグロビン合成前の赤芽球に作用して赤血球産生を亢進させる。
×a　ガストリンは胃酸の分泌を促進する。
×b　メラトニンは松果体から分泌され、睡眠と覚醒のリズムに関与する。
×c　テストステロンは精子形成の促進に関与する。
○d　エリスロポエチンは腎臓で産生され、赤血球産生を促進する。

正　解　d

［問題　5］　小腸において分解されずに取り込まれるのはどれか。1つ選べ。
　a　グルコース
　b　スクロース
　c　セルロース
　d　グリコーゲン

▶生理学

選択肢考察

○a　グルコースは単糖である。小腸の吸収上皮細胞にそのまま吸収される。
×b　スクロースは単糖であるグルコースとフルクトースが結合した二糖類の1種である。糖質分解酵素で分解を受けて吸収される。
×c　セルロースはβグルコースが重合した多糖類である。食物繊維の主成分であり、ヒトがもつ消化酵素では分解されない。
×d　グリコーゲンはα-D-グルコースが重合した多糖類である。

正解　a

［問題　6］　味覚神経線維を含むのはどれか。1つ選べ。
　a　三叉神経
　b　舌咽神経
　c　副神経
　d　舌下神経

▶生理学

選択肢考察

×a　三叉神経（下顎神経）は、舌前方2/3の知覚に関係する。
○b　舌咽神経は舌後方1/3の味覚を司る。
×c　副神経は第XI脳神経で、胸鎖乳突筋と僧帽筋に分布する。
×d　舌下神経は第XII脳神経で、舌の運動に関係する。

正解　b

［問題　7］　コラーゲンの合成に必要なのはどれか。1つ選べ。
　a　ビタミンA
　b　ビタミンB_1
　c　ビタミンC
　d　ビタミンD

▶生理学

選択肢考察

×a　ビタミンAは、視覚機能の維持や上皮細胞の正常化などに関与している。
×b　ビタミンB_1は、糖質やアミノ酸代謝に重要な働きをしている。
○c　コラーゲンはタンパク質であり、種々のアミノ酸から構成されている。なかでもコラーゲンに特徴的なアミノ酸であるヒドロキシプロリンとヒドロキシリシンは、プロリンとリシンの水酸化によって作られる。この水酸化にビタミンCが必要となる。
×d　ビタミンDはカルシウム代謝に関与している。

正解　c

［問題　8］　炎症の5大徴候はどれか。1つ選べ。
　a　虚　血
　b　充　血
　c　梗　塞
　d　機能障害

▶病理学

選択肢考察

×a　虚血とは、局所の血液量の現象である。長時間の虚血により、退行性病変（変性、萎縮、壊死）や梗塞が生じる。
×b　充血とは、局所へ動脈血の供給が増加することである。
×c　梗塞とは、血管の閉塞により生じる局所的虚血性壊死をいう。
○d　炎症とは、傷害や刺激に対して生体が示す反応である。炎症の臨床症状には、発赤、腫脹、発熱、疼痛、機能障害があり、これらを炎症の5大徴候という。

正解　d

［問題　9］　内側鼻突起と上顎突起の発育不全によって生じるのはどれか。1つ選べ。
　a　口唇裂
　b　口蓋裂
　c　斜顔裂
　d　横顔裂

▶病理学

選択肢考察

○a　口唇裂は内側鼻突起と上顎突起の発育不全によって生じる。
×b　口蓋裂は左右の口蓋突起の癒合が妨げられることによって生じる。
×c　斜顔裂は上顎突起と外側鼻突起の癒合不全によって生じる。
×d　横顔裂は上顎突起と下顎突起の癒合不全によって生じる。

正解　a

［問題　10］ 夏に流行し軟口蓋に多数の水疱を形成するのはどれか。1つ選べ。
- a 水　痘
- b 麻　疹
- c 手足口病
- d ヘルパンギーナ

▶病理学

選択肢考察

× a 水痘に季節性はなく、通常、軟口蓋における水疱形成もみられない。水痘が再感染した場合に生じる帯状疱疹は口腔内に水疱を形成するがこれも季節性はない。

× b 麻疹は我が国では春から夏にかけて流行する傾向にある。麻疹の際に出現するKoplik斑は主に頬粘膜に発生し、水疱を伴うこともあるが、一般に灰白色の発疹で軟口蓋に多発することはない。

× c 手足口病は夏季に流行するコクサッキーウイルスA群、エンテロウイルス71などによる疾患である。発熱とともに口腔粘膜と手掌、足底などの四肢末端に2～3mmの水疱性発疹が出現する。軟口蓋には水疱は生じない。

○ d ヘルパンギーナは初夏から秋口にかけて流行する主にコクサッキーウイルスA群による疾患である。突然の発熱に続いて、咽頭痛と咽頭粘膜の発赤、口腔内、主として軟口蓋に直径1～5mmの紅暈を伴う小水疱が多発性に出現する。

正　解　d

要点集 302：P59

［問題　11］ 形質細胞に分化するのはどれか。1つ選べ。
- a B細胞
- b 好中球
- c 樹状細胞
- d 肥満細胞

▶微生物学

選択肢考察

○ a B細胞は形質細胞に分化する。

× b 好中球は血中の白血球で最も多い。強い貪食能があり、自然免疫に関与する。骨髄球系に由来する。

× c 樹状細胞は抗原提示細胞の一つで、皮膚や気道粘膜などに存在する。

× d 肥満細胞は粘膜下組織や結合組織に存在する細胞で、IgEレセプターをもち、I型アレルギーの発症に関与する。

正　解　a

［問題　12］ 黒色色素産生菌はどれか。1つ選べ。
- a *Actinomyces viscosus*
- b *Prevotella intermedia*
- c *Tannerella forsythia*
- d *Treponema denticola*

▶微生物学

選択肢考察

× a *A. viscosus* はグラム陽性通性嫌気性桿菌で、根面う蝕や歯肉炎と関与すると考えられる。

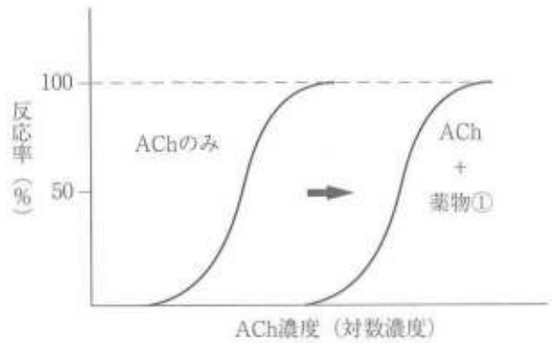
○ b *P. intermedia* や *P. gingivalis* などが黒色色素産生菌として知られる。

× c *T. forsythia* はグラム陰性偏性嫌気性紡錘菌で、*P. gingivalis* などと同様にトリプシン様酵素を産生するが、黒色色素は産生しない。慢性歯周炎の進行に関与すると考えられる。

× d *T. denticola* は代表的な口腔スピロヘータで、軸鞭毛をもち運動性がある。デンティリジンというトリプシン様酵素を産生するが、黒色色素は産生しない。慢性歯周炎の進行に関与すると考えられる。

正　解　b

［問題　13］ アセチルコリン（ACh）と薬物①による競合拮抗の図を示す。



薬物①はどれか。1つ選べ。
- a ジアゼパム
- b アスピリン
- c アトロピン
- d リドカイン

▶薬理学

選択肢考察

× a ジアゼパムはGABA受容体作用薬であり、AChとは競合拮抗しない。

× b アスピリンは非ステロイド性抗炎症薬であり、受容体に作用しないためAChとは競合拮抗しない。

○ c 作用薬と拮抗薬が競合的拮抗をする場合に、作用薬の受容体に拮抗薬が結合すると、作用薬が受容体から離れて作用が低下する現象である。作用薬の濃度が上昇すると拮抗薬が受容体から離れ、作用薬の最大効果が得られる。アセチルコリンはムスカリン受容体の作用薬で、その拮抗薬はアトロピンである。

× d リドカインはアミド型局所麻酔薬で、神経線維の Na^+ チャネルを遮断することで麻酔効果を発現する。

正　解　c

［問題　14］ 医薬品の開発プロセスで、少数の患者を対象とするのはどれか。1つ選べ。
- a　第1相試験
- b　第2相試験
- c　第3相試験
- d　薬物動態試験

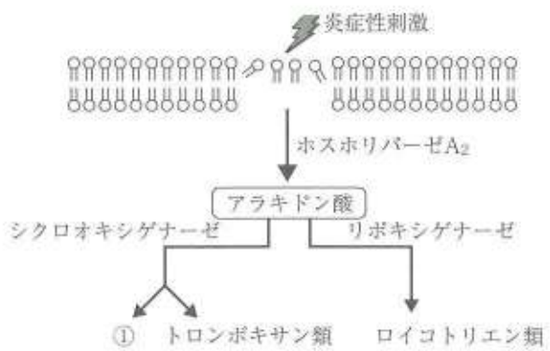
▶薬理学

選択肢考察

× a　臨床試験は、新薬の承認申請に必要なデータを作成するために、ヒトに行う試験で、第Ⅰ相～第Ⅲ相がある。第Ⅰ相試験は同意を得た少数の健康人を対象とする。
○ b　第Ⅱ相試験は同意を得た少数の患者を対象とし、有効で安全な投薬量や投薬方法などを確認する。
× c　第Ⅲ相は同意を得た多数の患者を対象とし、二重盲検試験などにより、既存薬と比較した新薬の有効性や安全性を確認する。
× d　薬物動態試験は、臨床試験より前の段階の前臨床試験において、体内薬物動態を調べるために、動物を用いて行う。

正解　b

［問題　15］ アラキドン酸カスケードの図を示す。



①に該当するのはどれか。1つ選べ。
- a　ブラジキニン
- b　リポコルチン
- c　プロスタグランジン
- d　ロキソプロフェンナトリウム

▶薬理学

選択肢考察

× a　ブラジキニンは内因性発痛物質で、血漿タンパクから合成される。
× b　リポコルチンはステロイド性抗炎症薬によって産生されるタンパクで、ホスホリパーゼA_2の活性を阻害することで、アラキドン酸遊離を抑制する。
○ c　①はプロスタグランジンである。プロスタグランジンはシクロオキシゲナーゼの作用によりアラキドン酸から合成される。
× d　ロキソプロフェンナトリウムは非ステロイド性抗炎症薬で、シクロオキシゲナーゼを阻害することで抗炎症作用を示す。

正解　c

要点集 302：P64

［問題　16］ 胃食道逆流症による酸蝕症の好発部位はどれか。1つ選べ。
- a　上顎前歯口蓋側面
- b　上顎臼歯咬合面
- c　下顎前歯切縁
- d　下顎前歯唇側面

▶口腔衛生学

選択肢考察

酸蝕症は口腔内細菌が産生した酸以外の酸によって歯が溶解する疾患である。原因となるのは、① 酸取り扱い作業者の職業性曝露　② 酸性食品による脱灰　③ 胃食道逆流症による胃酸による脱灰などがある。

○ a　胃食道逆流症による胃酸に起因する脱灰は、胃酸が直接触れやすい上顎前歯口蓋側面などに好発する。
× b　食品による酸蝕は咬耗を助長することから、上下顎臼歯咬合面で進行することが多い。
× c　酸取り扱い作業者の職業性曝露では大気中からの酸の暴露によるため、下顎前歯切縁に生じやすい。
× d　酸性食品を摂取した直後にブラッシングを行うと、下顎前歯唇側面のエナメル質の損耗が生じやすい。そのため酸性食品を摂取したあとは、30分ほど時間をおいてからブラッシングをするとよい。

正解　a

［問題　17］ 6～7歳児への口腔清掃指導で適切なのはどれか。1つ選べ。
- a　ブクブクうがい
- b　歯間ブラシの使用法
- c　第一大臼歯に対する一歯磨き
- d　永久切歯に対するローリング法

▶口腔衛生学

選択肢考察

× a　水によるブクブクうがいでは歯垢を十分に落とすことができない。
× b　歯間ブラシは、歯肉の退縮により歯間部に空隙がみとめられる部位に適応される補助的清掃用具である。一般に、6～7歳児へは適さない。
○ c　6～7歳児は第一大臼歯の萌出期であり、第一大臼歯に対する一歯磨きがとくに重要である。
× d　永久切歯に対するローリング法は歯肉マッサージを主目的としたブラッシング法であり、第一大臼歯のう蝕予防には適さない。

正解　c

［問題　18］ 26歳の女性。上下顎前歯部歯肉の発赤と腫脹を主訴として来院した。初診時の口腔内写真（別冊午後 No. 2）を別に示す。医療面接の結果の一部を表に示す。

ブラッシング回数	1日2回（朝、就寝前）
間　食	ほぼ毎日午後3時にしている
補助的清掃器具	使っていない
歯磨剤	フッ化物配合歯磨剤を使用中

主訴に対する指導内容で優先すべきなのはどれか。1つ選べ。
a　間食の摂り方
b　ブラッシング方法
c　デンタルフロスの使用
d　ブラッシング回数の増加

▶口腔衛生学

No. 2

選択肢考察

× a　間食の摂り方や内容はう蝕発生に深く関与するが、う蝕を疑う所見はないため、優先すべき事項ではない。
○ b　前歯部歯肉の発赤と腫脹は、前歯部の叢生による不十分なブラッシングが原因として考えられる。よって、まずは適切なブラッシング方法を指導する。
× c　まずは歯ブラシによるブラッシングを徹底し、その後に補助的清掃器具を指導する。
× d　歯肉の発赤や腫脹はブラッシング回数よりも方法に原因があるため、まずはブラッシング方法を改善する。

正解　b

［問題　19］ 歯のフッ素症の特徴はどれか。2つ選べ。
a　う蝕抵抗性が高い。
b　左右側同名歯に発症する。
c　象牙質の形成不全である。
d　永久歯に比べて乳歯に発症しやすい。

▶口腔衛生学

選択肢考察

歯のフッ素症（斑状歯）はフッ化物による慢性中毒の1つで、歯の形成期に数か月から数年に渡って高濃度のフッ化物を含有する飲料水を飲水したときに出現するエナメル質形成不全である。フッ素は胎盤を通過しにくいため、乳歯では発症が稀である。
○ a　う蝕抵抗性は高い。
○ b　左右の歯に対称的に現れる。
× c　エナメル質の形成不全である。
× d　フッ素は胎盤を通過しにくいため、乳歯での発症は稀である。

正解　a、b

要点

◉ フッ素症（斑状歯）の特性
- 歯の形成期に数か月から数年に渡って高濃度のフッ化物を含有する飲料水を飲水したときに出現する。
- 同一水源の地域に集団的に発現する。
- 左右対称に発現する。
- 乳歯は永久歯に比べて発現しにくい。
- 発現は飲用水のフッ素濃度だけでなく、年間平均気温にも影響を受ける（気温が高いと飲水量が多くなるため）。

◉ フッ素の毒性

急性毒性	急性毒性発現量　1～2mg/kg（成人　NaFで100～200mg）		
	症　状	吐き気、胃腸障害	
	処　置	• 牛乳の飲用（カルシウムの存在により、吸収が阻害される） • 石灰水での胃洗浄 • 10%グルコン酸カルシウムの静注ぶどう糖溶液の静注	
	致死量　2～5g		
慢性毒性	飲用水1～2ppm以上		斑状歯（歯牙形成期）
	飲用水8ppm以上		骨硬化症（10年以上）

［問題　20］ 健康日本21（第二次）の目標項目はどれか。**2つ選べ。**

a　3歳児でう蝕がない者の割合
b　40歳における歯間部清掃器具を使用している者の割合
c　60歳代における咀嚼良好者の割合
d　80歳で喪失歯のない者の割合

▶口腔衛生学

選択肢考察

○a、c　健康日本21（第二次）では、「歯・口腔の健康は、口から食べる喜び、話す楽しみを保つ上で重要であり、身体的な健康のみならず、精神的、社会的な健康にも大きく寄与する」としている。そして、歯の喪失による咀嚼機能や構音機能の低下は多面的な影響を与え、最終的に生活の質に大きく関連することから 重点 にある目標を設定している。

正　解　a、c

要　点

◉ 健康日本21（第二次）の目標項目

歯・口腔の健康	① 口腔機能の維持・向上 （60歳代における咀嚼良好者の割合の増加）
	② 歯の喪失防止 ア　80歳で20歯以上の自分の歯を有する者の割合の増加 イ　60歳で24歯以上の自分の歯を有する者の割合の増加 ウ　40歳で喪失歯のない者の割合の増加
	③ 歯周病を有する者の割合の減少 ア　20歳代における歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少 イ　40歳代における進行した歯周炎を有する者の割合の減少 ウ　60歳代における進行した歯周炎を有する者の割合の減少
	④ 乳幼児・学齢期のう蝕のない者の増加 ア　3歳児でう蝕がない者の割合が80％以上である都道府県の増加 イ　12歳児の一人平均う歯数が1.0歯未満である都道府県の増加
	⑤ 過去1年間に歯科検診を受診した者の割合の増加

［問題　21］ 3歳児歯科健康診査で歯の汚れの診査部位として規定されているのはどれか。1つ選べ。

a　上顎4前歯唇面
b　上下顎8前歯唇面
c　上顎全歯唇（頬）面
d　上下顎全歯唇（頬）面

▶口腔衛生学

選択肢考察

○d　3歳児歯科健康診査における歯の清掃状況（歯の汚れ）は、全歯唇面の歯垢の付着を診査し、ほぼ全歯の唇面に歯垢が付着していて、清掃指導を必要とする者を清掃不良とする。

正　解　d

［問題　22］ 前向きコホート研究と比べた後向きコホート研究の利点はどれか。**2つ選べ。**

a　結果の信頼性が高い。
b　労力が少なくてすむ。
c　研究に要する期間が短い。
d　調査対象者が少なくてよい。

▶衛生学・公衆衛生学

選択肢考察

前向きコホート研究は、現時点から未来の事象を調査することであり、後向き研究は過去の事象を調査することである。前向き研究は、これから研究を行うため、調べたい項目を予め決めてから調査するため、交絡因子の調整がしやすく、研究結果の信頼性が高い。一方、後向き研究は、実際に試験はせず過去の資料を調べるだけであるため、コストや労力が少なく、調査期間も短い。しかし過去の記録であることと、調査項目はすでに記録として残っているものに限定されることから、前向き研究に比べて結果の信頼性は低い。

×a　結果の信頼性は前向きコホート研究が高い。
○b　労力は、後向きコホート研究で少ない。
○c　後向きコホート研究は研究に要する期間が短い。
×d　罹患率などにより、後向きコホート研究が常に必要調査対象者数が少なくてよいわけではない。

正　解　b、c

［問題　23］ 介護給付費（利用者負担を除く）における公費の負担割合はどれか。1つ選べ。

a　20％
b　30％
c　40％
d　50％

▶衛生学・公衆衛生学

選択肢考察

○d　要介護認定を受けた被保険者が利用する介護保険サービスの費用（介護給付費）は、原則としてかかった費用の1割をサービス利用者が負担する。ただし、平成27年8月より、一定以上の所得がある被保険者は利用者負担が2割となり、平成30年8月からは、特に所得の高い被保険者は3割負担となった。また、介護保険の財源は下図のように、国（国庫負担金＋調整交付金）・県・市町村の公費（税金）と、40歳以上の被保険者が支払う介護保険料等でまかなわれている。

◉ 介護保険制度の財政構成

正　解　d

［問題　24］ 国際生活機能分類〈ICF〉の要素と具体例の組合せで正しいのはどれか。**2つ選べ。**

a　活　動 ―――――― 就　職
b　参　加 ―――――― ボランティア活動
c　環境因子 ―――――― バリアフリー
d　個人因子 ―――――― 車椅子の使用

▶衛生学・公衆衛生学

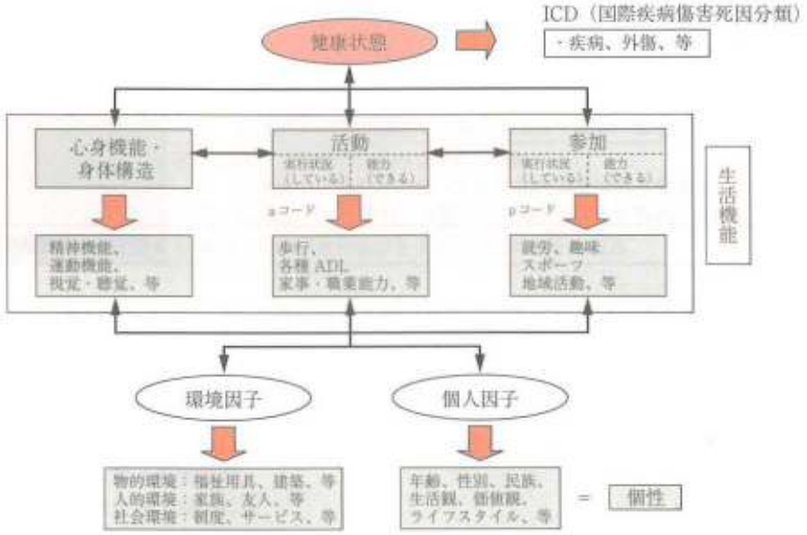
選択肢考察

○b、c　ICFは、障害の持つ持たざるに関わらず、すべての人を対象とした生活機能、生きることの全体を現すものである。障害に関する国際的な分類としては、「WHO国際障害分類（ICIDH）」が用いられてきたが、2001年5月のWHO第54回総会において、その改訂版として「ICF」を採択した。ICFは、人間の生活機能と障害について「心身機能・身体構造」「活動・参加」の次元及び「環境因子・個人因子」等の影響を及ぼす因子で構成されており、「ICIDH」が身体機能の障害による生活機能の障害（社会的不利）を分類するという考え方が中心であったのに対し、ICFはこれらに環境因子という観点を加え、例えば、バリアフリー等の環境を評価できるように構成されている。
要点 参照。

正　解　b、c　　DH 21：P 498

要　点

◉ ICF（国際生活機能分類）概念図（具体例が入ったもの）



［問題　25］ 温熱感覚の**要素でない**のはどれか。1つ選べ。

a　気　圧
b　気　温
c　気　湿
d　気　流

▶衛生学・公衆衛生学

選択肢考察

×a　気圧は温熱感覚とは関係しない。
○b、○c、○d　温熱感覚を規定する要素は気温、気湿（湿度）、気流、輻射熱の4つである。

正　解　a

［問題　26］ セカンドオピニオンとしての対応で適切なのはどれか。1つ選べ。

a　検査の実施
b　転医の推奨
c　治療の実施
d　治療方針の提示

▶衛生学・公衆衛生学

選択肢考察

○d　セカンドオピニオンとは、患者が、検査や治療を受けるに当たって、主治医以外の医師に求めた「意見」、または、「意見を求める行為」であり、患者が自己決定を行うための判断材料である。「診療」ではなく「相談」である。現在の治療で回復への希望が失われたとき、治療法の選択において病状がボーダーラインにあるとき、地方在住などで専門医の診断を受けていないとき、疾患の原因が不明または稀な疾患のときなどが、セカンドオピニオンの有用性が高いとされている。本問は、セカンドオピニオンにおいて医療者がなにを患者になすべきことが適切なのかを問うている。

正　解　d

［問題　27］ 検診等と根拠法令の組合せで正しいのはどれか。**2つ選べ。**

a　歯周疾患検診 ――― 健康増進法
b　特殊健康診断 ――― 労働基準法
c　特定健康診査 ――― 地域保健法
d　就学時健康診断 ――― 学校保健安全法

▶衛生学・公衆衛生学

選択肢考察

○a　健康増進法では市町村による健康増進事業として、歯周疾患検診・骨粗鬆症検診・肝炎ウイルス検診・特定健康診査非対象者に対する健康診査・がん検診の各事業が規定されている。

×b　特殊健康診断とは、労働安全衛生法第66条第2、3項に定められた健康診断で、じん肺法第3条に定められていた健康診断を含めて、労働衛生対策上特に有害であるといわれている業務に従事する労働者等を対象として実施する健康診断である。

×c　特定健康診査とは、高齢者の医療の確保に関する法律に基づいて、日本人の死亡原因の約6割を占める生活習慣病の予防のために、40歳から74歳までの医療保険被保険者、被扶養者を対象に実施される、メタボリックシンドロームに着目した健診である。

○d　就学時健康診断とは学校保健安全法に基づき、初等教育に就学する直前に行なわれる健康診断である。就学前年度の11月30日までに実施される。

正解　a、d

［問題　28］ 主な感染経路が垂直感染なのはどれか。**2つ選べ。**

a　結　核
b　梅　毒
c　風　疹
d　百日咳

▶衛生学・公衆衛生学

選択肢考察

×a　結核は空気感染により伝播する。

○b、○c　垂直感染とは、病原体が親から直接その子孫に伝播される感染様式で、胎内感染と産道感染とがある。胎内感染には、梅毒や風疹があり、産道感染にはB型肝炎やAIDSなどがある。

×d　百日咳は飛沫感染により伝播する。

正解　b、c

［問題　29］ 職場のストレスチェックを規定しているのはどれか。1つ選べ。

a　健康増進法
b　地域保健法
c　労働基準法
d　労働安全衛生法

▶衛生学・公衆衛生学

選択肢考察

○d　労働安全衛生法に基づく、ストレスチェック制度は、定期的に労働者のストレスの状況について検査を行い、本人にその結果を通知して自らのストレスの状況について気付きを促し、個人のメンタルヘルス不調のリスクを低減させるとともに、検査結果を集団的に分析し、職場環境の改善につなげることによって、労働者がメンタルヘルス不調になることを未然に防止することを主な目的としたものである。

正解　d

［問題　30］ 介護保険制度における保険者はどれか。1つ選べ。

a　国
b　保健所
c　都道府県
d　市町村及び特別区

▶衛生学・公衆衛生学

選択肢考察

○d　介護保険制度を運営する主体「保険者」は市町村および特別区である。保険者の役割は、介護保険事業計画を策定し、実施することである。徴収した保険料をどう使うかを決定するのは保険者なので、どこに住民票があるかによって、受けられるサービスの質や保険料には差がある。

正解　d

［問題　31］ 患者の権利を謳っているのはどれか。1つ選べ。

a　オタワ憲章
b　リスボン宣言
c　ヘルシンキ宣言
d　アルマ・アタ宣言

▶歯科衛生士概論

選択肢考察

×a　オタワ憲章はWHOとカナダ公衆衛生協会の共催による国際会議で取り決められたヘルスプロモーションに関する憲章である。

○b　リスボン宣言では、患者の権利、一般治療におけるインフォームド・コンセントが謳われている。

×c　ヘルシンキ宣言は、ヒトにおける生命医学研究に携わる医師のための勧告である。

×d　アルマ・アタ宣言はWHOとUNICEFの合同の国際会議で採択された宣言であり、プライマリー・ヘルス・ケアの理念が統一された。

正解　b

［問題　32］ データの種類における順序尺度はどれか。**2つ選べ。**

a　CPI
b　性　別
c　年　齢
d　要介護度

▶歯科衛生士概論

選択肢考察

統計や調査データは、測定値の示す特徴によって以下の4つに分類される。
①名義尺度：文字データが該当する。直接大小関係はみられない場合がほとんどである。
②順序尺度：大小関係はあるが、1と2、2と3が等間隔でない（差に意味をもたない）場合である。
③間隔尺度：日数や温度などのように等間隔性が保たれている場合である。
④比率尺度：0点を有するもので、またデータの2倍、3倍などにも意味がある場合である。長さや質量などのような測定値が該当する。

○a　CPIはコードにより大小関係に意味があるが、差には意味がないため順序尺度である。
×b　性別は名義尺度である。
×c　年齢は比率尺度である。
○d　要介護度は順序尺度である。

正　解　a、d

［問題　33］ インシデントレポートで正しいのはどれか。1つ選べ。

a　医療事故の責任を追及する。
b　報告者は医師と歯科医師に限る。
c　医療事故調査制度で定める義務である。
d　医療事故を未然に防ぐことを目的とする。

▶歯科衛生士概論

選択肢考察

×a　「インシデント」は、日常診療の場で、誤った医療行為などが患者に実施される前に発見されたもの、あるいは誤った医療行為などが実施されたが、結果として患者に影響を及ぼすに至らなかったものをいう。
×b　医療現場に従事するすべての者が対象である。
×c　医療事故調査制度は、患者の「予期せぬ死亡」が発生した場合に医療機関が医療事故調査・支援センターに報告する制度である。
○d　インシデントレポートはヒヤリ・ハット事例の収集手段であり、医療事故を未然に防ぐことを目的とする。

正　解　d

［問題　34］ 3歳の男児。定期検診のため来院した。
口腔の診察でわかるのはどれか。1つ選べ。

a　歯列弓長径
b　リーウェイスペース
c　第一大臼歯の異所萌出
d　ターミナルプレーンの型

▶歯科臨床の基礎

選択肢考察

3歳の男児は一般的にHellmanの歯齢ⅡA期（乳歯咬合完成期）である。ターミナルプレーンは、ⅡA期における中心咬合位での上下顎第二乳臼歯遠心面の垂直的な位置関係である。
×a　歯列弓長径は口腔の診察のみではわからず、模型分析が必要である。
×b　リーウェイスペースは乳歯列の側方歯群（C＋D＋E）の歯冠幅径の和と永久歯列の側方歯群（3＋4＋5）の歯冠幅径の和の差であり、口腔内診査ではわからない。
×c　3歳では第一大臼歯は萌出していないため視診では確認できない。
○d　ターミナルプレーンは上顎第二乳臼歯遠心面の位置関係で、咬合状態により、垂直型、近心階段型、遠心階段型と分類し、口腔の診察で確認できる。

正　解　d

［問題　35］ 1回の検査で過去1か月間の血糖値を推定するのはどれか。1つ選べ。

a　尿　糖
b　HbA1c
c　空腹時血糖
d　尿ケトン体

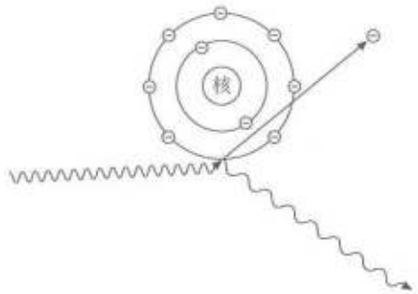
▶歯科臨床の基礎

選択肢考察

×a　血糖値が160～180mg/dL以上になると、尿中のグルコースが再吸収されることなく排泄される。従って、ある一定期間の血糖値を反映するものではなく、健常者でも微量に検出されることがある。糖尿病診断においてはスクリーニングの1つである。
○b　HbA1c（基準範囲：4.7～6.2%、6.5%以上で糖尿病型）はヘモグロビンにグルコースが付加されたものである。血糖値が高い状態が持続すると非酵素性に血中に生じる物質であり、過去1～2か月間の血糖の状態を反映するため、糖尿病の診断指標として用いられる。
×c　空腹時血糖は10～14時間絶食し、空腹の状態で測定した血糖値をいう。現在の血糖値を反映したもので、ある一定期間の血糖値を反映するものではない。糖代謝異常のスクリーニングとなる（126mg/dL以上で糖尿病型）。
×d　ケトン体は糖尿病による糖利用障害や、飢餓状態で脂肪酸がエネルギーとして用いられた際に、血中や尿中で増加する。血糖値を反映した検査項目ではない。

正　解　b

［問題　36］ エックス線と物質との相互作用の模式図を示す。



この現象はどれか。1つ選べ。

a　光電効果
b　重積効果
c　接線効果
d　コンプトン効果

▶歯科臨床の基礎

選択肢考察

原子にエックス線が入射すると、反跳電子が放出されるとともに、波長の長い散乱エックス線が生じる。このような散乱線を生じるエックス線と物質との相互作用をコンプトン効果という。また、散乱線を生じない物質との相互作用（吸収）は光電効果である。

× a　光電効果では散乱線を生じない。
× b　2つ以上の構造が重なった時に、それぞれの透過性の相違によってエックス線像として描出が困難になることがある。これを重積効果という。
× c　被写体の境界面に接点をもつようにエックス線が入射すると輪郭が明瞭に描出される。これを接線効果という。
○ d　散乱線を生じるエックス線と物質との相互作用はコンプトン効果である。

正解　d

［問題　37］ 60歳の男性。下顎左側第一大臼歯の違和感を主訴として来院した。10年前にう蝕治療のため間接修復を受け問題なく経過していたが、1か月前から気になるようになったという。検査の結果、う蝕と診断し、補修修復を行うことになった。初診時のエックス線写真（**別冊午後** No. 3A）とう蝕除去中の口腔内写真（**別冊午後** No. 3B）を別に示す。

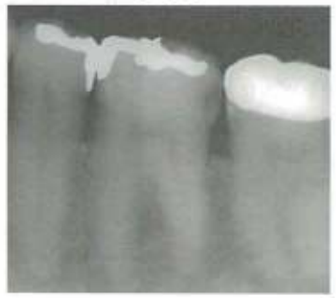
次に行うのはどれか。1つ選べ。

a　インレー除去
b　ウェッジ挿入
c　リテーナー装着
d　メタルマトリックス挿入

▶歯科臨床の基礎

選択肢考察

No. 3A



B

本症例は下顎左側第一大臼歯の遠心隣接面に発生したう蝕を補修修復する症例である。う窩の開拡、感染象牙質の削除、窩洞形成を行い、修復材の填塞を行う。隣接面の窩洞形成時には、回転切削器具による傷害から歯間乳頭の歯肉を保護するためにブレウェッジが有効である。

× a　メタルインレーとう窩の間に健全歯質が存在しており、また補修修復を行うためインレーは除去しない。
○ b　隣接面の窩洞形成時には、歯間分離し隣接歯隣接面や歯間乳頭部の歯肉を保護する目的でウェッジを歯間部に挿入する。
× c、× d　窩洞形成後にメタルマトリックスを装着し、その後リテーナーを装着する。

正解　b

［問題　38］ 55歳の男性。下顎左側第一小臼歯の変色を主訴として来院した。6か月前に気付いたが痛みがないためそのままにしていたという。検査の結果、コンポジットレジン修復を行うことになった。初診時の口腔内写真（**別冊午後** No. 4A）とエックス線写真（**別冊午後** No. 4B）を別に示す。窩洞形成時に使用するのはどれか。**2つ選べ。**

a　圧排コード
b　ガムリトラクター
c　サービカルマトリックス
d　トップフルマイヤー型リテーナー

▶歯科臨床の基礎

No. 4A

B

選択肢考察

○a　歯質切削時に圧排コードで歯肉を圧排し、切削器具による外傷から保護することが有効である。
○b　歯質切削時に歯頸部の歯肉をガムリトラクターで圧排、保護することは重要である。
×c　サービカルマトリックスは、コンポジットレジンの填塞時の付形や加圧填塞、重合硬化時に有効である。
×d　トップフルマイヤー型リテーナーは、咬合面が開放された隣接面窩洞を成形修復する際に用いる。

正　解　a、b

［問題　39］ Tooth Wear に含まれるのはどれか。**2つ選べ。**

a　う　蝕
b　酸　蝕
c　変　色
d　摩　耗

▶保存修復学

選択肢考察

×a　う蝕は感染症であるため含まれない。
○b、○d　酸蝕症、摩耗は Tooth Wear に含まれる。感染によらない歯質の喪失を Tooth Wear（歯牙の損耗）といい、① 咬耗（attrition）、② 摩耗（abrasion）、③ 酸蝕症（erosion）、④ アブフラクション（abfraction）が含まれる。
酸蝕症は原因によって内因性と外因性に分けられ、内因性はおもに胃酸の逆流による歯の脱灰であるのに対して、外因性は pH 5.5 以下の酸性食品の摂取が原因であると考えられている。
×c　変色は歯質の喪失とは無関係である。

正　解　b、d

［問題　40］ 55歳の男性。上顎左側第一大臼歯の補綴装置脱離を主訴として来院した。1週前に脱離したがそのままにしていたという。診察の結果、感染根管治療を行うことになった。初診時の口腔内写真（**別冊午後** No. 5）を別に示す。一連の治療過程を図に示す。

う蝕除去
↓
①
↓
②
↓
③
↓
④
↓
根管長測定
↓
根管拡大・形成
↓
根管洗浄
↓
根管貼薬
↓
仮　封

③に入るのはどれか。1つ選べ。
ただし、①～④はa～dのいずれかに該当する。

a　髄室開拡
b　隔壁形成
c　根管口明示
d　ラバーダム防湿

▶歯内療法学

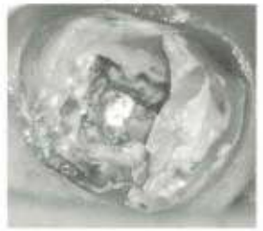
選択肢考察

患歯は歯冠の崩壊が著しく、罹患歯質の除去後、ラバーダム防湿の施行は困難と考えられる。従ってう蝕の除去後、接着性コンポジットレジンを用いて歯冠形態を修復（隔壁形成）し、ラバーダム防湿を行う。その後、根管処置に先立ち、歯冠歯髄腔を開放して根管に器具を到達させるための経路を確保する髄室開拡を行う。髄室開拡後、根管口明示を行い、根管長測定へと治療を進めていく。

○a　髄室開拡はラバーダム防湿の後に行うため③である。
×b　隔壁形成はう蝕除去の後に行うため①である。
×c　根管口明示は髄室開拡の後に行うため④である。
×d　ラバーダム防湿は隔壁形成の後に行うため②である。

正　解　a

No. 5



［問題　41］ 35歳の男性。上顎右側第一大臼歯の自発痛を主訴として来院した。2か月前から食片圧入があり、昨夜から拍動性の疼痛と温熱痛を自覚しているという。歯髄電気診で閾値の上昇がみられた。初診時の口腔内写真（**別冊午後** No. 6A）とエックス線写真（**別冊午後** No. 6B）を別に示す。
考えられるのはどれか。1つ選べ。
a　歯髄充血
b　急性単純性歯髄炎
c　急性化膿性歯髄炎
d　慢性潰瘍性歯髄炎

▶歯内療法学

選択肢考察

×a、×b、×d　拍動性の自発痛と温熱痛があり、歯髄電気診で閾値の上昇がみられたため歯髄充血、急性単純性歯髄炎や慢性潰瘍性歯髄炎ではない。
○c　拍動性の自発痛と温熱痛、歯髄電気診で閾値の上昇がみられ、エックス線写真からは露髄が疑われるため急性化膿性歯髄炎と診断される。

No. 6A

B

正　解　c

要点集 302：P2

［問題　42］ 歯髄炎と根尖性歯周炎の鑑別診断に必要なのはどれか。1つ選べ。
a　透照診
b　歯髄電気診
c　口内法撮影
d　インピーダンス測定検査

▶歯内療法学

選択肢考察

×a　透照診は、隣接面う蝕や歯冠の亀裂の有無の判定をするために行う。
○b　歯髄に活性があれば歯髄炎、歯髄に活性がなければ根尖性歯周炎に移行したと判断できる。歯髄の生死を最も正確に判定できる診断法が歯髄電気診である。
×c　エックス線検査で炎症の有無は判断できない。
×d　インピーダンス測定により露髄の有無は正確に判定できる。しかし、歯髄炎と根尖性歯周炎の鑑別診断はできない。

正　解　b

［問題　43］ 42歳の男性。上顎前歯部の歯肉の違和感を主訴として来院した。歯周基本治療後の再評価の結果、歯周外科治療を行うことになった。初診時の口腔内写真（**別冊午後** No. 7A）、エックス線写真（**別冊午後** No. 7B）および再評価時の歯周組織検査結果の一部（**別冊午後** No. 8）を別に示す。
考えられる処置はどれか。1つ選べ。
a　GTR法
b　歯肉切除術
c　小帯切除術
d　フラップ手術

▶歯周治療学

No. 7A

B

No. 8

頬　側*	4	4	5	4	2	3	3	2	5
歯　種	2			1			1		
舌　側*	5	4	6	4	3	4	4	3	5
動揺度**	1			1			1		

*　：歯周ポケットの深さ（mm）
**：Millerの判定基準

選択肢考察

エックス線写真における歯槽骨吸収の有無及び吸収の型、口腔内写真から歯肉の形態、再評価検査の結果から、歯周外科治療の適応を考える。
×a　エックス線写真で、全体的に水平性骨吸収が認められ、垂直性骨吸収はないため、GTRの適応とはならない。
×b　エックス線写真で垂直性骨吸収があり、口腔内写真で歯肉増殖も認められないため、残存しているのは真性ポケットであり、歯肉切除術の適応ではない。
×c　口腔内写真で、上唇小帯の高位付着は認められない。
○d　全体的な4～6mmの歯周ポケット残存と、水平性骨吸収からフラップ手術が適切である。

正　解　d

［問題　44］ 40歳の女性。下顎右側側切歯と犬歯の歯肉退縮を主訴として来院した。これまでに夜間の歯ぎしりを指摘されたことがあったが、矯正治療や歯周治療を受けたことはなかったという。初診時の口腔内写真（**別冊午後** No. 9 A）、エックス線写真（**別冊午後** No. 9 B）および歯周組織検査結果の一部（**別冊午後** No.10）を別に示す。エックス線写真で歯根膜腔の拡大を認める。

歯肉退縮の原因として考えられるのはどれか。**2つ選べ。**

a　歯肉炎
b　外傷性咬合
c　小帯の付着位置異常
d　不適切な歯ブラシの使用

▶歯周治療学

No. 9 A

B

No.10

舌　側*	3	2	2	2	2	2
歯　種		3			2	
唇　側*	3	2	2	2	2	2
動揺度**		1			1	

*　：歯周ポケットの深さ（mm）
**：Millerの判定基準

選択肢考察

× a　歯肉炎では歯肉退縮は生じない。
○ b　咬合性外傷の症状の一つである。エックス線写真で遠心に歯根膜腔拡大があり、動揺度も1度あることから咬合性外傷があることが疑われる。
× c　小帯の位置異常は認められない。
○ d　不適切なブラッシングは歯肉退縮の原因となる。

正　解　b、d

［問題　45］ 28歳の女性。下顎左側小白歯部のブラッシング時の痛みを主訴として来院した。1年前から自覚していたがそのままにしていたという。歯周基本治療後の再評価時のプロービング深さはすべて3mm以下であったが、症状が改善されなかったため、歯肉結合組織移植術を行うことになった。初診時の口腔内写真（**別冊午後** No.11 A）と術中の口腔内写真（**別冊午後** No.11 B）を別に示す。

この手術の目的はどれか。**2つ選べ。**

a　新付着の獲得
b　角化歯肉幅の増大
c　露出歯根面の被覆
d　歯周ポケットの除去

▶歯周治療学

No.11 A

B

選択肢考察

× a　新付着は新生セメント質の形成を伴う結合組織性の付着であり、GTR法など歯周組織再生療法でみられる。
○ b、○ c　ブラッシング時の疼痛の原因としては、歯肉退縮に伴う根面露出による知覚過敏や、付着歯肉幅の狭小によるブラッシング時の歯肉の擦過傷が考えられる。歯肉結合組織移植術を行うことにより、根面を被覆して知覚過敏を防止し、また角化歯肉幅が増大することでブラッシングしやすくなる。
× d　プロービング深さが3mm以下で正常範囲と考えられる。歯周ポケットの除去を目的とした歯周外科治療は必要ない。

正　解　b、c

［問題　46］ プロビジョナルレストレーションの目的はどれか。**2つ選べ。**

a　歯石の除去
b　う蝕の治療
c　審美性の回復
d　歯周環境の改善

▶歯科補綴学

選択肢考察

× a　歯石の除去はスケーリングの目的である。
× b、○ c、○ d　プロビジョナルレストレーションは、形成後の支台歯を暫間的に被覆するクラウンやブリッジのことである。最終補綴装置のためのよりよい環境や条件の準備をするためのもので、歯髄・歯質の保護に加え、歯周組織を健康に保つなどの役割をもつ。

正解　c、d

［問題　47］ 補綴装置の写真（**別冊午後** No.12A、B）を別に示す。
この装置の特徴はどれか。**2つ選べ。**

a　審美性に優れる。
b　着脱が困難である。
c　維持力の変化が少ない。
d　義歯床内面にキーパーが埋め込まれている。

▶歯科補綴学

No.12 A

B

選択肢考察

○ a　写真の装置は磁性アタッチメントである。維持装置が内面にあるため、審美性に優れている。
× b　磁力による維持のため、着脱が容易である。
○ c　磁力は変化しないため、クラスプに比べ維持力の変化が少ない。
× d　根面板上にキーパー（磁性体）、義歯床内面に磁性構造体が埋め込まれている。

正解　a、c

要点集 302：P41

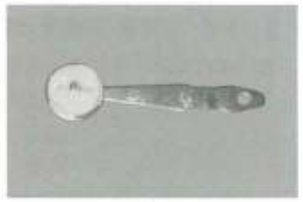
［問題　48］ 45歳の女性。上顎左側第一小臼歯の審美不良を主訴として来院した。1年前に全部金属冠を装着したが、最近になって気になってきたという。診察の結果、陶材焼付金属冠を装着することになった。器具の写真（**別冊午後** No. 13）を別に示す。
合着時に使用するのはどれか。**2つ選べ。**

a　①
b　②
c　③
d　④

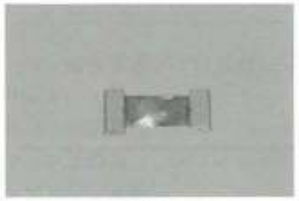
▶歯科補綴学

No.13

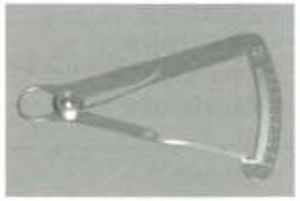
①



②



③



④

選択肢考察

○ a　①は探針である。クラウンをセメント合着する際、探針を用いて余剰セメントを除去する。
○ b　②はクラウンセッターである。クラウンをセメント合着する際、咬合面でクラウンセッターを咬合してもらい、クラウンの浮き上がりを防止する。
× c　③は隣接面のコンタクトゲージで、クラウン試適の最初に隣接面の接触関係を確認する際に用いる。
× d　エはメジャリングデバイスで、咬合調整時の金属の厚みが十分にあることを確認するために用いる。リムーバブルノブの除去前に使用する。

正解　a、b

［問題　49］ 顎骨内に生じる非歯原性嚢胞はどれか。1つ選べ。
- a　残留嚢胞
- b　歯根嚢胞
- c　類皮嚢胞
- d　鼻口蓋管嚢胞

▶口腔外科学

選択肢考察

×a　残留嚢胞顎骨内に発生する歯原性嚢胞の一つで、嚢胞摘出後に体内に残留した嚢胞である。
×b　歯根嚢胞は炎症性嚢胞の一つで、根尖性歯周炎に続発する歯原性嚢胞である。
×c　類皮嚢胞は、口腔底や舌下部正中部に発生する非歯原性嚢胞である。
○d　鼻口蓋管嚢胞は鼻口蓋管（切歯管）の遺残上皮に由来し、顎骨内に生じる非歯原性嚢胞である。

正解　d

［問題　50］ 顎関節症の病態分類の組合せで正しいのはどれか。1つ選べ。
- a　Ⅰ型 ―― 咀嚼筋痛障害
- b　Ⅱ型 ―― 顎関節円板障害
- c　Ⅲ型 ―― 顎関節痛障害
- d　Ⅳ型 ―― 変形性顎関節症

▶口腔外科学

選択肢考察

○a、d　顎関節症とは、顎関節や咀嚼筋の疼痛、関節雑音、開口障害あるいは顎運動異常を主要症候とする障害の包括的診断名である。

正解　a、d

要点

◉ 顎関節症の病態分類（2013）と鑑別すべき疾患（2014）

病態分類	（型）	病態説明	鑑別すべき疾患・障害（C 顎関節症との鑑別）	
咀嚼筋痛障害	（Ⅰ型）	顎運動時に惹起される筋に起因する疼痛障害。誘発テストで再現。	B 咀嚼筋の疾患・障害 1. 筋萎縮、2. 筋肥大、3. 筋炎、4. 線維性筋拘縮、5. 腫瘍、6. 咀嚼筋腱・腱膜過形成症	顎関節・咀嚼筋の疾患・障害以外の疾患 1. 頭蓋内疾患、2. 隣接臓器の疾患（歯・歯周疾患、耳疾患、鼻・副鼻腔の疾患、咽頭の疾患、顎骨の疾患、その他）、3. 筋骨格系の疾患、4. 心臓・血管系の疾患、5. 神経系の疾患、6. 頭痛、7. 精神神経学的疾患、8. その他の全身性疾患
顎関節痛障害	（Ⅱ型）	顎運動時に惹起される関節に起因する疼痛障害。誘発テストで再現。	A 顎関節の疾患・障害 1. 先天異常・発育異常、2. 外傷、3. 炎症、4. 腫瘍および腫瘍類似疾患、5. 顎関節強直症、6. 上記に分類困難な顎関節疾患 D 全身疾患に起因顎関節・咀嚼筋の疾患、あるいは障害 1. 自己免疫疾患、2. 代謝性疾患	
顎関節円板障害 a. 復位性 b. 非復位性	（Ⅲ型）	関節円板は閉口位において下顎頭の前方に位置し、開口に伴い復位（a）、非復位（b）		
変形性顎関節症	（Ⅳ型）	骨変化を伴う関節組織の破壊を特徴とする退行性関節障害。		

注1：咀嚼筋痛障害と顎関節の障害の重複診断（例：Ⅰ＋Ⅲ、Ⅰ＋Ⅳ、など）もありえる。
注2：顎関節円板障害における関節円板の転位方向は、前方、前内方あるいは前外方がほとんどである。
注3：関欠ロック（Ⅲ-a とⅢ-b の反復）は、復位性顎関節円板障害に含める。

［問題　51］ 口蓋裂児における口蓋形成術後の構音障害の改善に用いるのはどれか。2つ選べ。
- a　ホッツ床
- b　舌接触補助床
- c　スピーチエイド
- d　軟口蓋挙上装置

▶口腔外科学

選択肢考察

×a　ホッツ床は、硬口蓋および軟口蓋を床で可及的に閉鎖することにより、哺乳力の向上や顎発育の促進を期待する装置である。出生直後に装着する。
×b　舌接触補助床は、外科的切除や運動障害による舌の機能障害に起因する摂食嚥下障害や構音障害を回復するために用いる。
○c　スピーチエイドは、軟口蓋の器質的な欠損による鼻咽腔閉鎖不全がある場合に用いる。
○d　軟口蓋挙上装置は、軟口蓋の運動不全による鼻咽腔閉鎖不全がある場合に用いる。

正解　c、d

要点集 302：P64

［問題　52］ メチシリン耐性黄色ブドウ球菌に対して有効なのはどれか。1つ選べ。
- a　オフロキサシン
- b　バンコマイシン塩酸塩
- c　ミノサイクリン塩酸塩
- d　ストレプトマイシン硫酸塩

▶口腔外科学

選択肢考察

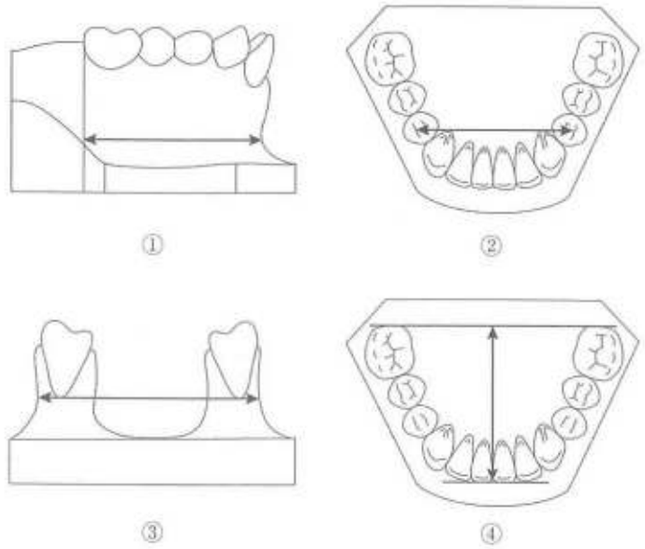
×a　オフロキサシンはニューキノロン系抗菌薬で、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌に対して有効ではない。
○b　MRSA に適する抗菌薬はバンコマイシンである。
×c　ミノサイクリン塩酸塩はテトラサイクリン系抗菌薬で、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌に対して有効ではない。
×d　ストレプトマイシン硫酸塩はアミノグリコシド系抗菌薬で、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌に対して有効ではない。

正解　b

［問題　53］ 口腔模型の模式図（**別冊午後** No. 14）を別に示す。
歯槽基底弓幅径はどれか。1つ選べ。
a ①
b ②
c ③
d ④

▶矯正歯科学

No. 14



選択肢考察

× a ①は中切歯唇側歯肉最深部から第一大臼歯遠心端までの距離であり、歯槽基底弓長径である。
× b ②は歯列弓幅径である。
○ c ③は左右第一小臼歯根尖相当歯肉最深部間の距離であり、歯槽基底弓幅径である。
× d ④は歯列弓長径である。

正解　c

［問題　54］ 矯正装置装着時の口腔内写真（**別冊午後** No. 15）を別に示す。
この装置の矯正力の作用様式と歯の移動様式との組合せで正しいのはどれか。1つ選べ。
a 持続的な力 ―― 歯体移動
b 持続的な力 ―― 傾斜移動
c 断続的な力 ―― 歯体移動
d 断続的な力 ―― 傾斜移動

▶矯正歯科学

No. 15

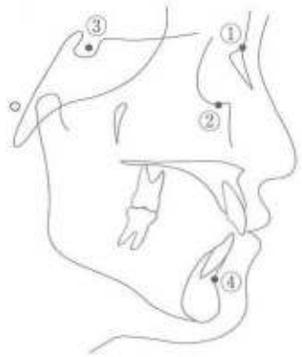
選択肢考察

× a 持続的な力によって歯体移動を行うのはマルチブラケット装置である。
○ b 写真の装置はクワドヘリックス（緩徐拡大装置）で、持続的な力によって傾斜移動を行う。
× c 断続的な力によって歯体移動を行うのは、拡大ネジを使用する急速拡大装置である。
× d 断続的な力は急速拡大装置の拡大ネジのみから発揮される。歯の移動としては歯体移動となる。

正解　b

要点集 302：P47

［問題　55］ 側面頭部エックス線規格写真のトレース図を示す。



オルビターレはどれか。1つ選べ。
a ①
b ②
c ③
d ④

▶矯正歯科学

選択肢考察

× a ①はN（ナジオン）である。
○ b ②はOr（オルビターレ）である。
× c ③はS（セラ）である。
× d ④はB点（下顎歯槽突起最前点とPog（ポゴニオン）の間の最深点）である。

正解　b

要点集 302：P48

［問題　56］ 1歳の男児。歯の変色を主訴として来院した。萌出時にはみられなかったという。初診時の口腔内写真（**別冊午後** No.16）を別に示す。
原因として考えられるのはどれか。1つ選べ。
a　遺　伝
b　斑状歯
c　フッ化物歯面塗布
d　哺乳瓶による糖質含有飲料の摂取

▶小児歯科学

選択肢考察

No.16

×a　萌出時はみられなかったことから、遺伝的な形成不全とは考えられない。
×b、×c　斑状歯やフッ化物歯面塗布によって乳歯に白濁が生じることはない。
○d　1歳で上顎前歯に白濁がみられ、左側乳側切歯には実質欠損も認められる。萌出時にはみられなかったことから形成不全の可能性は低く、哺乳瓶う蝕が疑われる。哺乳瓶う蝕は、哺乳瓶に糖質を含む飲料を入れて就寝時に与えることで罹患するう蝕である。糖質含有飲料を特に唾液分泌量が減少する就寝時に摂取するため、糖質が口腔内に長時間貯留し、う蝕が発生する。

正解　d

［問題　57］ ある装置を装着した口腔内写真（**別冊午後** No.17）を別に示す。
この装置の目的はどれか。1つ選べ。
a　空隙の維持
b　舌癖の防止
c　審美性の改善
d　咀嚼機能の回復

▶小児歯科学

選択肢考察

No.17

設問の装置はバンドループである。保隙装置は乳歯の早期喪失後の隣在歯の傾斜移動や対合歯の挺出を防止し、永久歯の萌出スペースを保持するために用いられる。
○a　バンドループやクラウンループは第一乳臼歯あるいは第二乳臼歯の中間歯1歯欠損が適応であり、空隙の維持を目的とする。
×b　舌癖の防止にはタンググリップなどを用いる。
×c　バンドループは乳臼歯部欠損に対する保隙装置であり、審美性の改善は行えない。
×d　バンドループは水平的な保隙装置であるため、咀嚼機能の回復は行えない。これらは水平的、垂直的な保隙が可能な可撤保隙装置の適応である。

正解　a

DH21：P463

［問題　58］ 咬爪癖が最もみられる時期はどれか。1つ選べ。
a　乳児期
b　幼児期
c　学童期
d　思春期

▶小児歯科学

選択肢考察

爪を咬む癖を咬爪癖といい、3歳頃から始まり、学童期に多くみられる。落ち着きがない神経質な小児に多いとされている。思春期についての詳細は不明だが、情緒的に不安定な時期であるため、咬爪癖がみられる可能性はある。
○c　咬爪癖は学童期に最も多くみられる。咬爪癖による口腔への影響としては、開咬、叢生、正中離開、切端咬合、前歯部切縁の摩耗、1～2歯の歯軸の傾斜・位置異常などがあげられる。

正解　c

［問題　59］ 高齢出産により最も発生頻度が増加するのはどれか。1つ選べ。
a　Down syndrome〈ダウン症候群〉
b　Apert syndrome〈アペルト症候群〉
c　Crouzon syndrome〈クルーゾン症候群〉
d　Treacher Collins syndrome〈トリーチャー・コリンズ症候群〉

▶障害者・高齢者歯科学

選択肢考察

○a　Down症候群は21番目の染色体のトリソミーに起因する先天異常で、発生頻度は約800人に1人の割合で、常染色体異常の中で最も頻度が高い。また高齢出産に多いと報告されている。
×b　Apert症候群は、頭蓋の早期癒合症に指趾癒合が合併した疾患である。高齢出産のため発生頻度が増加するという報告はない。
×c　Crouzon症候群は、頭蓋の早期癒合症のため上顎形成不全をきたし特徴的な顔貌を呈する疾患である。高齢出産のため発生頻度が増加するという報告はない。
×d　Treacher Collins症候群は、第一、第二鰓弓由来組織の発育異常のため、頬骨、下顎骨、外耳の低形成を主徴とする疾患である。

正解　a

［問題　60］ 経口栄養法が**適応できない**のはどれか。1つ選べ。
- a　顎骨壊死
- b　食道通過障害
- c　てんかんの既往
- d　胆嚢摘出の既往

▶障害者・高齢者歯科学

選択肢考察

○a　薬剤関連顎骨壊死〈MRONJ〉などにより顎骨壊死が生じた場合でも経口栄養は可能である。
×b　食道通過障害がある場合、食物の胃への流入が困難になるため、経腸栄養法を検討する。
○c　てんかんの持病がある場合でも、発作時以外は経口摂取が可能である。食事療法として、ケトン食療法、修正アトキンス食療法などがある。
○d　胆嚢摘出後は、上腹部の痛みや不快感、発熱、黄疸、吐き気などの症状がみられるが、消化管の通過障害はみられないため経口栄養摂取は可能である。

正解　b

［問題　61］ 自閉スペクトラム症児に対する歯科治療時の対応で**適切でない**のはどれか。1つ選べ。
- a　治療順序を理解させる。
- b　急な予定の変更を避ける。
- c　言葉での説明を多用する。
- d　毎回同一のスタッフにする。

▶障害者・高齢者歯科学

選択肢考察

自閉症スペクトラム症は、主に①社会的コミュニケーションと社会的相互反応の欠陥、②行動、関心、活動における固定的、反復的なパターン、という診断基準をもつ脳の器質的な疾患である。

自閉スペクトラム症児は、①次に何が起こるかを想像することが不得意であるために対人関係が上手にできない、②言語およびコミュニケーションが上手くできない、③変化を好まず同じことを繰り返すと心が落ち着く、というような特徴を有する。歯科治療に際しては、パターン化、習慣化を行い、言語ではなく絵や写真などを用い、次に何をするかの理解を促す。不安感や恐怖心を和らげるような対応を、スモールステップで進めることが重要である。

○a　自閉スペクトラム症児のための治療プログラムであるTEACCHの理論に基づき、歯科治療の流れを整理し、治療順序の説明を行うことで治療内容の理解を促す。
○b、○d　自閉スペクトラム症児は変化への対応が不得意であるため、予定通りに毎回同一のスタッフで治療を進める。
×c　自閉スペクトラム症児は聴覚を通じての言語情報よりも絵カードや写真カードのような視覚情報の方が理解しやすいため、非言語的なコミュニケーションに重点を置く。

正解　c

DH 21：P.493

［問題　62］ 12歳の男児。言語異常を主訴として来院した。幼少時に口蓋裂の手術を受け、その後言語治療を受けていなかったという。鼻咽腔内視鏡検査で鼻咽腔閉鎖不全と診断された。/ア/発声時の鼻咽腔内視鏡検査の画像（**別冊午後** No.18A）と治療に用いた装置（**別冊午後** No.18B）を別に示す。

装置の調整に有用な検査法はどれか。1つ選べ。
- a　頸部聴診法
- b　パラトグラム検査
- c　ブローイング検査
- d　オーラルディアドコキネシス

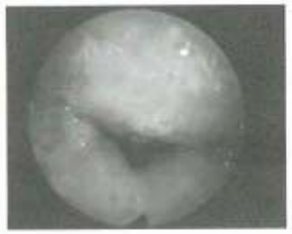
▶障害者・高齢者歯科学

選択肢考察

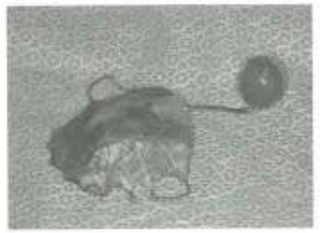
鼻咽腔閉鎖不全の治療には、装置を用いる場合と外科的手術を行う場合がある。写真の装置はスピーチエイドで、軟口蓋の実質欠損をバルブで器械的に埋めて症状を改善する装置である。このため、スペースに適合するように調整する必要がある。この適合状態を確認するために行われる検査には、ブローイング検査や側面頭部エックス線規格撮影がある。

×a　頸部聴診法は、呼気音で嚥下状態の評価をする。誤嚥を疑う際の検査法である。
×b　パラトグラムは、発音時に舌が口蓋に接触する範囲を記録する検査であり、鼻咽腔閉鎖不全の検査ではない。
○c　ブローイング検査は、装置の調整の前後に行うことにより、バルブの適合状態を評価でき、鼻咽腔閉鎖状態の評価に有効である。
×d　オーラルディアドコキネシスは、口腔機能の衰えであるオーラルフレイルを評価する方法である。

No.18A



B



正解　c

［問題　63］ 58歳の男性。咀嚼障害を主訴として来院した。口腔内写真（**別冊午後** No.19）を別に示す。

観察できるのはどれか。**2つ選べ。**
- a　深いオーバーバイト
- b　上唇小帯の付着異常
- c　上顎右側臼歯の挺出
- d　下顎左側犬歯の歯根露出

▶歯科予防処置

選択肢考察

○a、d　口腔内写真から、下顎両側臼歯部が欠損していることがわかる。上顎には異常はみられないが、下顎前歯部に所見がみられ、深いオーバーバイトと下顎左側犬歯に著明な歯根露出が認められる。

No.19

正解　a、d

［問題　64］ 歯周基本治療に含まれるのはどれか。**2つ選べ。**
- a　GBR
- b　PTC
- c　ENAP
- d　LDDS

▶歯科予防処置

選択肢考察

×a　GBR（骨誘導再生法）は、欠損した骨組織の再生を促す治療法である。
○b　PTC〈Professional Tooth Cleaning〉は、歯科医師や歯科衛生士が歯ブラシやデンタルフロスなどを用いて歯面清掃を行うことで、歯周基本治療に含まれる。
×c　ENAP〈新付着術〉は歯周外科治療の組織付着療法に分類される。
○d　LDDS〈局所薬物配送システム〉は歯周ポケットに徐放性の抗菌薬を直接注入し、停滞、作用させる方法で、スケーリング・ルートプレーニング後も深いポケットが残存している場合や、急性歯周膿瘍などの症状改善に用いられる。歯周基本治療に含まれる。

正解　b、d　　要点集 302：P30

［問題　65］ 不適切なブラッシングが原因で歯肉にみられるのはどれか。**2つ選べ。**
- a　クレフト
- b　フェストゥーン
- c　スティップリング
- d　テンションリッジ

▶歯科予防処置

選択肢考察

○a、○b　不適切なブラッシングとは、ストロークの幅が大きすぎる、過度のブラッシング圧、ブラッシング圧が強いうえに刷毛がかための歯ブラシの使用、研磨性の高い歯磨剤の多量使用である。これら不適切なブラッシングによる軟組織への影響として、歯肉退縮、歯肉クレフト（V字裂溝）、フェストゥーン（ロール状肥厚）、擦過傷が生じることがある。
×c　スティップリングとは、健康な付着歯肉にみられる構造で、炎症によって消失する。
×d　テンションリッジとは、口呼吸によってみられる口蓋歯頸部歯肉の肥厚である。

正解　a、b

［問題　66］ 歯周病のプラークリテンションファクターはどれか。**2つ選べ。**
- a　根面溝
- b　中心結節
- c　エナメル突起
- d　プロトスタイリッド

▶歯科予防処置

選択肢考察

○a　清掃不良になりやすく、根面溝に沿って歯周ポケットが形成されやすい。
×b　中心結節は歯の形態異常の一種で咬合面中央部に出現する円錐状や棒状の小突起である。
○c　エナメル突起は根分岐部に発生し、深い歯周ポケットが形成されやすく根分岐部病変の原因となる。
×d　プロトスタイリッドは歯の形態異常の一種で下顎大臼歯近心頬側面に出現する過剰結節である。歯周病のプラークリテンションファクターではない。

正解　a、c　　要点集 302：P26

［問題　67］ 綿球塗布法による歯垢染色の特徴はどれか。**2つ選べ。**
- a　染色後の洗口は1～2回行う。
- b　歯面を強く擦るように塗布する。
- c　染色前の洗口により染色性が向上する。
- d　染色剤塗布後に口唇にワセリンを塗布する。

▶歯科予防処置

選択肢考察

○a　染色後の洗口は1～2回程度にする。
×b　強く擦るとプラークが取れてしまう恐れがあるため、軽く歯面を押さえるように塗布する。
○c　染色前に洗口すると、食物残渣や粘性の唾液が除去され、染色性が向上する。
×d　染色時に口唇が染まりやすいため、予めワセリンを口唇に塗布しておく。

正解　a、c

［問題　68］ ある歯面清掃器を使用中の写真（**別冊午後** No.20）を別に示す。
先端から噴霧されるのはどれか。1つ選べ。
- a　塩化ナトリウム
- b　炭酸カルシウム
- c　フッ化ナトリウム
- d　炭酸水素ナトリウム

▶歯科予防処置

選択肢考察

○d　写真の器具は重曹粉末噴射歯面清掃器である。重曹は炭酸水素ナトリウムである。

No.20

正解　d

［問題　69］ CPIにおける歯周ポケットのスコア評価基準で正しいのはどれか。1つ選べ。

a　スコア1：ポケット深さ4 mm未満
b　スコア2：ポケット深さ6 mm以上
c　スコア9：該当歯なし
d　スコアX：除外歯

▶歯科予防処置

選択肢考察

○b　◉ CPIの評価基準

	コード	所見	判定基準
歯肉出血	0	健全	以下の所見が認められない
	1	出血あり	プロービング後10～30秒以内に出血が認められる。
	9	除外歯	プロービングができない歯（例：根の露出が根尖に及ぶ）
	X	該当する歯なし	
歯周ポケット	0	健全	以下の所見がすべて認められない。
	1	4～5 mmに達するポケット	プローブの黒い部分に歯肉縁が位置する。
	2	6 mmを超えるポケット	プローブの黒い部分が見えなくなる。
	9	除外歯	プロービングができない歯（例：根の露出が根尖に及ぶ）
	X	該当する歯なし	

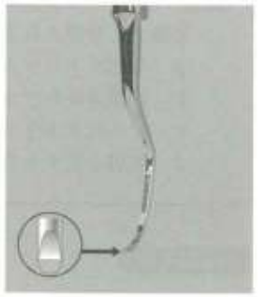
正解　b　　DH21：P578

［問題　70］ スケーリングに用いる器具の写真（**別冊午後** No.21）を別に示す。
この器具の特徴はどれか。**2つ選べ。**

a　部位特異的である。
b　オフセットブレードを有する。
c　刃部両端にカッティングエッジがある。
d　第一シャンクに対して刃部内面は90度である。

▶歯科予防処置

No.21



選択肢考察

○c、d　写真の器具はユニバーサルキュレットである。

◉ ユニバーサルタイプキュレットの特徴

- 全部位で使用可能である（部位非特異的）：1本ですべての部位のSRPを行う。
- 刃部両端にカッティングエッジがある。
- 第一シャンクに対し刃部内面は90度である。
- 刃部がシャンクから先端（トゥ）に向かって彎曲している。

正解　c、d

［問題　71］ グレーシータイプキュレットと使用部位との組合せで適切なのはどれか。1つ選べ。

a　#11 ―― 上顎左側第一大臼歯口蓋側遠心
b　#12 ―― 上顎右側第二大臼歯舌側遠心
c　#13 ―― 下顎左側第一小臼歯頬側遠心
d　#14 ―― 上顎右側第二小臼歯頬側遠心

▶歯科予防処置

選択肢考察

×a　上顎左側第一大臼歯口蓋側遠心には#13を使用する。
×b　上顎右側第二大臼歯舌側遠心には#14を使用する。
○c　下顎左側第一小臼歯頬側遠心には#13を使用する。
×d　上顎右側第二小臼歯頬側遠心には#13を使用する。

正解　c　　DH21：P593

［問題　72］ 歯周治療の再評価で、メインテナンスとSPTのどちらに移行するかを判定するのに必要な検査項目はどれか。**2つ選べ。**

a　歯の動揺度
b　付着歯肉幅
c　プロービング深さ
d　アタッチメントレベル

▶歯科予防処置

選択肢考察

メインテナンスは、歯周治療により治癒した歯周組織の健康を維持するために行われる。歯周病の治癒とは、歯肉の炎症症状、プロービング時の出血、ポケット、歯の動揺、根分岐部病変がなくなった状態である。一方、SPT〈supportive periodontal therapy〉は、歯周治療により病状安定となった歯周組織を維持するための治療である。病状安定の場合には、ポケットの残存、プロービング時の出血、歯の動揺、根分岐部病変が一部残っているが、歯周病の進行が停止している状態を示す。

○a　歯周組織が治癒した場合、歯の動揺はすべて0度であるが、病状安定の場合には1度以上の動揺が残存している場合もあるため、移行の判定基準となる。
×b　歯周組織に炎症がなく健康な場合であっても、元々の軟組織の解剖学的形態で付着歯肉幅が狭い場合もあるため移行の判定基準とはならない。
○c　病状安定では、プロービング深さ4mm以上のポケットが残存する場合がある。一方、歯周組織が治癒した場合、プロービング深さは3mm以下となる。
×d　アタッチメントレベルはセメント-エナメル境〈CEJ〉からポケット底部までの距離である。歯肉辺縁の位置とは関係ないので、歯周治療後、プロービング深さが減少したとしても、付着の獲得がなければアタッチメントレベルは減少しない。

正解　a、c　　要点集302：P30

［問題　73］ Keyesによるう蝕発生要因に**含まれない**のはどれか。1つ選べ。
- a　宿　主
- b　時　間
- c　口腔細菌
- d　発酵性糖質

▶歯科予防処置

選択肢考察

× b　う蝕は、歯や原因菌、それに砂糖を代表とする発酵性糖質が存在すると発生する疾患である。Keyesはう蝕発生要因を「Keyesの3つの輪」として提唱し、宿主と歯の感受性-口腔細菌-発酵性糖質が同時に作用した結果、う蝕が発生することを示した。

Keyesの3つの輪

正　解　b

［問題　74］ ブラッシングで除去できるのはどれか。1つ選べ。
- a　歯　石
- b　食物残渣
- c　ペリクル
- d　内因性色素沈着

▶歯科予防処置

選択肢考察

× a　歯石はプラークが石灰化して硬くなったものであり、スケーラーで除去する。
○ b　食物残渣はブラッシングで除去することができる。
× c　ペリクル（獲得被膜）は歯面に形成される膜状物質であり、ブラッシングでは除去できない。
× d　内因性色素沈着物はブラッシングでは除去できず、超音波スケーラーやエアスケーラーで除去する。

正　解　b

要点集 302：P 22

［問題　75］ 乳児期のう蝕予防法で適切なのはどれか。1つ選べ。
- a　フッ化物洗口
- b　歯間ブラシの使用
- c　フッ化物の歯面塗布
- d　フッ化物配合歯磨剤の使用

▶歯科予防処置

選択肢考察

母子保健法における乳児期とは、生後1年に満たない時期で、一般には生後1年前後の時期までを指す。この時期は無歯期～乳前歯のみが萌出している時期であり、乳臼歯はまだ萌出していない。また、洗口を行うこともできない。

× a　フッ化物洗口は、口に含んだ洗口液を吐き出すことが可能になるまで使用できない。フッ化物洗口が行えるのは4歳以降であり、乳児期では用いない。
× b　歯間ブラシは、歯肉退縮などで、歯間空隙が認められる成人で用いられる。
○ c　フッ化物歯面塗布はプロフェッショナルケアであり、専門家の管理の元で行うため、歯の萌出直後から適応できる。
× d　乳児期はまだ口をすすぐことができないため、原則的にはフッ化物配合歯磨剤は使用しない。フッ化物配合歯磨剤の使用は3歳以降である。

正　解　c

要　点

◉ フッ化物歯面塗布の時期

年　齢	塗布の対象歯
1歳	乳前歯
2～3歳	乳臼歯
5～7歳	第一大臼歯、永久前歯
8～9歳	永久前歯、第一小臼歯
10～11歳	第一小臼歯、犬歯
12～13歳	第二大臼歯、第二小臼歯

［問題　76］ NaF配合歯磨剤で5歳児に適したフッ化物濃度はどれか。1つ選べ。
- a　225 ppm
- b　500 ppm
- c　1,000 ppm
- d　1,500 ppm

▶歯科予防処置

選択肢考察

× a　100 ppmFはNaFスプレーのフッ化物濃度で、0～2歳のホームケアに適している。
○ b　フッ化物配合歯磨剤のフッ化物濃度は、1,500 ppmFを上限として配合されている。0～5歳までは500 ppmFが適切である。
× c　1,000 ppmFは6～14歳に適したフッ化物濃度である。
× d　1,500 ppmFは15歳～成人に適したフッ化物濃度である。

正　解　b

［問題　77］ 90歳の女性。5年ほど前から寝たきりの状態で、家族の全介助が必要であるという。家族による口腔清掃は1日2回行っている。口腔内診査の結果、多量の舌苔が認められた。歯科医師より家族に対し口腔ケアを指導するよう指示があった。口腔内写真（**別冊午後** No.22A）と口腔清掃用具の写真（**別冊午後** No.22B）を別に示す。

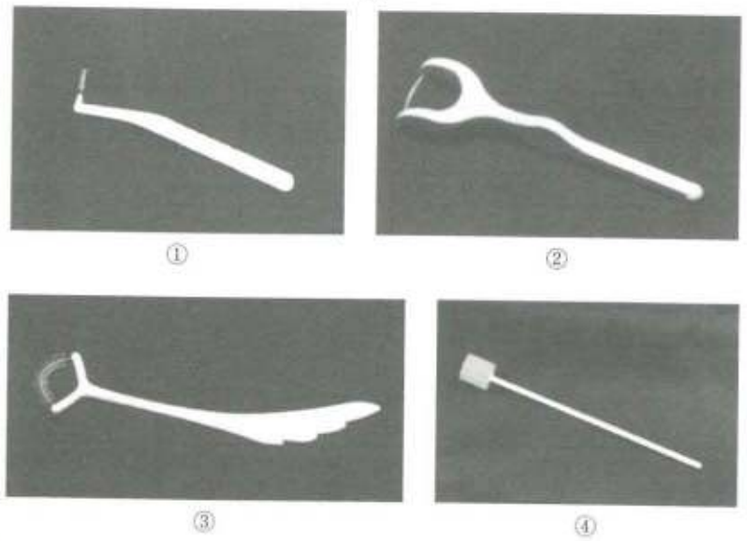
補助的口腔清掃用具で必要性が高いのはどれか。**2つ選べ。**

a ①
b ②
c ③
d ④

▶歯科予防処置

No.22 A

B



①　②　③　④

選択肢考察

×a、×b　①は歯間ブラシ、②はホルダ付きデンタルフロスである。隣接面の清掃よりも歯面全体や粘膜の清掃を優先する。

○c、○d　③は舌ブラシ、④はスポンジブラシである。舌表面や頬粘膜の清掃に適している。

正　解　c、d

DH 21：P 661

［問題　78］ 介護予防事業の基本チェックリストの質問項目はどれか。**2つ選べ。**

a 口の臭いが気になりますか。
b 歯の汚れを清掃していますか。
c お茶や汁物等でむせることがありますか。
d 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。

▶歯科保健指導

選択肢考察

○c、d　**要点** 参照。

正　解　c、d

要　点

◉「基本チェックリスト」

No.	質問項目	回答 いずれかに○をお付けください	
1	バスや電車で1人で外出していますか	0. はい	1. いいえ
2	日用品の買い物をしていますか	0. はい	1. いいえ
3	預貯金の出し入れをしていますか	0. はい	1. いいえ
4	友人の家を訪ねていますか	0. はい	1. いいえ
5	家族や友人の相談にのっていますか	0. はい	1. いいえ
6	階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか	0. はい	1. いいえ
7	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	0. はい	1. いいえ
8	15分位続けて歩いていますか	0. はい	1. いいえ
9	この1年間に転んだことがありますか	1. はい	0. いいえ
10	転倒に対する不安は大きいですか	1. はい	0. いいえ
11	6カ月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	1. はい	0. いいえ
12	身長　　cm　　体重　　kg　（BMI＝　　）（注）		
13	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい	0. いいえ
14	お茶や汁物等でむせることがありますか	1. はい	0. いいえ
15	口の渇きが気になりますか	1. はい	0. いいえ
16	週に1回以上は外出していますか	0. はい	1. いいえ
17	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	1. はい	0. いいえ
18	周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあると言われますか	1. はい	0. いいえ
19	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	0. はい	1. いいえ
20	今日が何月何日かわからない時がありますか	1. はい	0. いいえ
21	（ここ2週間）毎日の生活に充実感がない	1. はい	0. いいえ
22	（ここ2週間）これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった	1. はい	0. いいえ
23	（ここ2週間）以前は楽にできていたことが今はおっくうに感じられる	1. はい	0. いいえ
24	（ここ2週間）自分が役に立つ人間だと思えない	1. はい	0. いいえ
25	（ここ2週間）わけもなく疲れたような感じがする	1. はい	0. いいえ

（注）BMI＝体重（kg）÷身長（m）÷身長（m）が18.5未満の場合に該当とする。

［問題　79］ 56歳の男性。歯周基本治療を終了し、3か月後のリコールで来院した。健康状態に異常はない。1日10本喫煙しているが、なかなか禁煙できないという。リコール時のプラークコントロールレコードは16％であった。リコール時の口腔内写真（**別冊午後** No.23 A、B）、エックス線写真（**別冊午後** No.23 C）および歯周組織検査結果の一部（**別冊午後** No.24）を別に示す。

リコール時の歯科衛生士の対応で適切なのはどれか。**2つ選べ。**

a　SRPを行う。

b　禁煙補助薬を処方する。

c　局所薬物配送システムを行う。

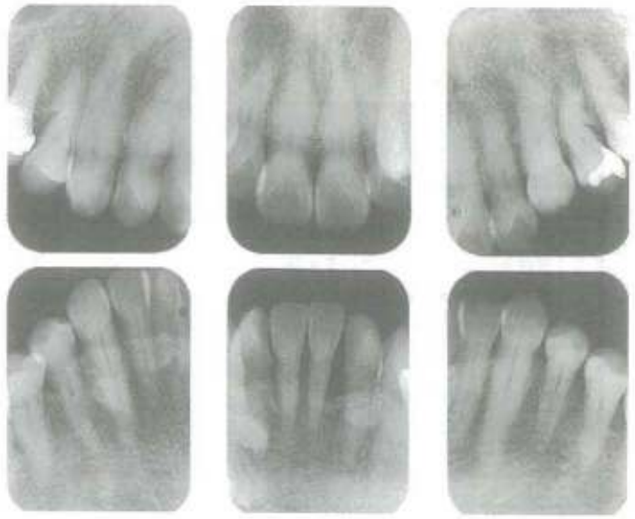
d　前歯部の清掃に歯間ブラシを勧める。

▶歯科保健指導

No.23 A

B

C



No.24

頬　側*	2	2	3	3	2	3	3	2	3	2	2	2	2	2	2	2	2	3
歯　種		3			2			1			1			2			3	
口蓋側*	3	2	2	2	2	3	2	2	3	3	2	2	2	2	3	2	2	2
動揺度		0			0			0			0			0			0	

舌　側*	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	2	2	3	2	3
歯　種		3			2			1			1			2			3	
頬　側*	2	2	3	2	2	3	3	2	2	2	2	3	3	2	3	2	2	2
動揺度		0			0			1			1			0			0	

*：プロービング深さ（mm）

選択肢考察

○a　歯石の沈着状態を確認し、適宜スケーリングやルートプレーニングを行う。

×b　喫煙による色素沈着が認められ、歯肉の色調も悪いことから、禁煙支援を含めた喫煙による歯周組織への影響を説明する。また、歯科衛生士が禁煙補助薬を処方することはできない。

×c　局所薬物配送システム（LDDS）は抗菌薬をポケット内に投与するもので、歯科医師が行う医療行為である。

○d　前歯歯間部に空隙が認められるため、補助的清掃器具の使用を勧める。

正　解　a、d

［問題　80］ 83歳の女性。最近、物忘れがひどくなったと感じており、近所で買い物をしているが、電車やバスに乗って出かけることはできないという。

障害高齢者の日常生活自立度判定で考えられるのはどれか。1つ選べ。

a　ランクA

b　ランクB

c　ランクC

d　ランクJ

▶歯科保健指導

選択肢考察

○d　電車やバスに乗って出かけることはできないが、日常生活はほぼ自立していることから、ランクJに該当する。

正　解　d　　DH21：P483

要　点

◉ 障害高齢者の日常生活自立度判定基準

判　定	ランク		動　作
生活自立	J		何らかの障害等を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する
		J-1	交通機関等を利用して外出する
		J-2	隣近所へなら外出する
準寝たきり	A		屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない
		A-1	介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する
		A-2	外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている
寝たきり	B		屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが、座位を保つ
		B-1	車いすに移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う
		B-2	介助により車いすに移乗する
	C		1日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する
		C-1	自力で寝返りをうつ
		C-2	自力では寝返りもうたない

（平成3年11月18日老健第102-2号厚生省大臣官房老人保健福祉部長通知）

［問題　81］ 4歳の男児。口腔清掃指導を希望して来院した。
保護者への適切な指導はどれか。**2つ選べ。**
a　寝かせ磨き
b　フロッシング
c　ガーゼによる乳前歯の清拭
d　パームグリップでの仕上げ磨き

▶歯科保健指導

選択肢考察

口腔清掃指導では、無歯期、乳歯萌出期、乳歯列期、混合歯列期、永久歯列期などの発達段階に合わせた指導を行う。また保護者による仕上げ磨きは、学童期の前期まで続ける必要がある。4歳児は乳歯列期であり、保護者による仕上げ磨きが必要な時期である。また乳臼歯の咬合面と第一、第二乳臼歯間の隣接面がう蝕好発部位であり、当該部位の清掃にはデンタルフロスによるフロッシングが有効である。

○a　4歳児は、1人では十分に歯磨きができないため、寝かせみがきで保護者による仕上げ磨きが必要である。
○b　第一、第二乳臼歯間の隣接面が互いに面接触しているため、フロッシングが必要である。
×c　ガーゼによる清拭は、無歯期および乳前歯が萌出して間もない時期に行う。
×d　仕上げ磨きはペングリップによるスクラッビング法で行う。

正解　a、b

［問題　82］ 小児の歯科治療時の行動変容法で、強化因子を取り除くのはどれか。1つ選べ。
a　カウント法
b　TEACCH法
c　Tell-Show-Do法
d　レスポンスコスト法

▶歯科保健指導

選択肢考察

幼児期は歯科治療に対して泣く、拒否するなどの不適応行動を示す場合が多い。また学童期以降でも過去に苦痛を伴う医療行為を経験している場合は、歯科治療を受容できないこともある。行動変容法は学習に基づく行動改善のための技法であり、歯科治療を行うにあたって適応性を高め、治療を円滑に進めることを目的に実施される。

×a　カウント法は特定の機器や器具に対して恐怖を感じる場合、10数える間だけ使用することを約束して、声を出して数えながら実施する方法である。強化因子を取り除く方法ではない。
×b　TEACCH法は自閉スペクトラム症児のための治療プログラムである。治療の前に視覚的素材を用いて順序立てて説明し、歯科治療の流れを理解させる。
×c　Tell-Show-Do法はこれから行うことについて話して、見せて、行うという手順で体験させる方法であり、初めて歯科治療を経験する小児や恐怖心の強い小児に効果的である。
○d　レスポンスコスト法は望ましくない行動がみられた場合、与えられる予定であった正の強化因子を除去する方法である。負の罰の1つである。

正解　d

要点集 302：P63

［問題　83］ 歯科臨床で発見されやすい児童虐待はどれか。**2つ選べ。**
a　性的虐待
b　身体的虐待
c　心理的虐待
d　ネグレクト

▶歯科保健指導

選択肢考察

×a　性的虐待とは、上下の発生する関係性において、上位の者がその力を濫用もしくは悪用して、下位の者の権利・人権を無視して行う性的な侵害行為のことである。
○b　歯科診療の場において、多数歯う蝕や重症う蝕、重度歯肉炎など口腔内の状態が劣悪である小児患者がみられた場合、虐待を受けている可能性が考えられる。身体的虐待では、不自然な顔面・頭頸部の外傷、新旧の受傷痕跡の混在、多数の熱傷痕や外傷痕などがみられる。
×c　心理的虐待とは、著しい心的外傷を与える言動や行為をいう。激しい叱責や自尊心を傷つけるような罵詈ばり、軽蔑、脅迫、差別、拒否などである。
○d　ネグレクト（育児放棄）では、多数歯う蝕や重症う蝕、重度歯肉炎など口腔内の状態が劣悪な状況が兆候となる。

正解　b、d

［問題　84］ 生後1か月の乳児。歯の早期萌出が気になり小児科からの紹介で来院した。授乳は哺乳瓶で行っているという。その他の口腔内所見に特記すべき事項はない。初診時の口腔内写真（**別冊午後** No.25）を別に示す。
今後の可能性として保護者に説明すべきなのはどれか。**2つ選べ。**
a　先天歯のう蝕
b　後継永久歯の癒合
c　ベドナーアフタの発症
d　リガフェーデ病の発症

▶歯科保健指導

No.25

選択肢考察

○a　下顎乳前歯は叢生状態であり、う蝕になりやすい。
×b　後継永久歯の癒合の可能性が高いのは先行乳歯が癒合歯である場合である。
×c　ベドナーアフタは哺乳ビンが原因で生じる硬口蓋にみられる潰瘍である。
○d　先天歯とは、出生時にすでに萌出している歯のことで、舌下面の褥瘡性潰瘍（リガフェーデ病）の原因となる。哺乳時に乳首をかまれて授乳困難をきたす場合には、抜去するか切縁の削除などの処置が必要となる。

正解　a、d

要点集 302：P59

［問題　85］ 栄養状態の評価スケールはどれか。1つ選べ。
a　BI〈Barthel Index〉
b　FIM〈Functional Independence Measure〉
c　MMSE〈Mini-Mental State Examination〉
d　MNA〈Mini-Nutritional Assessment〉

▶歯科保健指導

選択肢考察

× a　BIは、日常生活動作〈ADL〉を評価する方法の1つである。食事、移乗、整容、トイレ動作、入浴、移動、階段昇降、更衣、排便自制、排尿自制の10項目を、それぞれ自立、部分介助など数段階の自立度で評価する。
× b　FIMは、日常生活動作〈ADL〉を評価する方法の1つである。運動項目（セルフケア、排泄コントロール、移乗、移動）、認知項目（コミュニケーション、社会的認知）を7段階の点数をつけて評価を行う。
× c　MMSEは、アルツハイマー型認知症などの疑いがある被験者のために作られた簡便な検査方法で、被験者に対し口頭による質問形式で行われる。
○ d　MNAは、問診表を主体とする栄養状態に関するスクリーニング法である。

正　解　d

［問題　86］ ⑤⑥⑦ ブリッジを装着した患者の口腔内写真（**別冊午後** No.26）を別に示す。
ポンティック基底面の清掃に適した補助的清掃器具はどれか。**2つ選べ。**
a　ガーゼひも
b　デンタルフロス
c　スーパーフロス
d　ワンタフトブラシ

▶歯科保健指導

選択肢考察

No.26

○ a、○ c　装着しているポンティックは離底型である。ポンティック基底面と粘膜面とのスペースが大きいため、ガーゼひもやスーパーフロスで清掃を行う。
× b　デンタルフロスでは細すぎるため、基底面の清掃には適さない。
× d　ワンタフトブラシは最後方白歯遠心面の清掃に適した清掃器具である。

正　解　a、c

［問題　87］ 39歳の女性。口臭を主訴として来院した。今朝起床時の飲食は烏龍茶のみであるという。プロービング深さは全歯3mm以下で、O'LearyのPCRは15%であった。口腔清掃指導を行ったところ、2週後の再来院時には口臭の訴えは認められなくなった。初診時の舌の写真（**別冊午後** No.27）と初診時と再来院時の口臭検査結果の一部を表に示す。

	初診時	再来院時
官能検査	かすかに感じる不快臭の存在	不快臭なし
ガスクロマトグラフィー		
硫化水素（ng/10mL）	2.5*	0
メチルメルカプタン（ng/10mL）	0	0
ジメチルサルファイド（ng/10mL）	0	0

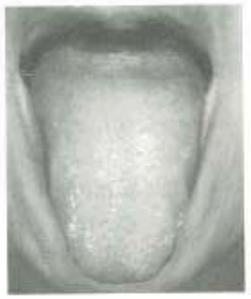
*：認知閾値以上

口臭の原因として最も考えられるのはどれか。1つ選べ。
a　仮性口臭症
b　口臭恐怖症
c　生理的口臭
d　口腔由来の病的口臭

▶歯科保健指導

選択肢考察

No.27



× a　仮性口臭症は、自分に口臭があると感じてしまう精神的なものである。
× b　口臭恐怖症は、他人のしぐさで自分に口臭があると思い込むなど、治療しても訴えの改善が期待できないものである。
○ c　初診時のプロービング深さが3mm以下で、PCRスコアも15%以下であったことから、口腔清掃状態は不良ではない。口腔清掃指導により再来院時には主訴が改善され、ガスクロマトグラフィーにより、メチルメルカプタンやジメチルサルファイドが検出されないことから、歯周病由来の口臭とは考えにくい。生理的口臭は、口腔清掃不良のために蓄積した舌苔やプラークに由来するものである。初診時の官能検査で不快臭が認められたが、再来院時には不快臭がなくなったため、生理的口臭が考えられる。
× d　口腔由来の病的口臭の原因物質に、メチルメルカプタンやジメチルサルファイドなどの揮発性硫黄化合物がある。ガスクロマトグラフィーで検出されなかったことから、病的口臭は考えにくい。

正　解　c

DH 21：P 674

［問題　88］ 50歳の女性。身長150cm、体重60kg。事務職で座位での仕事が多く、日常生活で運動する機会が少ない。食事摂取量の調査結果の一部を表に示す。

	項　目	一日の摂取量
①	エネルギー	3,000kcal
②	たんぱく質	60g
③	カルシウム	700mg
④	食　塩	10g

改善すべきなのはどれか。**2つ選べ。**

a　①
b　②
c　③
d　④

▶歯科保健指導

選択肢考察

50歳女性の食事摂取量の各項目の評価を以下に示す。なお、エネルギー、たんぱく質、カルシウム、食塩は日本人の食事摂取基準（2020年版）に基づき評価する。

- エネルギー：50歳女性、身体活動レベル1（事務職で座位での仕事が多く、日常生活で運動する機会が少ない）の推定エネルギー必要量は、1,650kcalである。従って、エネルギー摂取量3,000kcalは多すぎるため、改善が必要である。
- たんぱく質：たんぱく質の目標量は、エネルギー比率で14～20%である。たんぱく質1gは4kcalに相当するため、推定エネルギー必要量をもとにたんぱく質量の範囲を計算すると、57.8～82.5gとなる。従って、たんぱく質摂取量60gは適切である。
- カルシウム：50歳女性のカルシウムの推定平均必要量は550mg、推奨量は650mgである。従って、カルシウム摂取量700mgは適切である。
- 食塩：女性のナトリウムの目標量（食塩相当量）は6.5gである。従って、食塩摂取量10gは多いため、改善が必要である。

○a、○d　エネルギー摂取量、食塩摂取量は改善が必要である。
×b、×c　たんぱく質摂取量、カルシウム摂取量は適切である。

正　解　a、d

［問題　89］ 生後7か月の男児。母親から離乳食の硬さについて相談された。適切なのはどれか。1つ選べ。

a　舌でつぶせる固さ
b　歯でかみつぶせる固さ
c　歯ぐきでつぶせる固さ
d　なめらかにすりつぶした状態

▶歯科保健指導

選択肢考察

○a　生後7～8か月は「舌でつぶせる固さ」の物を与える。
×b　生後12～18か月は「歯や歯ぐきでかみつぶせる固さ」のものを与える。
×c　生後9～11か月は「歯ぐきでつぶせる固さ」の物を与える。
×d　生後5～6か月は「なめらかにすりつぶした状態」の物を与える。

正　解　a

［問題　90］ 非糖質系甘味料はどれか。**2つ選べ。**

a　パラチノース
b　キシリトール
c　ステビオサイド
d　アスパルテーム

▶歯科保健指導

選択肢考察

×a　パラチノースはショ糖を原料として作られる。
×b　キシリトールはキシロースを原料として作られる糖アルコールである。
○c　ステビオサイドはキク科植物ステビアから抽出される非糖質系高甘度甘味料である。
○d　アスパルテームはアミノ酸系高甘度甘味料である。

正　解　c、d

［問題　91］ 摂食嚥下の先行期に作用する直接訓練法はどれか。1つ選べ。

a　咀嚼訓練
b　努力嚥下
c　複数回嚥下
d　ペーシング訓練

▶歯科保健指導

選択肢考察

×a　咀嚼訓練は、口腔期に障害のある症例に用いる直接訓練の1つである。
×b　努力嚥下は舌根部の運動が低下し、食物が喉頭蓋谷に残留する症例に用いるため、先行期の障害には用いない。
×c　複数回嚥下は、空嚥下を繰り返すことで咽頭残留を減らす直接訓練である。
○d　ペーシング訓練は、食物を口へ運ぶ適切なスピードを訓練するため、先行期に作用する直接訓練である。

正　解　d

［問題　92］ 5歳の女児。発音が不明瞭であることを主訴として来院した。舌挙上時の口腔内写真（**別冊午後** No.28）を別に示す。
考えられる構音の異常はどれか。1つ選べ。
a　ア　行
b　カ　行
c　サ　行
d　タ　行

▶歯科保健指導

選択肢考察

No.28

×a、×b　ア行、カ行発音時に舌尖は挙がらないため、舌小帯の短縮による影響はほとんどない。
×c　舌小帯の短縮はサ行の発音に影響することもあるが、舌尖の動きに関しては影響は少ない。
○d　口腔内写真から、舌小帯の短縮が認められ、舌の動きが制限されていると考えられる。舌小帯短縮症で舌の可動域が狭くなると、舌の先端を上顎前歯の口蓋側に接触させて発音する歯音や歯茎音に影響が生じる可能性がある。歯音ではタ行の一部（タ、テ、ト、ダ、デ、ド）とナ行、歯茎音ではラ行が影響を受けるとされている。ラ行は舌尖が上顎前歯口蓋側に接触するため、舌小帯短縮症による影響が出やすい。

正解　d

［問題　93］ 80歳の男性。入れ歯がうまく使えないことを主訴として来院した。5年前に上下顎全部床義歯を製作し問題なく使用していたが、最近になって咀嚼が困難になったという。認知機能の低下は認めない。義歯の適合と咬合状態に問題はない。ある検査を行ったところ基準値より低値を示した。検査時の写真（**別冊午後** No.29 A）と検査結果の写真（**別冊午後** No.29 B）を別に示す。
この患者に起こり得るのはどれか。1つ選べ。
a　流　涎
b　鼻腔への逆流
c　食塊の移送困難
d　声門の閉鎖不全

▶歯科保健指導

No.29 A

B

選択肢考察

×a　写真の検査は舌圧測定検査である。患者は舌の運動機能に問題があると疑われるため、流涎は考えにくい。流涎は一般的に口唇機能の低下と関わりがある。
×b　誤嚥が疑われる患者ではないため、鼻腔への逆流は考えにくい。
○c　患者は舌の運動機能障害が疑われるため、食塊の移送困難が起こり得る。このことが咀嚼困難に影響していると考えられる。
×d　誤嚥が疑われる患者ではないため、声門閉鎖不全は考えにくい。

正解　c

［問題　94］ ロコモティブシンドロームが疑われる症状はどれか。**2つ選べ。**
a　物忘れがひどい。
b　高音が聞き取りにくい。
c　家の中でつまずきやすい。
d　片脚立ちで靴下がはけない。

▶歯科保健指導

選択肢考察

×a　「物忘れがひどい」のは認知症が疑われる。
×b　「高音が聞き取りにくい」は聴力低下であり、運動器ではない。
○c、○d　ロコモティブシンドロームとは、「運動器の障害」により「要介護になる」リスクの高い状態にあることである。「家の中でつまずきやすい」、「片脚立ちで靴下がはけない」は運動器の低下であり、ロコモティブシンドロームが疑われる。

正解　c、d

［問題　95］ 質問式による認知機能の評価法はどれか。**2つ選べ。**

a　Clinical Dementia Rating〈CDR〉
b　Functional Assessment Staging〈FAST〉
c　Mini-Mental State Examination〈MMSE〉
d　改訂長谷川式簡易知能評価スケール〈HDS-R〉

▶歯科保健指導

選択肢考察

認知症の臨床評価には様々な方法があり、質問式による認知機能の評価法には、主に改訂長谷川式簡易知能評価スケール〈HDS-R〉、Mini-Mental State Examination〈MMSE〉がある。双方とも、一般の高齢者から認知症の高齢者をスクリーニングすることを目的に作成されたものであり、認知症の中核症状である記憶障害の評価が中心となっている。また、観察式による認知機能の評価法にはCDR〈Clinical Dementia Rating〉、FAST〈Functional Assessment Staging〉などがあり、本人を直接観察することや家族・介護者からの情報により評価を行う。

× a　CDRは観察による認知機能の評価法の1つである。
× b　FASTは観察による認知機能の評価法の1つであり、ADLの障害を基準にして判定する。
○ c　MMSEは被験者に口頭による質問形式により実施される。HDS-Rより高次脳機能障害（失語・失認）に関して評価することができる。
○ d　HDS-Rは9つの項目について被験者に口頭による質問形式により実施される。

正　解　c、d

［問題　96］ 嘔吐反射がある患者への印象採得で適切なのはどれか。**2つ選べ。**

a　ファーラー位で行う。
b　表面麻酔を応用する。
c　印象材を硬めに練る。
d　上顎から印象採得を行う。

▶歯科診療補助

選択肢考察

× a　印象採得は座位で行い、鼻呼吸するよう指示する。
○ b　嘔吐反射が強い場合、表面麻酔を用いる。
○ c　硬めに練ることで、舌根部への印象材の流出を防ぐことができる。
× d　まずは下顎から行い、印象採得に慣れさせる。

正　解　b、c

［問題　97］ ノロウイルスに感染した患者が診療室の床に嘔吐した。
吐物の消毒に適しているのはどれか。1つ選べ。

a　グルタラール
b　消毒用エタノール
c　塩化ベンザルコニウム
d　次亜塩素酸ナトリウム

▶歯科診療補助

選択肢考察

○ d　ノロウイルスの消毒には次亜塩素酸ナトリウムが有効である。吐物の処理は、ディスポーザブルの防護具を着用し、ペーパータオルで拭き取るとよい。拭き取った後の床は、次亜塩素酸ナトリウムで消毒する。

正　解　d

［問題　98］ レジン添加型グラスアイオノマーセメントの液部に含まれているのはどれか。**2つ選べ。**

a　MMA
b　リン酸
c　HEMA
d　ポリアクリル酸

▶歯科診療補助

選択肢考察

× a　MMAは床用アクリルレジンの液成分であり、レジン添加型グラスアイオノマーセメントには添加されていない。
× b　リン酸はレジン添加型グラスアイオノマーセメントには添加されていない。リン酸亜鉛セメントの液部における主成分である。
○ c　レジン添加型グラスアイオノマーセメントは成形修復や小窩裂溝塡塞に用いられ、従来型グラスアイオノマーセメントの液部に2-ヒドロキシエチルメタクリレート〈HEMA〉などの親水性ビニルモノマーや光増感触媒が添加されている。
○ d　ポリアクリル酸はレジン添加型グラスアイオノマーセメントの液部における主成分である。

正　解　c、d

DH 21：P 301

［問題　99］ ウェットボンディングシステムによる歯質接着処理を行うことになった。
次に示す4つのステップのうち、3番目に行うのはどれか。1つ選べ。
a　水　洗
b　リン酸処理
c　ブロットドライ
d　プライミングアドヒーシブ塗布

▶歯科診療補助

選択肢考察

2ステップシステム（プライミングアドヒーシブシステム）では、エッチング・水洗後に酸処理象牙質面を完全に乾燥させずに、水分が存在する湿潤状態でプライミングアドヒーシブを塗布するウェットボンディングシステムを行う。
× a　水洗はリン酸処理（エッチング）の後に行うため、2番目である。
× b　リン酸処理（エッチング）は最初に行う。
○ c　歯質接着処理はエッチアンドリンスシステムとセルフエッチングシステムに分類される。エッチアンドリンスシステムは、30～40%リン酸によるエッチング・水洗後にプライミングおよびボンディングを行う従来の3ステップシステムと、プライマーとボンディング材の機能をあわせたプライミングアドヒーシブを塗布する2ステップシステムがある。ブロットドライ（完全に乾燥せず、象牙質表面を綿球で拭く程度にする）は水洗後に行うため、3番目である。
× d　プライミングアドヒーシブ塗布はブロットドライ後に行うため、4番目である。

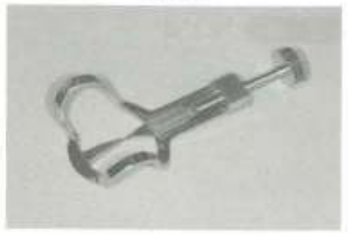
正　解　c

［問題　100］ 保存治療に用いる器具の写真（**別冊午後** No.30）を別に示す。
適応部位はどれか。1つ選べ。
a　上顎側切歯のⅤ級窩洞
b　下顎側切歯のⅢ級窩洞
c　上顎第二小臼歯のⅡ級窩洞
d　下顎第一大臼歯のⅠ級窩洞

▶歯科診療補助

選択肢考察

No.30



× a　上顎側切歯のⅤ級窩洞は隣接面を含まないため使用しない。
○ b　写真の器具はアイボリーのセパレーターである。前歯部の隣接面う蝕の視診や、接触点を含む窩洞の修復時に用いられる。歯間に楔を挿入することによって歯間が強力に離開されるために、楔が接触する歯肉などの歯周組織に傷害を与える可能性がある。下顎側切歯のⅢ級窩洞は隣接面を含む窩洞のため使用する。
× c　上顎第二小臼歯のⅡ級窩洞は隣接面を含むが、用いるのはエリオットのセパレーターである。
× d　下顎第一大臼歯のⅠ級窩洞は隣接面を含まない窩洞のため使用しない。

正　解　b

DH 21：P779

［問題　101］ 器具の写真（**別冊午後** No.31）を別に示す。
この器具を使用する目的はどれか。1つ選べ。
a　暫間被覆冠の撤去
b　余剰セメントの除去
c　歯周ポケット底の記録
d　マルチブラケット装置の撤去

▶歯科診療補助

選択肢考察

No.31

○ a　写真はクラウンリムーバーである。クラウンやブリッジの除去に用いる。
× b　余剰セメントは探針で除去する。
× c　歯周ポケット底の記録はポケットプローブを用いる。
× d　マルチブラケット装置の撤去はブラケットリムーバーを用いる。

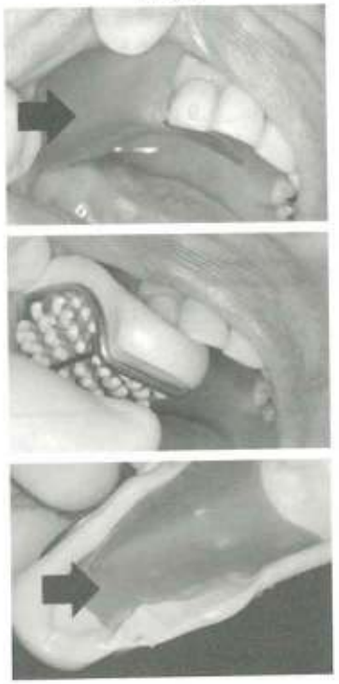
正　解　a

［問題　102］ 全部被覆冠のシリコーン印象採得時の写真（**別冊午後** No.32）を別に示す。
矢印の材料の目的はどれか。1つ選べ。
a　歯周組織の保護
b　精密印象材のスペース確保
c　支台歯部分の印象材の厚さの均一化
d　支台歯と対合歯の咬合関係の同時採得

▶歯科診療補助

選択肢考察

No.32



× a　連合印象法では支台歯のフィニッシュラインを明瞭に印象するため歯肉圧排し歯肉を押し広げる。パラフィンワックスで歯周組織を保護することはない。
○ b　写真の印象採得方法は連合印象法である。既製トレーを使用し一次印象採得を行い、確保した二次印象材を盛るスペースに流動性のある精密印象材を盛り上げ歯列に圧接する。二次印象材を盛るスペースの確保の方法には、2種類ある。1つはあらかじめ歯列にパラフィンワックスを圧接し、その上から一次印象採得を行い、印象硬化後にワックスを除去する方法である。パラフィンワックスの他にビニールシートやガーゼを用いて、スペーサーを付与する方法もある。
× c　支台歯部分の印象材の厚さの均一化は個歯トレーでなければできない。
× d　支台歯と対合歯の咬合関係を同時に採得できるのは咬合印象法であり専用の咬合印象用トレーを使用する。

正　解　b

［問題　103］補綴治療に用いる器具の写真（**別冊午後 No.33**）を別に示す。
この器具を用いた光学印象法の特徴はどれか。**2つ選べ。**
a　石膏で作業用模型を製作する。
b　嘔吐反射の強い患者に適用できる。
c　開口量の小さい患者に適用できる。
d　歯肉縁下の印象採得を容易に行える。

▶歯科診療補助

選択肢考察

No.33

×a　光学印象法は口腔内を直接スキャンし、データをネットワークで送ることで、作業用模型がなくても補綴装置を製作することができる。

○b　CAD/CAMによりクラウンを製作する場合、通法により製作した作業用模型をスキャンする方法と、光学印象法により口腔内を直接スキャンする方法がある。光学印象法では通法の印象採得や咬合採得を行わない。しかし、通法の印象採得と同様に唾液の影響を受け、歯肉縁下の印象採得も困難である。光学印象法は印象材を使用しないため、嘔吐反射の強い患者に適用できる。

○c　光学印象法はハンドピースと同じくらいの大きさの口腔内スキャナーで印象採得できるため、歯列トレーの挿入困難な開口量の小さい患者にも適用できる。

×d　光学印象法は歯肉縁下の印象採得は難しく、歯肉圧排糸を挿入し、十分に歯肉を押し広げた状態で印象採得を行う。

正解　b、c

［問題　104］生理的食塩水を1L作製することになった。
必要な塩化ナトリウム量はどれか。1つ選べ。
a　900 mg
b　0.9 g
c　9.0 g
d　90 g

▶歯科診療補助

選択肢考察

○c　生理的食塩水は0.9% NaCl溶液である。よって、9.0 gの塩化ナトリウムが必要となる。

正解　c

［問題　105］矯正用器具の写真（**別冊午後 No.34**）を別に示す。
アーチワイヤーをブラケットに結紮するのに用いるのはどれか。**2つ選べ。**
a　①
b　②
c　③
d　④

▶歯科診療補助

選択肢考察

No.34

①　②　③　④

ワイヤーの結紮に用いる器具には、ホウのプライヤー（写真②）、リガチャータイイングプライヤー（写真③）、その他にリガチャーインスツルメントなどがあげられる。

×a　①はバードビークプライヤーで、主に丸型線の屈曲に用いる。

○b　②はホウのプライヤーで、アーチワイヤーの結紮や着脱、シンチバック、エラスティックの装着などに用いる。

○c　③はリガチャータイイングプライヤーで、アーチワイヤーの結紮に用いる。

×d　④はツイードのループフォーミングプライヤーで、アーチワイヤーの屈曲やループの付与に用いる。

正解　b、c　　要点集 302：P51

［問題　106］乳歯の麻酔抜髄で根管拡大後の術式と使用薬剤・材料を図に示す。

術　式	使用薬剤・材料
根管充填	①
↓	
裏　層	酸化亜鉛ユージノールセメント
↓	
仮　封	②

正しい組合せはどれか。1つ選べ。

	①	②
a	パラホルム製剤	リン酸亜鉛セメント
b	パラホルム製剤	グラスアイオノマーセメント
c	ヨードホルム製剤	MTAセメント
d	ヨードホルム製剤	グラスアイオノマーセメント

▶歯科診療補助

選択肢考察

×a、×b　乳歯の根管充填にはパラホルム製剤は用いない。仮封材はリン酸亜鉛セメントは一般的に用いられず、グラスアイオノマーセメントが用いられる。

×c、○d　乳歯の根管充填には水酸化カルシウム製剤、ヨードホルム製剤、酸化亜鉛ユージノール製剤が一般的に用いられる。仮封材でMTAセメントは用いられない。

正解　d　　DH21：P844

［問題　107］ 体動コントロール法はどれか。1つ選べ。
　a　TSD法
　b　HOM法
　c　モデリング法
　d　トークンエコノミー法

▶歯科診療補助

選択肢考察

×a、×c、×d　TSD法、モデリング法、トークンエコノミー法は行動療法的対応法である。
○b　HOM（ハンドオーバーマウス）法は、体動コントロール法（抑制的対応法）である。

正解　b

［問題　108］ 40歳の女性。歯の痛みを主訴として盲導犬とともに来院した。先天性の視覚障害があるという。四肢の運動機能や聴覚に異常はない。歯科医師から治療室へ誘導するよう指示された。
適切な対応はどれか。1つ選べ。
　a　盲導犬に食事を与えて待たせる。
　b　患者の手でチェアを確認させる。
　c　患者の背中に手を当てて誘導する。
　d　盲導犬は院内に入れないことを伝える。

▶歯科診療補助

選択肢考察

×a　誘導中の盲導犬は飲食をしないように訓練されているため、食事を与えてはいけない。
○b　診療椅子へ移動させる際には、患者自身の手で座る場所を確認させる。
×c　背中に手を当てての誘導は患者に恐怖感を与えるため、患者のやや前を歩くようにする。
×d　盲導犬は可能な限り、患者のそばで待機させる。

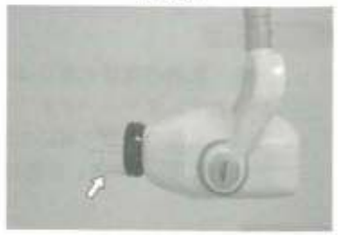
正解　b

［問題　109］ 歯科用エックス線撮影装置の一部の写真（**別冊午後** No.35）を別に示す。
矢印部の役割はどれか。1つ選べ。
　a　管電圧を調整する。
　b　撮影時間を調整する。
　c　焦点-皮膚間距離を一定に保つ。
　d　長波長のエックス線を取り除く。

▶歯科診療補助

選択肢考察

No.35



×a　歯科用エックス線写真撮影装置では、術者が管電圧を変えることはできない。
×b　撮影時間は制御器（本体）で行う。
○c　矢印部は指示用コーンである。指示用コーンにより焦点と被写体（患者）との距離を一定に保つことができる。
×d　長波長のエックス線を取り除くのは、フィルターの役割である。

正解　c　　要点集 301：P79

［問題　110］ 成人の一次救命処置で正しいのはどれか。1つ選べ。
　a　酸素を投与する。
　b　胸骨の上半分を圧迫する。
　c　呼吸の確認を10秒以上かけて行う。
　d　胸骨圧迫と人工呼吸を30対2で行う。

▶歯科診療補助

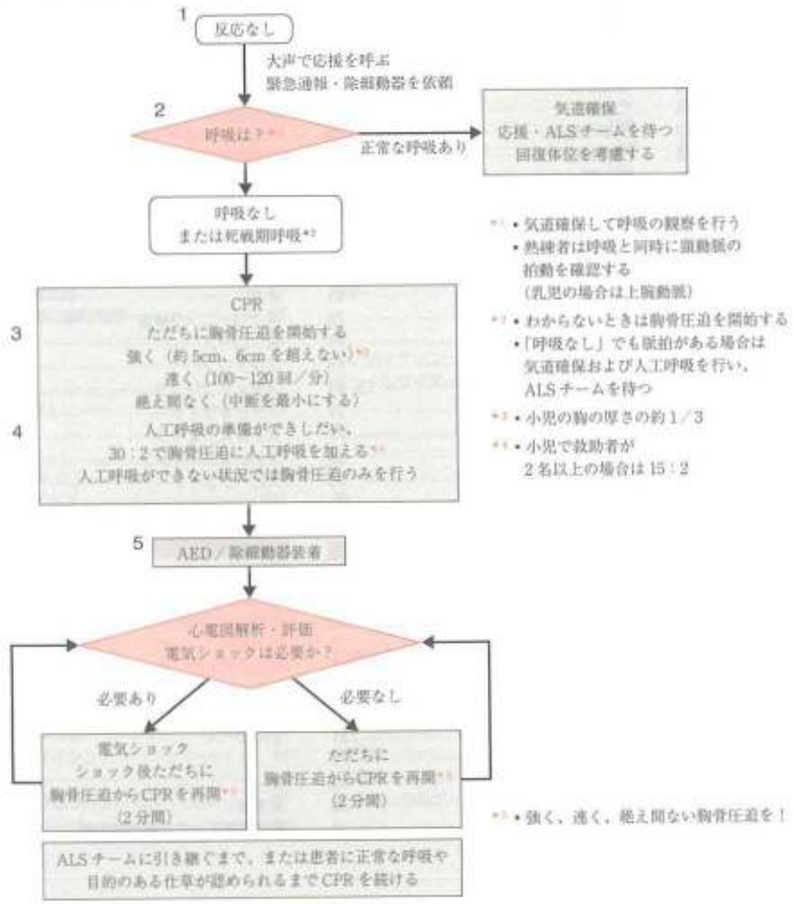
選択肢考察

救急蘇生法とは、反応障害、呼吸停止、心停止あるいはそれに近い状態に陥った人に、人為的な呼吸や循環の補助または薬物投与などを行って救命する一連の処置をいう。
突然の心停止に対して、特殊な器具や医薬品を用いることなく、医療従事者に限らず行える気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、自動体外式除細動器（AED）を用いた除細動の救急蘇生法を一次救命処置（BLS）という。また、BLSに加えて、医療従事者が器具や医薬品などを用いて行う高度な救急蘇生法を二次救命処置（ALS）という。
×a　気管挿管や酸素投与、輸液、薬剤投与はALSで行う処置である。
×b、×c　一次救命処置では胸骨の下半分を圧迫し、呼吸の確認を5秒以上10秒以内で行う。
○d　一次救命処置では胸骨圧迫と人工呼吸を30対2で行う。胸骨圧迫は1分間あたり100～120回の速度でしっかり圧迫を行う。また、処置中は胸骨圧迫の中断を10秒以内にしなければならない。

正解　d　　要点集 302：P73

要点

◉ BLS（成人の一次救命処置）アルゴリズム（2015年版）



••• 索 引 •••

あ

アーカンサスストーン…… 41
アーチワイヤーの屈曲…… 60
アイボリーのセパレーター…… 122
アスピリン…… 9, 71
アセサルフェームK…… 50
アセチルコリン…… 71
アトロピン…… 71
アペルト症候群…… 99
アマルガム修復物の除去…… 23
アミラーゼ…… 6
アラキドン酸カスケード…… 72
アルギン酸ナトリウム…… 10
アルマ・アタ宣言…… 81
安息香酸ナトリウム…… 10

い

移行上皮…… 67
一次救命処置…… 127
一次予防…… 46
インシデントレポート…… 82
インディアストーン…… 41
インフォームド・コンセント…… 20

う

ウェットボンディングシステム…… 56, 122
うつ病…… 33

え

エキスカベーター…… 59
エックス線…… 84
エックス線画像の像の歪みの原因…… 62
エックス線撮影装置…… 126
エビデンスレベル…… 16
エリスロポエチン…… 67
塩化ベンザルコニウム…… 55
炎症の5大徴候 …… 69

お

横顔裂…… 69
嘔吐反射…… 120
オールセラミッククラウン…… 27
オタワ憲章…… 81
オフロキサシン…… 95
オリゴ糖…… 50
温熱感覚の要素…… 79

か

介護給付費…… 77
介護支援専門員の業務…… 18
介護保険制度…… 81
外傷性咬合…… 90
カウント法…… 112
顎関節症の病態分類…… 94
顎舌骨筋…… 66
確定的影響…… 22
嫌気性菌症…… 8
確率的影響…… 22
ガストリン…… 67
学校保健統計調査…… 15
カップリングシュガー…… 50
窩洞形成…… 57
ガムリトラクター…… 86
カリオスタット® …… 42
感染根管治療…… 87

き

器質性構音障害…… 48
基本チェックリスト…… 109
急性壊疽性歯髄炎…… 24
急性化膿性根尖性歯周炎…… 7
急性化膿性歯髄炎…… 88
禁煙…… 8
禁煙…… 50

く

空腹時血糖…… 83
クラウンセッター…… 93
クラウンリムーバー…… 123
グリコーゲン…… 68
クルーゾン症候群…… 99
グルコース…… 68
グレーシータイプキュレット…… 105
クレフト…… 102
クワドヘリックス…… 97

け

経口栄養法…… 100
形質細胞…… 70
経腸栄養法…… 34
血小板…… 8
血糖値…… 83
ケトン体…… 83
検疫…… 16
健康増進法…… 80
健康日本21（第二次）…… 76

こ

構音訓練…… 52
口唇裂…… 69
光学印象法…… 124
交感神経…… 6
咬合器…… 59
口臭…… 36
口唇裂…… 69
好中球…… 7, 70
誤嚥…… 34
ゴードンのプライヤー…… 61
国際生活機能分類…… 78
黒色色素産生菌…… 71
国勢調査…… 15
国民健康・栄養調査…… 15, 49
コブリック説…… 29
コホート研究…… 77
コラーゲンの合成…… 68
コンタクトゲージ…… 93
コンプトン効果…… 84

さ

サクソンテスト…… 28
産業廃棄物管理票…… 15
三叉神経…… 68
酸蝕症…… 73
残留嚢胞…… 94

し

次亜塩素酸ナトリウム…… 121
ジアゼパム…… 71
シーラント材…… 42
シェーグレン症候群…… 35
歯科衛生士法…… 18
歯科疾患実態調査…… 12, 15
歯間ブラシ…… 47
シクロスポリン…… 37
歯垢染色の特徴…… 103
歯根嚢胞…… 94
歯周基本治療…… 102
歯周病の活動度…… 37
指示用コーン…… 126
歯髄炎と根尖性歯周炎の鑑別…… 88
ジスキネジア…… 21
システマティックレビュー…… 16
磁性アタッチメント…… 92
歯槽基底弓幅径…… 96
歯体移動…… 31
指導…… 48
児童虐待…… 113
児童福祉法…… 17
歯内歯…… 3
歯肉結合組織移植術…… 25, 91
歯肉弁根尖側移動術…… 25
自閉スペクトラム症…… 100
ジメチルサルファイド…… 36
斜臍裂…… 69
種子骨…… 30
樹状細胞…… 70
順序尺度…… 82
障害高齢者の日常生活自立度判定基準 …… 111
上顎突起…… 69
硝酸カリウム…… 10
小児薬用量の算定…… 9
食事摂取基準…… 51, 116
食物形態に対する助言…… 54
シリコーンゴム印象材…… 22
シルマー試験…… 28
神経筋接合部…… 5
伸張反射…… 4

す

水酸化カルシウム製剤…… 32
垂直感染…… 80
水痘…… 70
スクリーニング検査…… 13
スクロース…… 68
スタテリン…… 6
スティップリング…… 102
ステビオサイド…… 50
ストレスチェック…… 81
ストレプトマイシン…… 95
スピーチエイド…… 95, 101

せ

生理的口臭…… 115
セカンドオピニオン…… 20, 79
舌圧測定検査…… 119
舌咽神経…… 68
舌下神経…… 68
舌接触補助床…… 54
舌抵抗訓練…… 52
セラミックストーン…… 41
セルロース…… 68

そ

双生歯…… 3
側面頭部エックス線規格写真…… 97

た

ターナー歯…… 32
ターミナルプレーン…… 83
帯状疱疹…… 29
体動コントロール法…… 126
ダウン症候群…… 99
炭酸水素ナトリウム…… 103
探針…… 93

ち

チャーターズ法…… 10
直接訓練…… 117

つ

ツイード…… 60
ツイードのループフォーミングプライヤー …… 125

て

手足口病…… 29, 70
ディスタルエンドカッター…… 31
テストステロン…… 67
テトラサイクリン…… 9
てんかん発作…… 63
テンションリッジ…… 102
デンタルフロス…… 47
デンティンブリッジ…… 32

と

透照診…… 23
トップルマイヤーのマトリックスリテーナー…… 56
トリーチャー・コリンズ症候群…… 99
トルク…… 30

な

内側鼻突起…… 69
軟口蓋挙上装置…… 95
難抜歯…… 60

に

二重咬合印象法…… 22
ニフェジピン…… 37
乳歯の歯髄保存療法…… 32
乳歯の麻酔抜髄…… 125
乳歯用既製冠…… 62
妊娠末期の歯科治療…… 55
認知症…… 33

ね

ネグレクト…… 113

の

脳性麻痺…… 35
ノロウイルス…… 121

は

バードビークプライヤー…… 125
白板症…… 29
パターナリズム…… 20
ハッチンソン歯…… 32
歯のフッ素症…… 75
歯の萌出…… 11
パラチノース…… 50
パラトグラム…… 27
バンコマイシン…… 95
斑状歯…… 75
バントグラフ…… 27
バンドループ…… 98

ひ

ピエール・ロバン症候群…… 35
鼻口蓋管嚢胞…… 94
肥満細胞…… 70
ピロカルピン…… 37

ふ

フェイスボウ…… 26
フェストゥーン…… 102
フェニトイン…… 37
副神経…… 68
浮腫…… 5
フッ化第一スズ…… 43
フッ化物歯面塗布の時期…… 107
フッ素の急性中毒量…… 43
ブラークリテンションファクター…… 103
ブラジキニン…… 72
フラップ手術…… 25, 26, 89
ブランマー・ビンソン症候群…… 35
フルニエ歯…… 32
フレイル…… 44
プレウェッジ…… 24, 85
プローイング検査…… 101
プロスタグランジン…… 72
プロフェッショナリズム…… 20
フロントポジション…… 40

へ

ペニシリン…… 9
ペリクル…… 106
ヘルシンキ宣言…… 81
ヘルスプロモーション…… 14
ヘルパンギーナ…… 70

ほ

ホウのプライヤー…… 125
歩行介助…… 62
母指尺側種子骨…… 30
補助的口腔清掃用具…… 108
哺乳瓶う蝕…… 98
ポリアクリル酸…… 121
ポンティック…… 28
ポンティック基底面の清掃…… 114

ま

麻疹…… 29, 70

み

ミノサイクリン…… 95
ミュールライターの三徴候…… 66

む

ムチン…… 6

め

メインテナンス…… 105
メジャリングデバイス…… 93
メタボリックシンドローム…… 45
メチルメルカプタン…… 36
メラトニン…… 67

や

薬物性歯肉増殖症…… 37

ゆ

癒合歯…… 3
癒着歯…… 3
ユニバーサルタイプキュレット…… 104

ら

ラウリル硫酸ナトリウム…… 10
ラミネートベニア…… 27
ラムゼーハント症候群…… 35

り

リガチャータイイングプライヤー…… 125
リガフェーデ病…… 113
リスボン宣言…… 81
リゾチーム…… 6
リドカイン…… 71
離乳食…… 117
リペース…… 27
リポコルチン…… 72
流行性耳下腺炎…… 29
リライン…… 27
臨床試験…… 72

る

類皮嚢胞…… 94
ルビーストーン…… 41

れ

レスポンスコスト法…… 112
連合印象法…… 123
レンツロ…… 58

ろ

ローリング法…… 10
ロキソプロフェンナトリウム…… 72
ロコモティブシンドローム…… 119

わ

ワイヤーの結紮…… 125
ワルファリン…… 9

数字

3歳児歯科健康診査…… 76

A～Z

A

Actinomyces viscosus …… 71
Actinomyces israelii …… 8
Aggregatibacter actinomycetemcomitans …… 8
Augsbergerの式 …… 9

B

BOR指標 …… 61
BI …… 114
BMI…… 45
B細胞…… 70

C

CDR …… 120
CPI…… 104

D

Dentocult®-LB …… 42
DI …… 38
DMAT …… 14

E

EAT-10 …… 53
ENAP …… 25, 102

F

FAST…… 120
FIM…… 114